# 弘前大学農学生命科学部・農学生命科学研究科 平成 26 年度 教育改善に向けたアンケート調査 報 告 書



平成 27 年 12 月 21 日

弘前大学農学生命科学部 自己評価委員会

### 巻頭言

#### 農学生命科学部長 佐々木 長市

平成14年度に開始された「卒業生を対象としたアンケート調査」が今年で12回目となりました。 学部では、自己評価委員会が解析の労を執り、教育改善委員会とともに検討し、構成員に有意義な 情報を開示し、FDを毎年実施しております。この報告は、各教員の共通の悩みの解決策や学部の教 育研究に対する改善点などを我々に示してくれています。

近年、「講義・授業方法、学生への教育指導方法の改善・工夫方法」についての検討は日常的に行われています。本学部においても、年に数回の開催が恒例となっております。このアンケートでは、大学院の教育のあり方や教員の教育に対する考え方を聞くという他に例を見ない「教員対象教育評価アンケート」もなされていることが大きな特色であります。さらに、毎年欠かさず「卒業生を対象としたアンケート調査」の結果報告会が開催され、委員会による分析結果に対して学部教員相互の意見交換が行われていることも特筆すべき取り組みであると思います。

大学及び学部も学生に対する教育の質の向上を図るため、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーそしてディプロマポリシーの公開と、この方針に従った教育実施を目指しています。これら方針の認識のもとに教育が実施されてこそ、初めて大学あるいは農学生命科学部らしい個性的な教育の深遠化が進むものと推察されます。こうした認識を学部共通のものとし、教育の改革を進める一助にこの取り組みは大いに貢献しているでしょう。

大学としては、佐藤学長のリーダーシップのもと、教育の充実と国際化が大学としての目指すべき方向となっています。学部としても、教育のますますの充実は意を同一にしているところです。 平成28年度からは、新しい学部となり、新旧学部教育過程が混在することになります。新学部では、

「国際化」や「食」の強化が打ち出されます。しかしながら、継続して「教育内容及び方法」の検討は、このアンケート結果により確認され、学生に還元されていくと考えております。今後も「教育の質の向上」や、その達成度の評価の問題を議論する場合、また学部の教育研究目標が時代のニーズに適合したものかなどの評価を実施する際に、「卒業生を対象としたアンケート調査」の毎年の結果はますます重要となるでしょう。

平成28年度6月には、文部科学省から学部・研究科「第2期中期目標期間の教育研究の状況についての評価」のための実績報告書の提出が求められております。平成22年から平成27年度までの業務の実績に関する報告書作成に際し、この「卒業生を対象としたアンケート調査」は極めて重要であり、継続して取り組むことの意義を痛感しております。これまで以上に、これらの結果が本学部/研究科の教育の充実のために積極的に活用されることを期待いたします。

最後に、本調査に対し、労をいとわずとりまとめてくださった自己評価委員の各位に深甚なる謝 意を表したいと思います。

## 目次

巻頭言1
はしがき
I.学部卒業時学生対象 教育評価アンケート4
1. アンケート調査内容
2. 調査結果
Ⅱ. 研究科修了時学生対象教育評価アンケート75
1. アンケート調査内容75
2. 調査結果
Ⅲ. 教員対象授業アンケート(学部授業および研究科授業)102
1. アンケート調査内容102
2. 学部授業に関する調査結果105
3. 研究科授業に関する調査結果113
IV 教員対象教育評価アンケート122
1. アンケート調査内容122
2. 調査結果
V. アンケート調査結果に対する各学科の見解145
生物学科145
分子生命科学科145
生物資源学科147
園芸農学科148
地域環境工学科148
VI. 教育改善委員会(平成26年度教育改善にむけたアンケート調査についての意見).151
学部卒業時・研究科修了時学生対象教育評価アンケートについて151
教員対象授業アンケートについて
教員対象教育評価アンケートについて153

## はしがき

農学生命科学部の自己評価委員会は、学部ならびに研究科の教育の適正化、カリキュラムの改善などを目的に、学部4年の卒業予定学生及び研究科2年修了予定学生を対象にした授業評価と、各教員を対象とした専門科目の授業評価についてアンケート調査を実施してきた。平成14年度(15年2月実施)以降、これまで11回行われ、今回は第12回目である。平成17年度からの調査では、それ以前の内容に加えて学生と教員を対象として教育評価アンケートを実施している。そのアンケートにおいては、学生および教員対象の各アンケートに同種の質問項目を設けており、学生と教員との間における意識の相違についても読み取れる。本年度もこれまでのアンケートとの継続性に配慮し、それらの内容を踏襲して次の4種類とした。

- I. 学部卒業時学生対象教育評価アンケート
- Ⅱ. 研究科修了時学生対象教育評価アンケート(4 専攻から1 専攻5 コースへと改組後、2 回目の修了生が対象)
- Ⅲ. 教員対象授業評価アンケート ・学部授業に関する調査 ・研究科授業に関する調査
- Ⅳ. 教員対象教育評価アンケート

各アンケートの設問内容は、それぞれのアンケート調査結果の冒頭に示した。設問は主に選択肢の中から1つを選ぶものと、その回答理由を記述させるもので構成した。選択肢として、「強くそう思う」、「そう思う」、「どちらとも言えない」、「そう思わない」、「全くそう思わない」等の5段階を設定した場合は、順に $1\sim5$ の番号を付して選択するものとした。設問の回答に関する分析では、「強くそう思う」と「そう思う」を併せて「肯定的な評価」とし、「そう思わない」と「全くそう思わない」を併せて「否定的な評価」とした。また、学生の回答理由の記述は、明らかな誤字や個人名以外は、できるだけ原文のまま箇条書きで記し、各学生が選んだ選択肢番号を行頭に付し、学科あるいはコース別に記載した。

本アンケートの設問の設定については、昨年度と同様大きな変更はせず、設問の趣旨が的確に 受け取られるような範囲の変更にとどめている。これは、本報告書の内容は、教育改善や組織評 価等に活用されると想定され、さまざまな取り組みの成果や問題点の把握を可能にする経時的デ ータの役割もあると考えたためである。

本アンケートの結果は教育改善に活用されるべきことから,昨年度と同様に教育改善委員会と 各学科の学科長にも本報告(案)の一読を願い、それに対する見解、意見を提出してもらい、本報 告の最後に掲載した。

今回の卒業・修了時学生によるアンケート結果にも、本学部・研究科の授業や教員の教育方法 に対して厳しい意見や、教育体制に関する建設的な意見が数多く含まれている。関係各位および 教育改善委員会におかれては、カリキュラムの教育内容や方法の改善のためにはもちろん、教育 体制の充実を図るためにも、それらを大いに参考にされることを望む。

#### I.学部卒業時学生対象 教育評価アンケート

#### 1. アンケート調査内容

調査目的:農学生命科学部の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため、4年間この学部で 教育を受け、今まさに卒業しようとしている学生を対象に、学部教育について総合 的な評価を得ることを目的とした。

調査方法:指導教員をとおして研究室所属の学生にアンケート用紙を配布し,無記名方式で行った。回収は正面玄関に設置した回収箱で行った。

調査対象:平成27年3月学部卒業予定者171名

調査期間:平成27年1月19日~2月6日 有効回答者数:157名 (回答率91.8%)

調査項目:設問は以下のとおりである。(ただし、下記の[]の項目名は、回答結果の分析にあたってグループ化のために設けたものである。)

設問 1. あなたの所属学科をお答えください。

[学部・学科の教育目標等の認識]

設問 2. 本学部の教育理念,教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3. あなたが所属する学科の教育目標および入学者受入れ方針(アドミッションポリシー) を知っていますか。

(1) 教育目標について (2) アドミッションポリシーについて

#### 設問 4.

- (1) あなたが所属する学科の教育目標は添付資料の通りですが、学科のカリキュラム (21世 紀教育科目および専門教育科目) はその目標に合致していると思いますか。
- (2)上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

#### 「学科の専門教育について]

設問 5. 本学部では年度初めに学年毎にガイダンスを行っていますが、ガイダンスの内容は適切だったと思いますか。

設問 6. シラバスは受講科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。 設問 7.

- (1) あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか。
- (2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

#### [教員の指導について]

#### 設問 8.

- (1) 所属する学科の教員の,講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応に満足していますか (卒業研究については設問 15 で別に聞きます)。
- (2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。
- 設問 9. 履修した科目の成績評価について質問します。
  - (1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。
  - (2) 疑問や異議があったときは、学部教務に「成績評価の問い合わせ」を提出し問い合わせできることになっていますが、あなたはそれをしましたか。した場合、その回答に満足しましたか。具体的に記入して下さい。

### [学生の主体的学習について]

設問 10. 講義や演習の受講に当たり、あなたは1日平均どの程度の時間を予習や復習に当てましたか。教員が課した課題に対するレポート作成に要した時間も含みます。

設問 11. 大学教育では、学生自身の主体的、意欲的な学習が要求されます。

- (1) あなたは講義に対してどのような姿勢で取り組みましたか。
- (2) 実験・実習についてはどうですか。
- (3) 大学在学中のカリキュラム (21 世紀教育も含む) の中で、もっとも印象に残った科目があれば、その科目名と理由を記入して下さい。

それぞれについて簡潔に記入して下さい。

#### [学生への教育支援,施設・設備について]

設問 12. 本学部や本学では皆さんに助言したり、皆さんからの相談・苦情を受け付けたり、皆さんのニーズを把握するために、下記のような 10 のルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)~(3)の項目について主にどれを利用しましたか。( ) 内に番号を記入して下さい。(1) 学業(2) 学生生活(2) 学生生活(3) 進路(3) 進路(3)

設問 13. 本学部図書閲覧室の利用について質問します。

- (1) あなたは在学期間を通して、平均どのくらい利用しましたか。
- (2) 以下の項目について、どのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。 設問 14. 本学部の以下の施設について、どのように感じていますか。
  - (1) 下表の該当する欄に○を書き込んで下さい。
  - (2) 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

#### [卒業研究について]

#### 設問 15.

- (1) 卒業研究を行ったことに満足していますか。
- (2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

#### 設問 16.

- (1) あなたの卒業後の進路は次のどれですか。
- (2) 本学部のカリキュラムで学んだことは、進路の決定にどのように影響しましたか。
- (3) 本学および本学部の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

#### [本学部の教育のあり方について]

## 設問 17.

- (1) あなたが本学部を卒業するに当たり、大学卒業者に相応の知識や学力を身に付けたと感じていますか(大学卒業者に相応の知識・学力は自分のイメージしたもので結構です)。
- (2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

#### 設問 18.

- (1) 本学部の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を, 次の項目の中から一つを選んで下さい。
- (2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

#### 設問 19.

(1) 総合的に判断して、本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

#### 2. 調査結果

設問 1. あなたの所属学科をお答えください。

表 I-1. 各学科の卒業生と回答者数の推移

	H26 年度			H25 年度			H24 年度		
	卒業生	回答者	回答率	卒業生	回答者	回答率	卒業生	回答者	回答率
	数	数	(%)	数	数	(%)	数	数	(%)
生物学科	38	33	86.8	42	32	76	43	28	65
分子生命科学科	35	31	88.6	36	23	64	45	26	58
生物資源学科	34	30	88. 2	35	25	71	41	24	59
園芸農学科	38	38	100.0	39	20	51	44	31	70
地域環境工学科	26	25	96. 2	27	21	78	30	19	63
合 計	157	171	91.8	179	121	68	210	132	63

平成 26 年度の卒業予定学生 171 名のうち、回答者は 157 名、回答率は 91.8%であり、過去に比べ飛躍的に上昇した。学科間の差異が大きかったので、アンケート配布前に学生への依頼・通知方法について経験を交流する必要がある。

#### [学部・学科の教育目標等の認識について]

#### 設問 2. 本学部の教育理念、教育目的および教育目標を知っていますか。

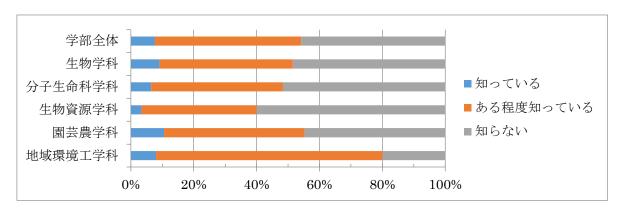


図 I-1. 理念、教育目的および教育目標の認識

学部全体で見ると、「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 50%強で、過去 2 年と 比べて変化はない。しかしながら、地域環境工学科が顕著に上昇したのに対し、生物資源学科が 大幅減少するなど、学科間の差が依然大きい。各学科が教育理念の説明方法について経験交流す る必要があると考えられる。

## 設問 3. あなたが所属する学科の教育目標および入学者受入れ方針(アドミッションポリシー) を知っていますか。

#### (1) 教育目標について

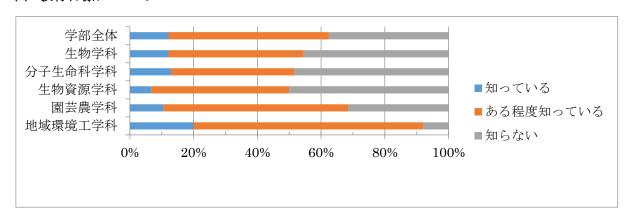


図 I-2. 学科の教育目標の認識

学部全体では、「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 60%強で、昨年度と同様であった。しかしながら、地域環境工学科と園芸農学科が顕著に上昇したのに対し、他の3学科がやや減少するなど、学科間の差が増大している。各学科が教育目標の説明方法について経験交流する必要があると考えられる。

#### (2) アドミッションポリシーについて

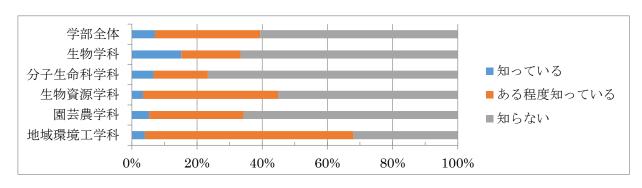


図 I-3. 学科の入学者受け入れ方針の認識

学部全体では、「知っている」と「ある程度知っている」の合計は40%弱であり、昨年度とほぼ同程度である。学科別では、地域環境工学科が68%で最も高く、分子生命科学科は23%で最も低く、学科間の差が昨年に比べ大きかった。

## 設問 4.(1)あなたが所属する学科の教育目標は添付資料の通りですが、学科のカリキュラム(21世紀教育科目および専門教育科目)はその目標に合致していると思いますか。

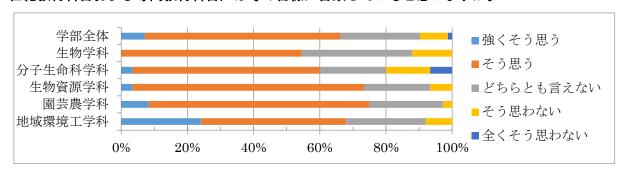


図 I-4. 学科の教育目標とカリキュラムの合致

学部全体で見ると、肯定的な評価が 66%強で、昨年度より約 5%減少した。否定的な意見は分子生命科学科が最も多く、園芸農学科が最も少なかった。

#### (2)上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

#### 【生物学科】

- 2 実習によって紙上でなく実際の森林や川に行き、植物や生物の説明を受けることが出来たから。
- 2 直感。
- 2 青森にいるから学べることを多く学べたと思う。
- 2 専門科目は、とても合致しているが、21世紀教育科目は、学科の教育目標には合致していない。しかし、21世紀科目は、さまざまな分野を学べてとてもよかった。
- 2 教育目標に沿った講義が概ねカバーされていた。
- 2 生物に関する講義が多く、白神山地に行く機会も多くあった。
- 2 合致している授業とそうでない授業があったから。
- 2 21世紀教育は、自分の専門分野以外のことも学べたため良かった。専門もおおむね教育目標に合致していたとおもう。
- 2 ゼミ配属までに生態コース、基礎コースのどちらの学生にもミクロからマクロな概念等を繰り返し様々な講義で行うので、イヤでも。
- 2 授業科目がその内容に合致しているから。
- 2 多分野の基礎がちゃんと学べるようにされていたから。
- 2 入学前に考えていた専門教育のイメージと授業の内容が合致していたので、そう思いました。
- 2 教育目標にあるような知識を身につけることができたから。
- 2 専門科目では、学科の教育目標に添い、生物の基礎知識を学べるが、対して 21 世紀教育科目では、文系科目、テーマ科目等の導入により、生物学の実習に多少支障が生じているとかんじたため。
- 2 白神山地での実習や臨海実習をはじめ、生物学を肌で感じ学ぶ事ができたから。

- 2 必要な分野の知識をおさえつつ、学生側に科目の選択肢をある程度与えられているから。
- 2 広い分野であるから全てを深く学ぶことは出来なかったけど、先生方の各専門分野について 一通り学ぶ事は出来たと思う。
- 3 先生によって対応が大きく異なるため、どちらとも言えないです。
- 3 自分が教育目標に合うように成長できたか分からないから。
- 3 21 世紀教育科目は、専門分野というよりも自分の知識を広げる目的があると思うため、教育目標内の基礎(土台)を作るものととらえると合致していると思う。しかし、専門教育科目は、専門的すぎて他の専門とどう結びつけたらいいかわからないものもあった。これにより、複合的理解や応用的視野があまり深まらない気がする。
- 3 基礎から応用へは、そうだと思うが、環境保全にあまり寄与しているとは思えない。
- 3 このような目標に合致している授業もあれば、そうでない授業もあるため。
- 3 無難になるよういろいろな要素をつめこみすぎていて、よく分からない。もっと簡潔に分かりやすくした方がよいと思う。
- 3 基礎生物分野の内容は充実していたが、マクロは部分(進化、生態)の内容が比較的少なかったと思う。
- 4 生態コース中心の目標に思える。
- 4 各授業のつながりが感じられない。
- 4 動物と植物に偏りがある。
- 4 農学と生命科学分野とは、どんな学問が含まれる分野なのか。生物学科は、基礎生物コースと生態環境コースにわかれているが、基礎コースの学生は、生態コースに関する基礎的な知識をすらもっていないし、その逆もしかりである。このような偏りがあるのにもかかわらず「生命科学分野(と農学)の知識を身につけた学生を育成している」とはいえないのではないか。

#### 【分子生命科学科】

- 2 バイオテクノロジーのみならず、物理、情報化学などの周辺学問を取り入れ、広域にわたる 講義カリキュラムを構築しているため。
- 2 合致したカリキュラムを受けたと感じたから。
- 2 教育目標と合致している科目名の講義があるから。しかし範囲は少ないように思えた。
- 2 そのような分野の講義を受けてきたと思うから。
- 2 教育目標の内容に応じた講義が開講されている。
- 2 添付資料に書かれているような授業は必修や選択必修でとることになっているので合致して いると思う。
- 2 パソコンで解析など、資料の探し方等、使い方をもっと活用的な方法で教えて欲しかったと思います。
- 2 そう感じたから。
- 2 生化学系の授業が中心であったため。
- 2 卒業研究を通して、より専門的知識を学べ、また、それが未知であったため。
- 2 学科の教育目標に記述されている学問については、必須科目または選択必須科目になっているものが多いため、それらについては多数の学生が学ぶことが出来たと思うが、次世代の有

効資源利用・資源開発に貢献する人材の育成につながっているとは思えない。

- 2 専門教育科目に関しては合致していると思ったため。
- 2 カリキュラムに書いてあるから。
- 2 生化学・分子生物学は、I・Ⅱ等分けることにより、より詳しく学ぶ事ができた。
- 3 深く考えたことがなかった。
- 3 遺伝子工学や糖鎖工学といった講義はあるが、最先端のことを学べている訳でも無く、人材 育成と行った大それたことを言えるような内容でもないと思うため。
- 3 よくわからない。
- 3 わからなかったので。
- 3 「バイオマス等の・・・」のところで、あまりこれから何をしていくことが必要かなどの応用の授業はなかった気がする。しかし、基礎・基本についてはかなり教えていただいた気がする。
- 4 21 世紀教育科目と専門教育科目とで関連性があったりなかったりなど差が大きいため、基礎教育で学べ得たことを応用して専門科目に活かすことが難しいので、その目標に到達できるとは思わなかったため。
- 4 目標が学部生にとっては高すぎるように思えるから。
- 4 学習範囲があまりに広すぎて、知識として身につかない。
- 4 科目的には、学ぶ分野を網羅していると思う。しかし、最先端かというとそうとはいいきれないし、生物は多種多様な物で、生物によって代謝や遺伝子発現というような生命活動も多岐にわたっているため、完全とは言いがたい。
- 5 研究室への配属が学部3年次の後期は遅すぎるため。

#### 【生物資源学科】

- 1 授業で実際に、学科の教育目標と一致する内容について学ぶから。
- 2 農業の周辺知識について学ぶことはできた。
- 2 講義内容は、教育目標に合致していると思います。しかし、できることなら、2 学年から多く の選択専門科目を受講できるとなおよかったと思います。
- 2 授業で同じようなことをやったから。
- 2 教育目標の分野の基礎的な内容は十分学べると思う。
- 2 教育目標に対応した講義が必修科目だから。
- 2 添付資料の内容の授業内容が行われたから。
- 2 講義の内容が目標と合致していると感じたから。
- 2 教育目標に書かれた通りのカリキュラムが組まれているためです。
- 2 教育目標に沿った授業や実験を実施しているから。
- 2 食品については、非常に多岐にわたる専門授業が組み込まれていたし、農業について深く知識を深めることができた。
- 2 植物病理学等他学科にはない科目が学べ、育種にもつながって行くと思うから。
- 2 各分野を幅広く学ぶ事で、様々な可能性を見出せるから(以外とこの分野が楽しいなど)。
- 2 ひととおり専門教科を学習するカリキュラムになっているから。
- 2 目標に合致しているカリキュラムではる。むしろ合致しすぎていて、選択の幅が狭くなって

- いる気がする。
- 2 専門教育科目に関しては、各分野の研究室に配属になるまでに必要な知識を提供していると思うから。
- 2 資料の通りの科目を受けることができたから。
- 3 よくわからなかった。
- 3 21世紀教育科目が学科での内容とまったく異なる場合もあるから。
- 3 カリキュラム自体は、教育目標に合わせているとおもうが、身につくかどうかは分からない。
- 3 それぞれの専門教育科目がそれほど多くはないので、幅広い知識が身につくとは言えないと 思うから。
- 4 21 世紀教育科目におけるテーマ科目は合致してないものが半数以上あり、目標に添ったものを中心に選択させた方がよい。
- 4 資料で食品のことを勉強できるって書いてあるにもかかわらず、生物資源学科での研究室で 食品を扱っているゼミが少ない。

#### 【園芸農学科】

- 1 農業について幅広く学ぶことができたから。
- 1 必修科目、選択科目も含め教育目標通り、農業について幅広く学ぶことができたと感じるから。
- 1 専門教育科目は目標通りのタイトルのものばかりで、内容もそれに準じていたため。
- 2 他学科の授業も含め、色々な講義を受けやすかったため。
- 2 幅広い分野に関しての授業があるので、それに伴って私も多方面の知識が身についたと思う
- 2 浅くではあるが、農業全体を学ぶことができたから。
- 2 幅広くそのような (花卉や畜産) 知識を得たと思う。しかし、悪く言えば、浅い知識留まりに なってしまうおそれも。
- 2 農学から農業経済まで学べたから。
- 2 実際の講義、学習を振り返ると目標に合致していると感じたため。
- 2 地域の実態から座学で学べるなど幅広く勉強・体験できたため。
- 2 幅広く農業を学んでいる所がそう思った。
- 2 生産から流通まで広いジャンルの授業があるし、個々で見ても詳細な所までカバーしている 授業が多いから。
- 2 幅広い分野を多面的に見ることができる授業が多かったから。
- 2 ある程度受入が限られているとはいえ、他学科の専門に興味があり、日程もあえば授業が受けられるため。
- 2 分野の異なる科目も選択でき、興味のある教科も自分に選択可能であるから。
- 3 全く関係ない分野を選択する学生がいるため。
- 3 21 世紀教育は受講していないので分かりませんが、3/4 年次の講義に関しては、合致していると思う。
- 3 学生の自己裁量にまかされた。講義選択の幅が多すぎる。学科で学ぶこととなる科目の前段 階となる講義を必修あつかいにすべきだとおもう。

4 1~2 年次に、もっと経営経済流通に関する講義を設置した方が、ゼミ選択の際の材料が増えるとおもう。

#### 【地域環境工学科】

- 1 授業のバリエーション広さと内容から。
- 1 きちんと勉強していけば、確実に目標に近づくためのステップアップにつながっている。
- 1 講義ごとに、しっかりと教育目標を最初に説明し、それに沿って授業を行っていると思うから。
- 1 土木技術者に必要な知識をしっかりと学ぶことができたから。
- 1 他の学科では学ばないような高度な授業ばかりだったから
- 2 専門科目が強く専門性があると思うから。
- 2 農業土木だけでなく、生態系や山間地のことなど、幅広い分野の授業があるから
- 2 とくに不備はないと思います。
- 2 知識が増えたから。
- 2 農業土木に関して必要な知識を幅広く授業で取り扱っていると思う。実際に授業で学んだことを体験できるため、より理解度が深まったと思う。
- 2 学科の教育目標の通り、農業土木技術者になるための幅広い経験を積むことが私自身できたと思っているため。
- 2 カリキュラム通りであると、受けてみて実感した。
- 2 農業土木に関する知識技術を十分に得ることができると思うから。
- 2 授業で土木関連施設について学んだため。
- 3 どうしてその勉強をしていて、どうつながるのか説明がほぼ(ほとんど)ないので、技術者を ちゃんと育成しているのか疑問に思う。
- 3 ある程度の必要であろう知識を得られるため。
- 3 目的に沿った科目が少ない。
- 3 適しているものもあるが、21 世紀科目の履修を推奨されている科目によっては適していない というか必要ないものもある。
- 3 授業の力の入れ方が先生ごとで違う。
- 4 21 世紀科目の分を専門科目にまわしてもらいたかったから。

## [学科の専門教育について]

# 設問 5. 本学部では年度初めに学年毎にガイダンスを行っていますが、ガイダンスの内容は適切だったと思いますか。

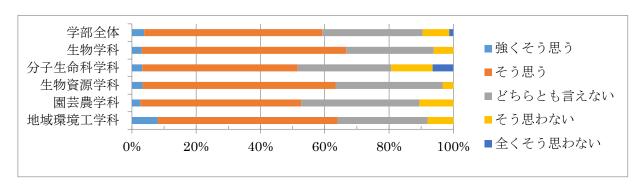


図 I-5. ガイダンス内容が適切だったか

学部全体では、肯定的な意見の割合は昨年度よりやや減少した。生物学科は肯定的な評価が最も多く、地域環境工学科が昨年度より大幅減少した。卒業単位に必要な科目はコースによっても異なるため、ガイダンスの説明には、さらに工夫が必要と考えられる。

## 設問 6. シラバスは受講科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

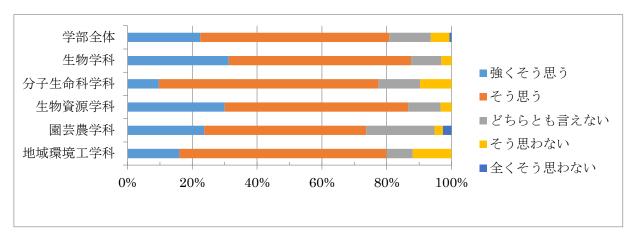


図 I-6. シラバスは役立ったか

学部全体では肯定的な意見は昨年度よりやや減少しているが、80%以上で多かった。全学科とも減少しているが、生物資源学科の減少幅が大きかった。シラバスの内容をさらに充実する必要がある。

#### 設問 7. (1) あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか。

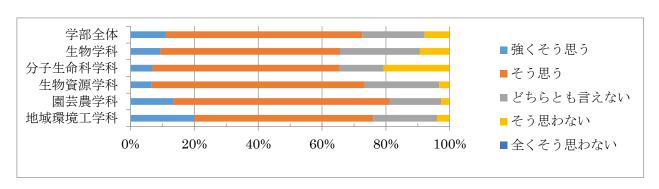


図 I - 7. あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか

学部全体では、肯定的意見が73%であり昨年と同様であった。分子生命科学科に否定的意見が最も多く、生物資源学科に「どちらともいえない」との答えが最も多かった。

## (2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

#### 【生物学科】

- 1 各分野の先生のお話が聞けたから。
- 1 先生方が質問や疑問に対して快く解答していただけたので、とても身につきました。
- 1 様々な講義を受け、自分のこれから学びたい分野の知見の広がりにつながったため
- 2 不満がないから。
- 2 多くの知識を得たと感じているから。
- 2 様々な知識と技術を学ぶ事ができたからです。
- 2 受けたいと思う科目が多かった。
- 2 生態学について、さらに深く学びたかった。
- 2 生態系に関する授業が少なかったので、もう少しあるといいと思いました。あと動物系も増 やしてほしい。
- 2 実験室での実験のみならず、農学生命科学概論や農場実習、野外実習などのフィールドで活動出来る機会も多くて良かった。
- 2 専門的な内容をさらに詳しく学べる点は望ましい。ただ、受講できる学年が限られているのは学習の妨げになる。
- 2 おもしろい授業は多いが、受けるための制限があるため。
- 2 生物学系の実験に関して、一通り学ぶことができたし、自分の新たな可能性(研究にむいているかもしれない)を得ることができたため。
- 2 自分の学びたい事を学ぶことができたから。
- 2 発表の方法を学べた。まとめ方、話し方を繰り返したので、慣れることができた。
- 2 教員ごとに講義の形式は若干異なるが、各々が工夫をしているのが分かった。しかし、一部教員は嫌そうに講義を消化しているように見受けられ、受講する側としては不快だった。
- 3 興味があってものは満足できたが、そうでないものもあったから。

- 3 もう少し農学系の講義を選択できるようにしてほしかった。
- 3 動物が好きで生物学科に入ったが、あまり触れ合う機会がなく、行動学や進化学はもっと詳しく学びたかった思うため。また、ガイダンスでの説明と取得単位が一致しない講義があったため。
- 3 人数調節等の問題はあると思うが、授業の選択の幅が少ない。
- 3 ある分野は、より深く学べるが、学科で受ける教育では足りない分野も多く存在するため。
- 3 設問4(2)に同じ。
- 4 授業名と内容が一致していないような授業があったから。
- 4 自分の専攻以外(基礎系・植物・ゲノムなど)の授業は非常に詳しく教えてもらったが、自分の専攻(生態・進化・環境)の授業はかなりおおざっぱだった。

#### 【分子生命科学科】

- 1 生物全般について楽しく学べたため。
- 1 幅広い分野に興味をもてた。
- 2 専門教育を通して、一般教養を含む、多岐にわたる知識を身につける事が出来たから。
- 2 先生方が専門の教科・分野を教えていただいたと感じたため。
- 2 不満を覚えなかったから。
- 2 最終的に卒業研究で利用する内容が多いから。
- 2 適切なレベルの授業だと思うから。
- 2 様々な分野の科目が受講出来て有意義でした。
- 2 よかったから。
- 2 興味のある授業が多かったため。
- 2 自分の興味分野を学べたから。
- 2 専門教育で学んだことが、研究室に配属されてから活きているから。
- 2 何かこれ聞いたことあるな~と、卒業研究中に思うことがあるため。
- 2 自分の学びたいと思える専門領域を見つける手がかりになったため。
- 2 様々な科目に触れることができたから。
- 2 もう少し専門の科目をとりたかった。
- 2 研究室に配属してから、実験技術や科学的思考、プレゼン能力が向上したから。
- 3 結局は将来使わない知識になってしまったから。
- 3 導入の内容がわからないので、科目の内容を理解するのが大変だった。
- 3 必要単位取得のために受講しただけであり、好きで受講している訳では無いため。そこに満 足・不満足の感情はありません。
- 3 自分が何を学びたいのか分からないままだったから。
- 4 必修科目が多いため、他学科の先生の授業など興味があるものを受けられなかったものがあった。
- 4 研究をしたことが無い状況で授業を受けても理解する意欲が低いと思うから。そのため、仮配属の時期を早めるべきだと思う。
- 4 そう感じたから。
- 4 自分に悪い点もあるが、記憶に残っている授業がほとんどない。

4 問4(2)とおなじ。

#### 【生物資源学科】

- 1 知識を深めるのに役だったから。
- 2 幅広い分野のことを学べて良かった。
- 2 幅広く知識を得ることができたから。
- 2 実験に必要な知識を詳細に学べたから。
- 2 卒業研究の際にも役立つ知識を得るため。
- 2 学びたかった食品について広く学べた。
- 2 これから農業関係の仕事をして行くにあたり、役に立ちそうな内容だったから。
- 2 自分が学びたかった分野の授業を受講でき、専門的な技術についても学べたから。
- 2 食品・農業・バイオテクノロジーについての幅広い専門的な講義を受けることができた。
- 2 植物の病気の原因、対策を学び、また土壌の面からも学ぶ事で、育種に必要な知識がえられたと思う。
- 2 興味ある内容だった。
- 2 知識的な側面と同時に教養的な面もあるので、より専門的に学ぶにはやや足りない面もあると考える。
- 2 興味を持った教科を多く学ぶ事が出来たから。
- 2 知識の拡大に役立ったから。
- 2 バイオテクノロジーや農業について、あまり良い印象をもっていなかったが、詳しく学ぶことで考え方が変わったから。
- 2 広く資料内容の授業が受けられたことに満足しているが、もう少し農業分野も利用できる知識を得られる授業が欲しい。ゼミが忙しいと、4年で授業がとれない。4年からとれる授業を3年でとれるようにしてほしい。
- 3 しっかりと学べたと思える授業もあれば、それと同じくらいイマイチな授業もあった。
- 3 もう少し一般教養の単位を減らして専門の単位をふやしてもいいのでは?と感じたからです。
- 3 ためになったものも多かったが、生物資源?という科目も多少あった。
- 3 シラバスでの内容と異なっていた場合があるから。
- 3 教えようという気持ちが伝わる分かりやすい授業をしてくださる先生と、ただしゃべっているだけというような授業をする先生がいたように感じるためです。
- 3 専門教育の分野が多すぎて、学びたい分野の科目数が少ない気がする。
- 4 いくつかの授業で声を聞き取れなかったり、非常に理解しにくいものがあった。

#### 【園芸農学科】

- 1 配付資料等に工夫が見られ、飽きない講義だった。
- 1 今後の生活(卒業後)に活きる内容であったため。
- 1 どの領域についても、広く深く学ぶことができたと感じるから。
- 1 広い分野を学び土台をつくり、その上、専門的なことについて学べたから。
- 2 広く浅く知識を得られるから。

- 2 教科書と実習に基づいた学習内容だったので、印象深く記憶に残せたため。
- 2 必要なことは学べたから。
- 2 農業分野のニュースがよく分かるようになった。
- 2 興味がある講義が受けられたから。
- 2 専門科目は、色々あり、よかったとおもう。
- 2 農業の経済面に関する問題点等を学べたから。
- 2 実習などもあり、実際の作業からも学ぶことができたため。
- 2 農業というひとくくりで、様々な分野を学べたから。
- 2 専門科目の講義では、以前の学校では習わなかった範囲の勉強が出来て良かった。また他学科に所属する先生の講義も受けることが出来、幅広い勉強ができたと思う。
- 2 ほぼ満足しているが、少しコース分け前の経済系の授業が少ない気もしました。
- 2 今後も使えそうな知識が身についたため。
- 2 農業により興味を持つことができたから。
- 2 学びたいと思った分野以外も農業について、より知れたとおもうから。
- 2 園芸農コースと経済コースは、全くちがうようで繋がっているため。生産者と消費者、両者の立場に立つことができた。
- 2 食農について幅広く学ぶことができたと思うため。
- 2 やりたいことがやれたから。
- 2 実習が多かった。もっと専門的なことも学べるとよい。
- 2 興味がそこまでなかった分野でも受けてみると案外面白かったということが多かったので、 視野が広がった。
- 2 学生との能動的な講義が展開され、非常に満足している。
- 2 園芸農学において基礎的な部分から応用まで幅広く学ぶことができたため。
- 3 受けたいものと授業が多くかぶっていたため。
- 3 しっかり覚えているものはあるが、少ない。
- 3 内容は興味深かったが、社会に出て役立つかどうか、ということも大切であり、今はまだ評価できない。
- 3 おおむね満足しているが、一部良いとは思えない講義もあった。
- 3 選択肢が少ないように感じるため。
- 3 問4(2)により。
- 4 専門の内容がうすく、研究室選択の参考やきっかけにならない。

#### 【地域環境工学科】

- 1 農業土木に関する知識と技術を学べたから。
- 1 農業土木で必要な知識を多く学ぶことができたため。
- 1 単に専門的な知識を伝えるだけでなく、公務員試験の対策にも繋がる授業のやり方をしていたから。
- 1 指導がわかりやすく、自分の知識として身に付けることができたから。
- 2 特に不満はないため。
- 2 農業土木系の仕事に就かないので専門教育がそのまま役に立つ場合は少ないと思うが、授業

自体は面白かったです。

- 2 必要な知識を得ることが出来たと感じているから。
- 2 これからの人生で役立つと思う。
- 2 将来につながると思うから。
- 2 専門的な知識を段階的に得られたため。
- 2 専門教科には公務員試験に直結するものがあり、そのおかげで公務員になることが出来たと 思っているため。
- 2 受けてみてそう実感した。
- 2 好きなジャンルの学習だったから。
- 2 ある程度分かりやすく説明があるので。
- 2 専門知識を十分に得られるから。
- 2 設問4(2)とおなじ。
- 3 覚えさせるだけじゃなくて、理由とか、どういう仕組みなのかも合わせてほしい。
- 3 どっちでもよい。
- 3 良い授業とそうでない授業があった。
- 4 公務員試験で知識不足を感じたため。

#### [教員の指導について]

設問 8. (1) 所属する学科の教員の、講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応に満足していますか(卒業研究については設問 15 で別に聞きます)。

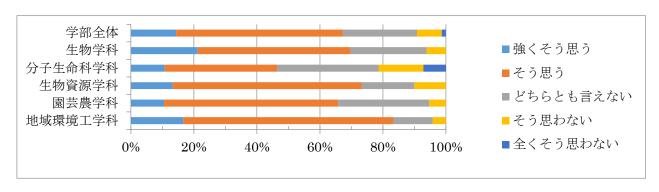


図 I-8. 教員の指導や対応に満足か

各評価において学部全体と学科別共も昨年と同様であった。肯定的な評価と「どちらもいえない」評価はそれぞれ 63%と 22%であった。地域環境工学科と分子生命科学科は昨年と同様に肯定評価の割合はそれぞれ最高と最低であった。

#### (2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

#### 【生物学科】

- 1 サポートが充実していた。
- 1 とてもよく相談に乗ってくださっています。本当に助かっています。

- 1 設問7とほぼ同じです。
- 1 とても熱心に指導してくださったから。
- 1 優しい且つ厳しくて良いと感じます。
- 1 臨海実習はすごく教育の面などに関してよいものだった。
- 1 セミナーなどが多く、研究の最前線を学ばせてくれたため。
- 2 ほぼ全員がしっかりと自分の研究内容に関わる実習や授業を行っており、生徒に対しても分かりやすく丁寧に教えてもらえたので。
- 2 不満はない。
- 2 質問等に行けばきちんと対応してくれたため。
- 2 熱い先生の指導。
- 2 どの先生方も分かりやすいスライドを作った。とても工夫してくださっているのが分かる講 義だった。
- 2 指導通りやると望む結果がえられるから。
- 2 優しい人が多い。
- 2 ていねいな講義が多く、指導も適切だったと思う。
- 2 多くの教員に学問の内容等を伝えようという意識が見受けられた。
- 2 ちゃんと生徒の意見を取り入れつつ指導してくれた。
- 2 設問7(2)の通りです。
- 2 内容が多岐にわたっていたと思う。
- 2 厳しくもやさしくめんという点がよい。
- 2 程度の違いはあり、学生のことを考えてくれているというのを強く感じたから。
- 3 とても分かりやすい教員もいましたが、分かりにくい教員もいたため。
- 3 教員によって異なるから。学生のことをよく考えてくれている教員も多くいたが、自分の興味だけで突っ走っているような人もいた。
- 3 教科書をただ読んでいるだけのような講義には面白みを感じられなかった。
- 3 分かりやすく指導してくださる先生もいれば、そうでない人もいるから。
- 3 講義でスライドを使って説明している教員のうち、とても見にくい人が何人かいた。配って いたレジュメも、印刷が細かすぎて読めず、結局その講義はほとんど理解できなかった。
- 3 素晴らしい教育を施してくださる先生がいる一方で、何を伝えたいのかよく分からない授業 をなさる先生もいるため。
- 4 対応が悪く、説明が不十分の方がいるため。
- 4 講義内容が薄すぎる。薄すぎておもしろくない。

#### 【分子生命科学科】

- 1 どの教育の方も、丁寧に指導してくださったため。
- 1 知りたいことについて質問したら親切に教えてもらえたため。
- 1 学生が質問すれば丁寧に教えてくれるため。
- 1 研究者としては皆さん一流だと思います。それ以上は期待していません。
- 2 質問をする機会を与えてもらったため。
- 2 そう思ったから。

- 2 とくに不満をもったことはないため。
- 2 指導熱心だから。
- 2 個性豊かな教員が多く、楽しめました。
- 2 質問しに行ったとき、きちんとわかるまで説明してくれた。
- 3 人により、講義中に学生への不平不満を言った方がいたので。
- 3 満足した指導、そうでないものの両方があった。
- 3 教員によっては、講義中の内容で、どこが大事であるのかが、わかりにくい。
- 3 課題で評価をする講義、最終試験で評価する講義、それぞれかてんはあると思いますが、毎 回のレポートに追われ、他の講義の試験に影響を及ぼしている学生がいることを考えるとど ちらとも言えません。
- 3 人によるから。
- 3 生徒のやる気がないのも原因だとは思うが、教員の姿勢から指導への熱意のようなものが感じられない。おざなり感がある(一部教員)。
- 3 あまり関わりがなかったため。
- 3 接触する機会が少なかった。
- 3 2、3 年生での学生実験において、初めて見る器具も多かったのに、実験操作の指導がないときがあったため。
- 4 分からないところなどを聞きに行きやすい雰囲気ではなかったから。
- 4 教員にもよるが、あまり学生に対して関心が無いような対応が少々見られた。
- 4 不親切な感じしたから。
- 5 成績の悪い人や目立つ人には、指導などが多いが、他の人は相談を聞き、とうかしてくれたことが一度もない。
- 5 学生個人の事情を全くきいてくれない。

#### 【生物資源学科】

- 1 1人1人丁寧に見て、適切な事を教えてくれるから。
- 1 知らない部分には丁寧に教育してもらえたし、親身に相談にも乗ってもらったから。
- 1 学生に十分すぎるほど時間を割いてもらっていると感じることが多いため。
- 2 学科には丁寧な指導をしてくださる方が多かった。
- 2 特に問題はなかったと思います。
- 2 とてもわかりやすかった。
- 2 スライドで分かりやすく解説してく下さった先生が多かったから。
- 2 農生で学びたい分野は、大体学べたと思う。
- 2 人柄が良い先生ばかりだった。
- 2 実際に役に立ったため。
- 2 熱意をもって話している。
- 2 熱心に講義をしていただけたと思うから。
- 2 学生にわかりやすいように講義等を展開していると感じたから。
- 2 生物資源学科の先生方は、学生のために講義や実験指導をしてくださったように思います。
- 2 教員がみな優しく生徒の事をしっかり考えてくれるように感じたから。

- 2 2年次に進路相談をしたから。
- 2 学ぶ意欲に応じていたから。
- 2 スライドやプリントを配布して、分かりやすい授業にしてくれたから。
- 2 教員の指導が丁寧だった。
- 3 必修に必要なさそうな講義があったから。
- 3 植物育種学 I を一年前期にやるのは早いと思います。
- 3 良い人もいればそうでない人もいた。
- 3 良い教員もいれば、自分に合わない教員もいる。総合的に考えてプラスマイナス 0。よって「3」。
- 4 女性に甘い教員がいる。

#### 【園芸農学科】

- 1 思い出してみても、どの先生も親切丁寧に指導してくださったと感じるためです。
- 1 どの先生方のご指導も丁寧だった。
- 1 わからないことを質問したときも、とても丁寧に答えてもらった。
- 2 過不足はないと思う。
- 2 ある先生の口があまりにも悪く、学生をいじめているかのようで周囲も困っていた。
- 2 講義・演習・実習に関しては、教員から丁寧な指導があったため、内容を理解しやすかった。
- 2 成績が低い人へのケアができていたから。
- 2 学生との距離が近く感じる。
- 2 実習などの指導は、細かくしてくれたため。
- 2 丁寧に教えてくれたし、たまに雑談も混じえて(交えて)、授業にあきないよう工夫してくれることもあったから。
- 2 ある程度対応してくれたと思うため。
- 2 研究室の講義形式の取り方や、単位に関して細かく教えてくださったため。
- 2 授業外などの質問や関連事項のことでも答えてくれたため。
- 2 丁寧な指導を受けた。
- 2 人それぞれだが不満はなかったため。
- 2 専門性に富んでいたから。
- 2 なんとなくである。不満はなかったので。
- 2 学生に合わせて時間等の調整も行っていただき、講義そのものにも大変満足している
- 2 学生ひとりひとりを良く見ているという印象を受けたため。
- 3 よく覚えていない。
- 3 満足感はないが、不満もない。大学は自主的に学習する場であるので、講義等はこれで良いと思う。
- 3 教員によってムラがると感じている。
- 3 言わない人は全く言わない。
- 3 何が分からないことがあったとき、教員に助けを求めると、丁寧に教えてくれる人と、そうでない人がいるのでどちらとも言えない。

- 3 教員によって違うから。
- 3 いいものと良くないものもあるから。
- 3 講義で質問しつらいような雰囲気があるところもあった。実習では質問・意見を交わしやすかった。
- 3 だいたい満足したが、一部よくないものがあった。
- 3 人によりけり。
- 4 講義の教え方が良くないと思う。手を抜いているように見受けられた。
- 4 農業高校生と推薦生に対しての言動がきつすぎて授業を受けたくない。

#### 【地域環境工学科】

- 1 授業内容が毎回充実していた。
- 1 熱心に指導して頂いております。
- 1 指導がわかりやすく、質問にもきちんと対応してくれたから。
- 2 熱心に指導してくださったと感じているため。
- 2 熱心に授業してもらったと思う。
- 2 熱心にやってくれる先生が多いと思った。
- 2 私がつまずいている時、助けを求めると適切なヒントをくれるので。
- 2 親身になって指導していただいたから。
- 2 面倒見が良かったように思える。
- 2 教員1人1人が生徒に対し、出来るだけ分かりやすく聞いていて興味を引くような授業になるように、工夫してくれているのが伝わりました、教員の方々は皆熱意を持って我々生徒に接していただいていることが伝わるため。
- 2 そう実感した。
- 2 「質問があったら遠慮しないで来るように」とおっしゃっていた先生が多かったから。
- 2 質問には良く応じていただけたから。
- 2 分からない部分を個別でも教えてもらえたから。
- 2 オフィスアワー等あるため。
- 2 熱意はとても感じられた。学生のためと思う。
- 2 熱心に指導している教員が多いから。
- 3 どうでもいい。
- 3 見づらい PPT に大変だった。
- 4 教員が時間を守らなかったりしたため。

#### 設問 9. 履修した科目の成績評価について質問します。

(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

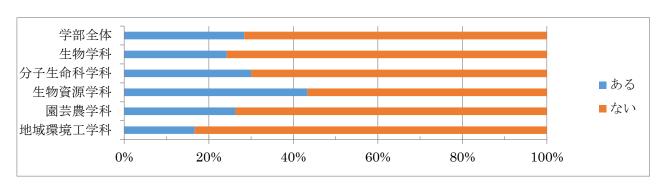


図 I-9(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはあるか

学部全体で成績評価に疑問があったと回答した学生の割合は 28.3%であり、昨年度とほぼ同様であった。生物資源学科と地域環境工学科は昨年度に比べ増加し、他の学科は減少した。

## (2) 疑問や異議があったときは、学部教務に「成績評価の問い合わせ」を提出し問い合わせできることになっていますが、あなたはそれをしましたか。した場合、その回答に満足しましたか。 具体的に記入して下さい。

#### 1. した 2. しなかった

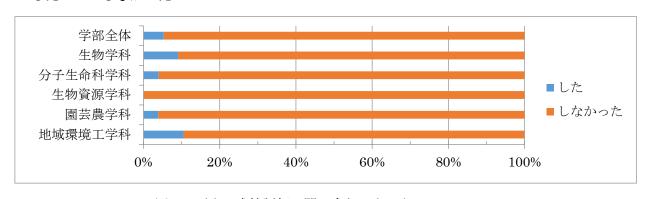


図 I-9(2). 成績評価の問い合わせをしたか

学部全体では成績評価について 95%の学生が問い合わせてしなかった。問い合わせした学生が生物学科と地域環境工学科に問い合わせした学生が多く、その割合がそれぞれ 9%と 11%であった。

#### 【生物学科】

- 2 成績評価の問い合わせの存在を知らず、直接教員に聞きに行ったことはあるが、満足はしなかった。
- 2 かわることはなさそう。
- 2 直接講師の人に聞きに行ったが、的確な解答をもらえなかったため。

#### 【分子生命科学科】

1 編入だったため、こちらのシステムがよく分からなかった時に学部教務の方に質問させてい

ただきました。丁寧でわかりやすい説明で大変助かりました。

- 2 どうやればいいかわかならなった。
- 2 別にどうでもいい。

#### 【生物資源学科】

- 2 そんな制度があると知らなかった。
- 2 どう考えてもテスト点数も出席も少ない知り合いが自分や友人よりも高い評価をうけていて、評価の基準に疑問を持つことはあった。
- 2 教務に聞くより、自分たちで話し合った方がいいと、知り合いに聞いたから。
- 2 「成績評価の問い合わせ」を知らなかった。
- 2 教務にきいてもまともな回答が来ないと聞いていたから。

#### 【園芸農学科】

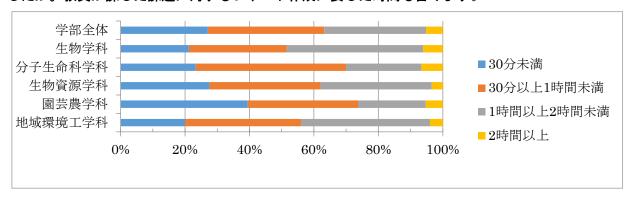
- 1 1回だけ、単位がとれていた授業が成績表に載っていなかったことがあった。成績表をみながら卒業に必要な単位を計算していたため、非常に焦った。成績評価の善し悪しに疑問を感じたことはありません。
- 2 その仕組みがあるのが知らなかった。
- 2 わからなかった。

#### 【地域環境工学科】

- 1 点数を開示もらって納得した。
- 2 たらい回しにされた。

#### [学生の主体的学習について]

設問 10. 講義や演習の受講に当たり、あなたは 1 日平均どの程度の時間を予習や復習に当てましたか。教員が課した課題に対するレポート作成に要した時間も含みます。



図Ⅰ-10.1日平均どの程度の時間を予習や復習に当てたか

学部全体で1日の学習時間が「2時間以上」と回答する割合は5%であり、昨年の7.5%よりも低かった。学科別見ると生物資源学科は4%弱で最も低く、分子生命科学科は6%強で最も高かった。

「30分未満」の回答者が27%であり昨年の18%より増加した。授業外学習時間が短いことは依然

続けている。テスト内容を難しくするなど厳しい対策を取らなければ全体学力低下の状態を招く 恐れがある。

### 設問 11. 大学教育では、学生自身の主体的、意欲的な学習が要求されます。

#### (1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

主体的・意欲的学習を、学生自身が講義室外で学習したことを示す記述の有無を基準として判断すると、回答総数 140 件のうち、該当したのは以下を含め 9 件(6%に相当)のみであった。回答例:「板書だけでなく、自分で考え疑問に思ったことなどを後から調べるようにした。」、「様々な分野に触れ、視野を広げ、また得意分野に関しては知識を深く広く得るため努力した。」、「予習を行っていた。分からない点は、教授に聞きに行っていた。」、「知識の吸収を最大限行おうと自主的な姿勢で取り組みました」、「知識を得るだけでなく、自力で考えて問題や課題に取り組んだ。」、「疑問があったときは PC や図書館で調べた。」

これに対して、単位を取得のみを目的とし、以下のような、受動的であることが明白な記述は 41件(29%に相当)であった。

回答例:「あまり熱心にしなかった」,「あまり積極的でなかった」,「講義により受身だった」,「まず単位を落とさないように学ぼうとしていた」,「聞き流す程度」,「単位が取れればいい姿勢」,「とにかく休まないようにした」,「受身であった」,「良い成績を取るための最低限度の努力」,「受動的な態度,卒業のための義務といった認識で受講していた。」

残りの回答は、以下の回答例に示すように、「真剣」、「真面目」や「意欲的」と言う言葉を 使っているが、具体的内容が書かれておらず、受動的な学習との区別ができない

回答例:「真剣に取り組んだ」,「真面目に取り組んだ」,「意欲的に取り組んだ」,「真面目に話を聞いていたと思う」,「板書を書き写すことや,先生の言ったことをメモするのに徹底した。」,「先生の話をよくききました。」,「私語を慎み,真面目に」

設問 10 で 1 日当たりの予習と復習時間の合計時間が 1 時間未満と回答した学生の割合が 63% に上るので、「意欲的」は講義時間内のことに限定してのことかも知れない。

教員から見ると受動的と思われる学習姿勢が多いというこの傾向は、昨年度と同様であった。 大学での学びにおける「主体的・意欲的な学習」のあるべき姿勢について入学直後に積極的に指導する必要があると思われる。

#### 【生物学科】

- ・まじめに
- ・ 真剣に取り組んだ
- ・ 欠席をしない,復習を行う等,意欲的に取り組みました。
- ・ 興味のある講義では意欲的に取り組んでいたと思う
- 低姿勢
- 興味があるものには懸命に、そのほかは不可にならないように
- ・ 予習はあまりせず、復習と課題に時間をかけた
- ・ 講義で興味を持った事柄はメモをとり、後に自分で調べたりした
- ・ 欠席はしないようにしていた

- ・ 欠席はしないように心がけ、教員の言うことはメモを取るようにしていた
- ・ 主体的ではなかったように思う。やりたくない勉強が必修・選択であったからという理由も 少しある
- ・ 普通に学生らしく
- すばやくパワーポイントをノートに書き留めるよう心がけた
- ・ 高校と違い、学習する量が多いため、一回一回の講義も集中して受けた
- ・ 重要な所を意識して取り組んだ(前向きに)
- ・ 講義によって意欲的に予習・復習をしたり、受身な態度で授業を受けた
- あまり熱心にしなかった
- ・ 自分が楽しいと思える講義に対しては、余裕があれば板書と教員の言ったこと等を書きとった。それ以外に関しては寝はしないが集中していたことは少なかった
- 絶対秀を取ろうと臨んでいた
- 欠席せず全てを吸収しようとした
- ・ 自分の興味ある分野の講義に関しては特に情熱的に取り組んだと思う。興味のない分野に関 しても、平均以上にまじめに取り組んだことと思う
- ・ 積極的に興味のある事を聞くようにしていました
- ・ 板書だけでなく、自分で考え疑問に思ったことなどを後から調べるようにした
- ・ 正直に言えば、ほとんど真面目に受けられていなかったと思います。そのときは、アルバイトが多く入っており、疲れから遅刻や欠席が多く見られました
- 講義の先生による
- ・ 他講義から得た知識を合わせた複合的理解をするように心がけ、取り組んだ
- ・ 分からない事を吸収しようと取り組んだ
- ・ 興味のあるところは熱心に、そうでもないところはほどほどに力を入れて取り組んだ
- いつも前向きに
- あまり積極的でなかった

#### 【分子生命科学科】

- ・ 欠席しないようにすることと予習が必要な場合はきちんとやっていた
- 講義により受身だった
- ・ 毎回講義にかかさず出てノートをとっていた
- ・ 講義によって主体的に取り組んだものと取り組まなかったものが分かれた
- ・ できるだけ講義時間に理解できるよう努力した
- ・ まず単位を落とさないように学ぼうとしていた
- ・ 学生の立場から見て、学生が理解出来ているかをまめに確認しながら進める講義は大変興味 深く学べた
- ・ 真面目に取り組んだ
- ・ 一度休むと授業について行けなくなると思っていたので、なるべく休まずに参加した
- 講義に出るだけ。ほとんどは教科書(参考書)に書いてあるのであとで読めばいいやと
- ・ 真面目に取り組みました
- ・ 様々な分野に触れ、視野を広げ、また得意分野に関しては知識を深く広く得るため努力した

- ・ 真面目に聞いていたと思う
- ・ 真面目に聞いていた
- ・ 講義は真面目に取り組んだが、予習はあまりしていない
- ・ 予習を行っていた。分からない点は、教授に聞きに行っていた
- ・ 課題をこなすにあたって、図書館でわからないことを調べた
- ・ 真面目に話を聞いていたと思う
- ・ 先生によって意欲的とそうでないことの差が大きかった
- ・ 最低限の予習復習
- ・ 必ず単位を取得する
- ・ 良好な成績で単位を得るための最低限の努力をした
- ・ 良い成績を取るための最低限度の努力
- ・ 積極性な姿勢
- ・ 板書を書き写すことや、先生の言ったことをメモするのに徹底した
- ・ねない

#### 【生物資源学科】

- ・ ほぼ出席。試験対策も計画的に行っていた
- ・ 知識の吸収を最大限行おうと自主的な姿勢で取り組みました
- 真面目
- 興味のあるものには、まじめに取り組んだとおもう
- ・ 重要な点をメモするように心がけていた
- ・ テストであれば内容の復習を行った
- ・ 少なくとも不可にならないように取り組んだ
- ・ 興味のない講義については、あまり真剣にはとりくめなかった
- ・ 不可にならないように取り組んだ
- ・ 身につけたい分野であれば意欲的に取り組んだ
- ノートだけでなく、話し方にも集中するようにした
- ・ その日の講義の中で、覚えることはしっかり覚えようと努力した
- ・ 試験の前に復習する程度で、日頃は特に何も学習していなかった
- ・ わかりやすい講義は、できる限りメモを多く取って集中して聞くようにしていました。自分 で本を読んで勉強した方がいいと思ったら、自主学習を中心に行うようにしました
- ・ 内容を理解しようと努力はしたが、受身的な態度だったかもしれない
- ・ 単位は落とさないようにと思い、中間テストや期末テストに集中して力を注いだ。講義もなるべく欠席のないようにした
- 予習が必要だと言われていたものはやった
- ・ そこまで意欲的に取り組まなかった
- ・ 真面目に取り組んだ
- ・ 興味のあるなしで天地の差がある
- ・ 得られた知識を可能な限り習得しようとした
- ・ その講義により学習意欲は変わった

- ・ 聞き流す程度
- ・ 大学でしか学べない専門的な知識を理解できるように取り組んだ
- ・ 知識を得るだけでなく、自力で考えて問題や課題に取り組んだ

#### 【園芸農学科】

- 真剣に聴いていた
- ・ すべて参加し、欠席をしない
- ・ 大学生になって最初の一ヶ月はやる気に満ちていました。その後は、甘えが出てしまい、徐々 にモチベーションが下がっていきました
- 1回も休まないように心がけて取り組んだ
- ・ テストに困らないようにまじめに受けていた。先生の小話も自分の知識となった
- 休まない。単位は落とさない
- ・ 単位が取れればいい姿勢
- ・ 興味のある講義では、きちんとした姿勢で取り組んだ
- ・ 真面目に取り組んだ
- ・ 授業についていけるよう,前回分からなかった事に関して自分で調べる等,できるだけ予習 復習はするように心がけた
- ・ 意欲的に取り組んだ
- ・ 興味関心より単位を落としたくないという姿勢
- 全部理解できなくてもついていくようにしていた
- ・ 私語を慎み、真面目に
- 受動的な態度、卒業のための義務といった認識で受講していた
- ・ 知識を取り入れるために熱心に取り組んだ
- ・ 集中して講義を聞くよう心がけた。常にメモを取ったりして工夫して受けていた
- ・ 疑問があったときは PC や図書館で調べた
- ・ 自分の興味のあるものについては、割と積極的に、それ以外は単位を落とさない程度に
- ・ 積極的に学ぶ姿勢
- ・ 良い成績がとれるように真面目に受けた
- ・ 授業の段階である程度覚え、理解しようとしていたため
- テスト等で点数がとれるように
- ・ 座学にはあまり主体的に学習しませんでした
- 真剣に
- ・ 休むことなく出席するよう心がけ、関連する本や新聞記事には目を通すようにしていた
- ・ 主体的・意欲的な学習は行われなかった
- ・ 何が役に立つか考えながら講義を開いた
- ・ 各講義で共通する部分がでてくるので、そこから関連性を見つけながら取り組んだ
- 予習をした
- 積極的
- ・ 単位をとれればよい
- ・ 授業はおおむね楽しかったとおもいます。初めて聞く内容や分野は興味深いものがあったの

で

- ・ ノートをとることだけに集中せず、聞いて理解するように努めた
- ・ 大切な部分を聞き逃さないよう集中した

## 【地域環境工学科】

- ・ 理解しようと取り組んだ
- ・ 意欲的に取り組むように心がけた
- ・ 集中して話を聞き、重要な所、興味がある所は板書した
- ・ ちゃんと聞くようにしました
- ・ しっかり聞く
- 自分自身の目標に向かって努力できたと感じている
- とにかく休まないようにした
- ・ 積極的に取り組んだ
- ・ その場で理解できるように心がけた
- ・ 授業の主旨を理解し、教員が何を伝えたいのかを考えながら受けました。
- ・ 分からなくても板書だけは写そう。なるべく興味を持って講義に臨もう
- ・ 板書, 口頭説明を注意深く記録して, 理解しようとした
- ・ 21 世紀教育は、少し不真面目であったが、専門の講義は、しっかりとした姿勢で取り組んだ
- ・ 一般的な程度で
- 分からないことがあった場合は、すぐ聞くようにしていた
- ・ 意欲的に取り組んだ
- あまり意欲的でない
- ・ 興味を持つよう努力
- そこまで真剣でなかった
- ・ 意欲的に取り組みました
- 受身であった
- 先生の話をよくききました
- ・ 受身になることが多かったと思う

#### (2) 実験・実習についてはどうですか。

全回答数 136 件中, 33 件(24%) は下記の回答例のように自身が行った取り組みや学習成果を 具体的に記述していた。

回答例:「実験・実習が終わってから内容について反省する等, 意欲的に取り組みました。」,「「なぜこうなるのか」を考えながら行うようにした。」,「時間効率や実験内容についてよく考えて実験を行った。」,「知識の吸収を最大限行おうと自主的な姿勢で取り組みました。」,「実験は,授業で学んだことを実際に体験でき,理解が深まったし、楽しく受けることができた。実習は公務員の土木職の仕事を実際に体験でき,仕事の内容を具体的に理解でき,進路を考える上で,とても参考になりました。」

しかし、大多数(96件,71%に相当)は下記の回答例のような前向きな記述であったが具体的な

記述が無かった。

回答例:「真剣に」,「意欲的に取り組んだ。」,「積極的に実験を行った。」

少数 (7 件, 5%相当) ながら、下記の回答例のような受動的取り組みや否定的な記述もあった。 回答例:「必要最低限の取り組みしかしなかった。」, 「良好な成績で単位を得るための最低限の努力をした。」, 「単位をとれればよい。」, 「不可にならないように取り組んだ。」, 「休まな

い。単位は落とさない。」や「実験はいらないと思う。専門すぎて全く興味をもてなかった。」

#### 【生物学科】

- 真剣に
- ・ 難易度も適切で良かった
- ・ 実験・実習が終わってから内容について反省する等、意欲的に取り組みました。
- ・ 楽しかった。意欲的に取り組んだと思う
- ・ 実験は好きだったので、集中して行い、楽しんでやってました
- 「なぜこうなるのか」を考えながら行うようにした
- ・ 失敗したところは、忘れないようにメモに残した
- ・ 意欲的に取り組んだ
- ・ 必要のない実習であっても自分が関心を持つものはとるようにしていた
- ・ 主体的ではなかったように思う。やりたくない勉強が必修・選択であったからという理由も 少しある
- 楽しかったです
- ・ 細心の注意を払って取り組んだ
- ・ 実習は初めて経験が多かったため、先生の指示をよく聞いてとりくめた
- ・ 休まず求められる以上のことをしている
- ・ 意欲的に取り組んだ
- ・ 積極的に実験を行った
- ・ とどこおりなく実験等が進む程度に行った
- ・ 絶対秀を取ろうと臨んでいた
- ・ 自分の力をつけられるよう積極的に取り組んだ
- ・ 実験も実習も楽しかった。熱心に取り組んだ
- ・ 実習は TA も含め、青森県の自然史及びそれに伴う文化の理解を目標にしていました
- まじめに取り組み、失敗しないようにした
- ・ 実験・実習に関しては、(1) に対して、毎回参加し、楽しみながら出来ました。ただ、レポートになるとやや手を抜いてしまうことが
- ・ 実習内容による
- ・ 観察して目にした現象を余すこと無く理解しようと心がけた
- ・がんばりました
- ・ 機器の取り扱い方を意識し、丁寧に行う事を心がけた
- ・ レポート作成の際は、必ず他の情報源(ネット・本など)を利用した
- 実習は楽しかった

### 【分子生命科学科】

- ・ 意欲的に取り組んだ
- ・ 講義により受身だった
- ・ 真剣に取り組んだと思う
- ・ 必要最低限の取り組みしかしなかった
- わからないことは聞く、うまくいかない理由を考えるなど
- ・ 講義を聞くよりは、実験などのときに操作するにあたって、それぞれ学ばなければいけない ことがあったので、講義よりも理解しやすかった
- ・ 自分の目で見て、自分の手で作業をすることで、より興味がわき、意欲を持って取り組めました
- ・ 真面目に取り組んだ
- 知識がないと実験にはついていけないと思った
- ・ 実験レポートを書かなければいけないので、よく考え積極的に質問をした
- ・ 自分なりに計画を立てて取り組んだ
- ・ もっと機器を増やすか、順番を上手く回して欲しい。無駄な時間(待ち時間)が多かった(が、 その時間をどう有効に使用するかも考えられたからよかったかなと思います)
- 楽しかった
- ・ 真面目に取り組んだ
- ・ 話をしっかりと聞き、丁寧に作業しました
- TAに疑問点を聞き、それについて自身でも調べた
- ・ 不明な点については、TAや教員の方々にその場で積極的に質問した
- ・ 自主的に調べることも出来た
- ・ 意欲的に取り組んだ
- ・ 積極的に行った
- ・ 楽しみながら学ぶ
- 良好な成績で単位を得るための最低限の努力をした
- ・ レポートの作成に多くの時間を費やした
- 頑張った
- 実験前に配られるプロトコルに目を通してから授業に臨んだ
- 実験は楽しいな

#### 【生物資源学科】

- ほぼ出席。
- ・ 知識の吸収を最大限行おうと自主的な姿勢で取り組みました
- 予習・復習をかかさない
- ・ 基礎的な実験手法を学べて良かったと思う
- ・ 実験操作を丁寧に行った
- ・ 積極的に実験に取り組み、質問などもした
- ・ 普段もこれからもやる機会がないため、真面目に取り組めたと思う
- ・ 研究室に所属してからもその実験を使えたので、よかった

- ・ 不可にならないように取り組んだ
- ・ 身になるよう積極的に取り組んだ
- ・ 積極的に参加するようにした
- ・ 積極的に実験を行うように取り組んだ
- ・ 試験の前に復習する程度で、日頃は特に何も学習していなかった
- ・ 指導教員の先生が言った通りに行えるよう努めました。実験ノートに方法・結果・考察など 記入しました
- 時間効率や実験内容についてよく考えて実験を行った
- ・ 充実した実験内容で知識を深められた
- ・ 時間内で理解出来なかったところは、パソコン等で調べた
- ・ 多く吸収できるよう頑張った
- ・ 積極的に取り組んだ
- ・ 真面目に取り組んだ
- ・ 求めた結果にならない場合でも、原因を解明し、次につなげるように努力した
- ・ 概ね積極的に取り組むようにしていた
- 良い経験でした
- ・ どの実験室に所属しても良いように、どの実験もしっかり取り組んだ
- ・ 知識を得るだけでなく、自力で考えて問題や課題に取り組んだ

#### 【園芸農学科】

- ・ 率先して行動した。結果について仲間と議論を交わした
- ・ 実験はいらないと思う。専門すぎて全く興味をもてなかった
- ・ あの頃は大学デビューに失敗し、周りから浮いた存在になっていたため、孤立した状態にありました
- ・ ミスをしないように気をつけて取り組んだ
- ・ 実験は苦手で、積極的ではなかった。実習は率先してやるようにした
- 休まない。単位は落とさない
- 楽しかった
- ・ 実験・実習では、危険なこともあるので、油断せずに取り組んだ
- ・ 真面目に取り組んだ
- ・ 自ら動くことが苦手で、内容にもついていくので精一杯だったので、周りの人の動きを見たり、聞きながら作業することが多かった
- ・ 意欲的に取り組んだ
- ・ 興味関心をもって取り組むことができた
- 真面目に
- ・ (1) とおなじく, あまり意欲的でなかった。研究室に配属されてからは, 多少意欲的であったと思います
- ・ 幅広い分野の実験ができるので良い
- ・ 担当教員の指示に従い、自分でも考えながら行動した
- ・ 積極的に受けていたと思う

- ・ 意欲的に取り組みました
- ・ 自分に出来る範囲で全力に
- ・ 実習はやりたかったことなので、真面目にかつ楽しんで受けた
- ・ 楽しいと思えるほど、一生懸命とりくんだ
- レポートを提出するために
- ・ 座学よりは意欲的に取り組んだと思います
- 安全重視
- ・ 実験については、やや消極的であったと反省している
- ・ 主体的・意欲的で学習は行われなかった
- わからないことが多かったが、理解するように努力した
- ・ 1つの実習は一度しかないので、毎回集中して取り組んだ
- 安全に行った
- 安全を考えて
- ・ 単位をとれればよい
- ・ 主体性はあまりなかったとは思いますが、意欲はありました
- 協力をしながら、しっかりと着実に進めた
- ・ 事故を起こさないということを第一に考えて取り組んだ

#### 【地域環境工学科】

- 技術を身に付けようとした
- ・ 意欲的に取り組むように心がけた
- ・ とにかくレポートをがんばった。実験実習自体も集中して取り組んだ
- ・ 興味を持つ点を探しながら取り組んだ
- しっかり行う
- 暑い日,寒い日もあったが、きちんとできたと思っている
- ・ 自ら考え行動した
- ・ 自ら行動した
- ・ 実験は、授業で学んだことを実際に体験でき、理解が深まったし、楽しく受けることができた。実習は公務員の土木職の仕事を実際に体験でき、仕事の内容を具体的に理解でき、進路を考える上で、とても参考になりました。
- ・ 積極的に取り組もう
- ・ 将来身に付けるべきことであるため、意欲的に取り組んだ
- ・ 真剣に取り組んだ
- ・ 一般的な程度で
- ・ 積極的に取り組んだ
- ・ 普段の座学の応用ができてよかった
- ・ 意欲的に行った
- ・ 特になし
- あまり積極的でなかった
- ・ 真面目に取り組みました

- ・ 楽しいので進んで出来た
- サポートにまわりました
- ・ 実験には積極的に参加していたと思う

## (3) 大学在学中のカリキュラム(21世紀教育も含む)の中で,もっとも印象に残った科目があれば,その科目名と理由を記入して下さい。

講義の内容や教授法のすばらしさが理由で印象に残っている科目、代えがたい体験を理由に印象に残った実験実習科目、および単位取得に苦労した科目が記入されていた。これらの科目のうち、3人以上の学生さんが記入した科目は、学部全体では農学生命科学概論(生物学科2人と生物資源学科1人)、生物学科では生態学野外実験(27人中5人)と臨海実習(3人)、分子生命科学科では生体物理化学(12人中3人)、生物資源学科では応用昆虫学(19人中4人)、園芸農学科では農場実習(29人中8人)であった。

#### 【生物学科】

- 野外実習\*
- ・ 生物学野外実験\*:外宿して実験ができ、楽しかったため
- ・ 農学生命科学概論:大学生になって初めて実際に山へ行き,自然に触れたから
- ・ 哲学の基礎:どうしてあんなに人気だったのかよくわからない授業だった
- 発生生物学Ⅱ
- ・ 芸術の世界:将棋の授業があり、とても楽しかったし、授業としてあることも驚いた
- ・ 生化学Ⅱ:スライドを使っての講義でレジュメも配っていたが、どちらも見にくい(字や図が細かすぎて一番前でもスライドが見にくい、レジュメが読めない)ため、全く理解ができなかったから
- ・ 植物生態学:植物の生態について、いろいろ驚かされることが多く、とても面白かった
- ・ 白神山地に入れたのは、良い経験になった。野外実習もフィールドでの調査法を学べたので、 思い描いていた大学の講義に近くてよかったと思う
- ・ 基礎ゼミ 進化(城田)
- 野外実習\*:普段話せない先生方と話すことができ、楽しかった
- 今まで学んでいない言語だったから
- ・ 野外実習\*:実際に山に登ったり、昆虫にふれながら学ぶことができたため
- 野外実習\*:楽しかった
- ・ 英語: 教授のツバがとんできた
- 基礎ゼミ
- ・ 農学生命科学概論:学部について少し理解でき、知ることによって学部への愛着が少し生まれる
- ・ 英語Ⅱ:授業全てが英語で日本語が一切なかった。最初はとまどったが、良い経験だった
- ・ 生態学野外実験:泊まりで山に登ったり川に入ったり楽しみつつ生物を知ることができた
- ・ 英語Ⅲ: やる気のある学生ばかりで自分のモチベーションが上がった。授業内容もためになった

- ・ 専門英語で苦労しただけ、英語力がついた(気がする)と思います
- ・ 進化生態学: 今までに無い授業だった
- 臨海実習
- ・ 臨海実習:知らないことだらけで、知りたいことだらけであり、とても充実した科目だった から
- ・ プレゼンテーション演習Ⅱ:忙しい時期におびただしい宿題,課題があり,こなすのに苦労 した
- ・ 学生実験 I ・ II : 遺伝子から個体まで幅広く実験をしたことで卒業研究等にも使う実験技術を身につけられた
- ・ 臨海実習:自然を体感できた
- ・ 特になし

\*生態学野外実験と思われる(編者注)。

#### 【分子生命科学科】

- ・ 特になし
- ・ ない
- ・なし
- · 生体物理化学 I
- ・ ない
- ウイスル学:もともとウイルスに興味があったため
- ・ 基礎ゼミ:高校と大学の違いを感じた
- ・ 特になし
- ・ 最新医学の現状
- ・ 病害管理学:植物病理学が好きな科目だったため、また佐野先生の講義の早さと進め方が、 内容を理解するのに丁度よかった
- ・ 生体物理化学:なかなかとれなかったから
- ・ 英語:厳しかったから
- 特になし
- ・ 生化学 I: 興味分野を学べたから
- ・ 特になし
- ・なし
- ・ 生物有機化学 I:何回も履修し、多くの勉強時間いただいたので、今でも頭から離れません
- ・ 天然物化学:知識のない学生にたいしても理解できるよう説明やプリント類が大変工夫されていた
- ・ 生物有機化学 I:授業内容が薄いにもかかわらず、テスト範囲が膨大で求められることが多すぎた。改善求む
- ・ 生体物理化学:一番力を入れたから
- ・ない

# 【生物資源学科】

- 特になし
- ・ 栽培環境学:とても興味深い内容だったから
- 応用昆虫学
- ・ 応用昆虫学:自分で英語を訳してまとめるのが大変だったが、良い経験になった
- ・ 昆虫の学生実験:虫が苦手なので、いろんな意味で強く印象に残りました
- 第2言語:その国出身の人のスタイルで授業をしたから
- ・ 昆虫学実験:動物を扱う実験はあまり経験がなかったので、インパクトがあった
- ・ 植物バイオテクノロジーⅡ:教え方が丁寧で分かりやすかったから
- ・ 農学生命科学概論:他の学科の教授の話を聞くことができてよかった
- 有機化学 I:毎回の小テストが厳しかった
- ・ 応用昆虫学:不公平な成績評価が感じられるから
- ・ 教職科目「道徳」の講義が興味深かったです・教育現場で長年勤めてきた先生による、学校 現場の実情についての話に引き込まれ、演習で自ら教師となった気持ちで課題に取り組むの が、とても刺激になりました
- ・ 昆虫学実験:カイコを扱うのがはじめてだったから
- ・ 病害管理学:これからの農業における理想的な病害管理について講義を受け、深く共感する ことができた
- ・ 英語の講義で外国人の先生で、日本語が使えず苦労した
- 特になし
- ・なし
- ・ 応用昆虫学:一番真面目に講義を受けた。卒業がかかっているから
- プレゼンテーション実践 I: 短期間の中で学ぶにはあまり効果がなかった
- ・ 学生実験:配属前に全部のラボの実験を経験できたから
- ・ 将棋:授業として学べると思っていなかったから
- ・ 人を育む営み(J): 半年間基礎体温を測って、生理周期を書いた。これからも続けたいと思った。直接看護師として働いていた方が講師だったので、体験や身近にあった話を聞きながらの授業だったので、興味深かった

#### 【園芸農学科】

- ・ 農場実習:一生の思い出
- ・ 農業経営管理論:雑誌の紹介もあて、今話題となっているものから農家調査での自らの体験 談、就農しても使えるものばかりであった。毎回行われるリアクションペーパーでの質問も 毎回反映されていてよかった
- ・ 卒業研究です
- ・ 芸術の世界 (将棋のやつ):このような講義が存在することに驚いたので
- ・ 芸術の世界:ビートルズの音楽を聴いた 石堂先生の授業:今までにないスタイルでおもし ろかった
- 農場実習:体を動かしたから
- ・ 21 世紀の卓球

- ・ 特になし
- ・ 畜産系の講義:生命の神秘に、単純に興味があった
- ・ 環境と生活(だったような)2年生のとき:寄生虫の授業がおもしろかった。日頃聞くことがないので、自分でも調べてみたいと思うようになった
- ・ 農場実習:色々な経験ができ,農学について学べたため
- 農場実習
- ・ 分子生物学:受講した講義の中では一番試験がきつかった
- ・ 食農経済論:世界の農業の現状について詳細が理解出来た
- ・ 国際農業論:ビデオを使いながら、分かりやすく説明があった。毎度レポート提出があり、 少し苦労したが、コメントがついていたりして、うれしかった
- ・ 農場実習: 冬場のリンゴの剪定がすごく辛かったので
- 農場実習:真冬に外で活動したことが辛かったです
- ・ 農場実習:1年間にわたり、様々な体験ができた
- ・ 蔬菜園芸学 I ・蔬菜園芸学 II : 学びたいことがあり、楽しく講義を受けることができたから 植物バイオテクノロジー・作物生理学: 興味のあることであり、楽しく講義を受けることが できたから
- ・ レポート (ミニレポート3~4回程度) 出していれば、単位はもらえるよ。といった教授がいた講義があった (21世紀です)
- ・ ビートルズの時代を学ぶ講義:今にいたるまでの時代背景や現代との違いが見えた
- ・ 寄生虫学:実際に魚を解体し、寄生虫が入っているのを見たのがとても印象的だった
- 卒論成作
- ・ アフリカ入門:大学の講義は専門以外のことを学ぶのも面白いと思った
- ・ 特になし
- 地域農業戦略論
- 特になし
- ・ 地域農業戦略論(吉仲):経験談が多い。現場を知ってる
- ・ 農場実習: 先生に習っての実習で農業をした, 経験したというのは初めてだったからです。 家が農家だからといって習っているわけではなかったので
- ・ 農業思想論:戦後の日本農政を形つくってきた官僚の理論を詳しく教えていただいた。大変 に有意義である
- ・ 森林生態学:自分が最も受講したいと感じ、また、その内容に十分満足できたため

# 【地域環境工学科】

- 特になし
- ・ 社会と私:将来へのつながりが明確で、考える参考になったので
- ・ 農場実習:楽しかったから
- ・ 上級英語 A: すべて英語で行い, ディスカッションをするという時間は自分にとってすごく貴重なものだった
- ・ 環境水分学:たくさんの興味がもてた
- ・ 特になし

- ・ 山間地計画学Ⅱ:座学では、地すべりに関する内容や地形図の読み方を詳しく学ぶことができ、現地見学で実際に見て体験し、理解を深めることができ、非常に内容の濃い授業だったです
- ・ 保全生態学: 必修であるにも関わらず3年前期にこの単位を落としてしまい,4年前期に受け た唯一の講義であるため
- ・ 景観整備論:景観整備計画を実際にやったことが、印象に残った
- ・ 測量学:学んだことを実践する初めての授業だったから
- ・ 山間地環境学とオムニバスで行った地域環境工学実験:教員の説明がとても良かった。各分 野について広く学べる
- ・ 地球環境工学実験:普段の座学の応用ができてよかった
- ・ 特になし
- ・なし
- ・ 白神学:心に残る授業だった
- ・ 地域環境工学実習:今まで学んできた農業土木の知識を踏まえたものだったから
- ・なし
- 農

# [学生への教育支援,施設・設備について]

設問 12. 本学部や本学では皆さんに助言したり,皆さんからの相談・苦情を受け付けたり,皆さんのニーズを把握するために,下記のような10のルートを用意しています在学中あなたは次の(1)~(3)の項目について主にどれを利用しましたか。()内に番号を記入して下さい。

#### (1) 学業

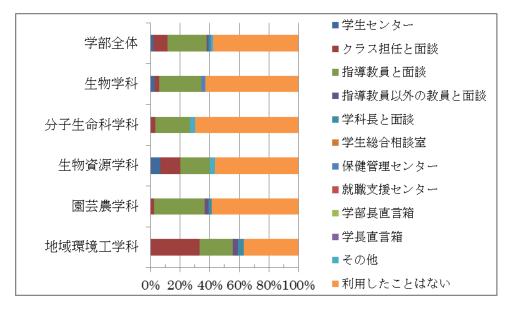


図 I-12(1). 学業に関する相談窓口

学業に関する相談の場合、学部全体では、最多は「利用したことはない」の 58%、「指導教員と面談」の 26%、次いで「クラス担任との面談」も 10%であった。この傾向は最近 3 年間変わ

っていない。ただし、学科単位で見ると、他学科と比較して地域環境工学科では「利用したことはない」が37%で最多であることは類似しているが、低い値である一方、「クラス担任と面談」(33%)と「指導教員と面談」(22%)の合計が55%と、他学科と比較して高いことが特徴である。地域環境工学科ではでは、昨年度の最多は「指導教員と面談」の50%で、「クラス担任と面談」の21%、次いで「利用したことはない」の13%であった。2年の結果を見ると地域環境工学科では相談窓口の利用率が高いと言える。同様の結果は平成23年度も観察されているので、学科としての積極的な取り組みの成果と考えられる。

# (2) 学生生活

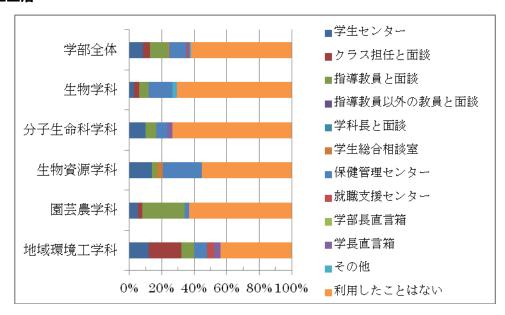


図 I-12(2). 学生生活に関する相談窓口

学生生活に関する相談の場合、学部全体では、最多は「利用したことはない」の 62%、次いで「保健管理センター」と「指導教員と面談」が同率の 11%であった。「利用したことはない」が最多で、「保健管理センター」が続くという傾向は、最近 3 年間同様である。本年は「保健管理センター」の利用が 24 年度の 18%と 25 年度の 23%と比べ減少している。

# (3) 進路

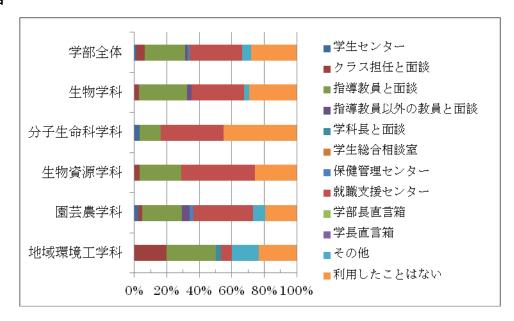
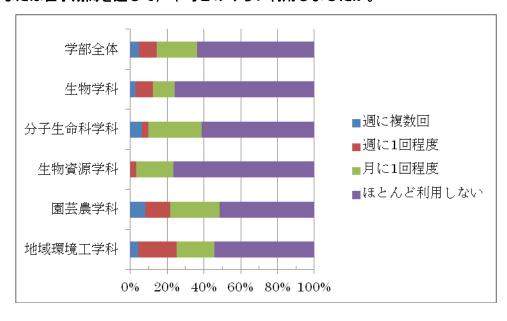


図 I-12(3). 進路に関する相談窓口

進路に関する相談の場合、学部全体では、最多は「就職支援センター」の 32%、2 番目が「利用したことはない」の 28%、次いで「指導教員と面談」の 25%であった。3 つがほぼ等しい割合で選択されるという傾向は、最近 3 年間同様である。地域環境工学科では平成 24 と 25 年度は最多が「就職支援センター」でそれぞれ 44%および 46%であったが、本年度は 7%に激減した。この学科では他学科と比べ「クラス担任との面談」(20%)と「その他」(16%)との回答が多いのが特徴である。分子生命科学科では「利用したことはない」が 45%(平成 25 年度は 54%)と、5 学科中で最多であった。

# 設問 13. 本学部図書閲覧室の利用について質問します。

# (1) あなたは在学期間を通して、平均どのくらい利用しましたか。



# 図 I-13(1). 本学部の図書閲覧室の利用頻度

本学部の図書閲覧室の利用頻度は、学部全体で見ると、最多は「ほとんど利用しない」の 64%、次いで「月に1回程度」の 22%、「週に1回程度」の 10%であった。この順位は、最近3年間と同様であったが、本年度は「ほとんど利用しない」の割合が平成24年度45%や平成25年度52%に比較して高くなった。学科単位でみると、各選択肢の割合に多少に違いはあるが、年度により変動が大きく、特定の学科に特徴的な傾向は認められない。

# (2) 以下の項目について、どのように感じていますか。該当する欄に〇を書き込んで下さい。

# 1. 所蔵図書(和書および洋書の単行本)

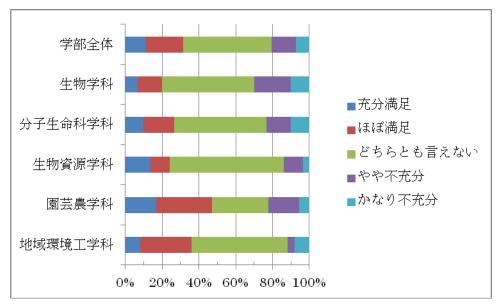


図 I-13(2)-1. 所蔵図書

本学部の図書閲覧室の所蔵図書について、学部全体では、最多が「どちらともいえない」の 48% であり、「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 31%、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は 21%であった。平成 25 年度は、「どちらともいえない」が 51%、「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 27%、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は 22%であった。平成 23 および 24 年度は、「充分満足」と「ほぼ満足」の合計が約 40%、「どちらともいえない」が約 40%であった。本年度も平成 25 年度と同様に、満足度が低下した分、どちらとも言えないが増加した。

設問 13 (1) で図書室をほとんど利用しないという回答が学部全体での集計で 52%に達しているので、「どちらともいえない」は「図書室の現状を知らない」の代替として選択されている可能性もある。

この設問はアンケート調査が開始された平成14年度から使われているが、調査開始後10年以上が経過し、本学部の「図書室」現在の実態は、「自習室」という名称の方が適切と思われる状況にある。従って、「所蔵図書」の満足度を問うのであれば、「図書館の利用状況」に関する設問を別に設けるのが望ましいと思われる。

# 2. 閲覧スペース

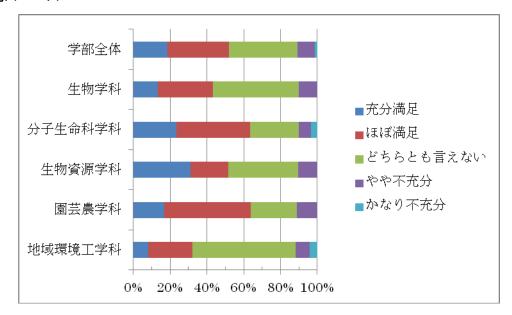


図 I -13(2)-2. 閲覧スペース

本学部の図書室の閲覧スペースについて、学部全体では、「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は52%、「どちらともいえない」は37%であり、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は21%であった。「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は平成22年度が29%、23年度が42%、24年度が60%、平成25年度が58%と上昇してきた。このような評価の上昇は、農学生命科学部後援会の援助により、図書室の閲覧スペースの整備改善を行ってきた結果であると推定される。

「自習室」の実態からすると設問は「閲覧スペース→自習スペース」に変更が望ましい。

# 3. 開館時間

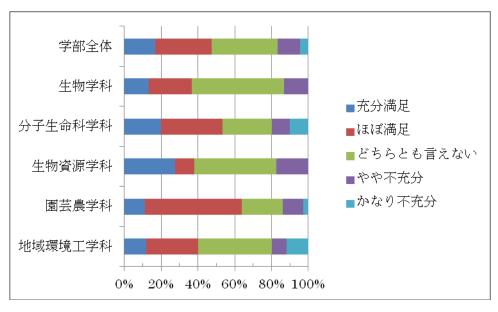


図 I-13(2)-3. 開館時間

本学部の図書閲覧室の開館時間について、学部全体では、「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は47%、

「どちらともいえない」は36%であり、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は17%であった。「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は、平成24年度は50%、平成25年度は52%であったので、本年度も同水準であった。「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は、平成23年度の31%、24年度の27%、25年度の18%と漸減してきている。

この設問も「自習室」の実態からすると「開館時間→利用時間」への変更が望ましい。

# 設問 14. 本学部の以下の施設について、どのように感じていますか。

# (1). 該当する欄に〇を書き込んで下さい。

# 1. 講義室

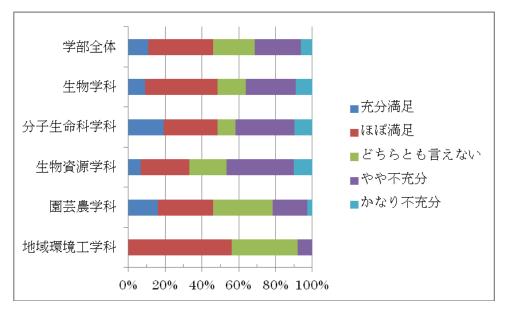


図 I -14(1)-1. 講義室

本学部の講義室について、学部全体では、「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 46%、「どちらともいえない」は 22%であり、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は 31%であった。「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は平成 22 年度 64%、平成 23 年度 52%、平成 24 年度 55%、平成 25 年度 61%であった。「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は平成 22 年度 17%、23 年度 22%、平成 24 年度 26%、平成 25 年度 20%であった。従って、本年度は満足度が低下する一方で不満足度が上昇した。

設問 14(2)の要望のうち講義室に関する要望で最も多かったのが冷暖房に関する要望であった。

# 2. 実験・実習室

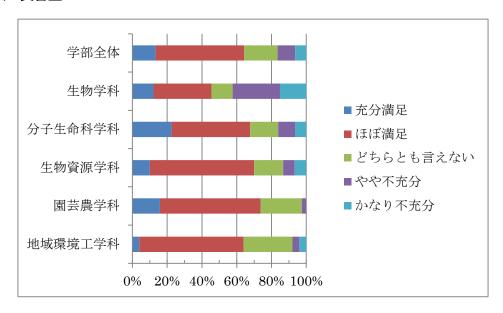


図 I-14(1)-2. 実験・実習室

本学部の実験・実習室について、学部全体では、「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 64%、「どちらともいえない」は 19%であり、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は 17%であった。「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は平成 23 年度 66%、平成 24 年度 71%、平成 25 年度 66%となっている。「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は 23 年度 13%、平成 24 年度 11%、平成 25 年度 17%となっている。

学科別に見た場合に、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計が最高値であったのは、平成23年度と24年度が地域環境工学科の約25%、25年度は生物学科の41%であったが、本年度も昨年度に同じく生物学科の42%であった。

生物学科では「やや不充分」と「かなり不充分」の合計が42%あったが、その理由として、顕 微鏡の破損や実験器具の不足が挙げられていた。

# 3. 情報処理演習室

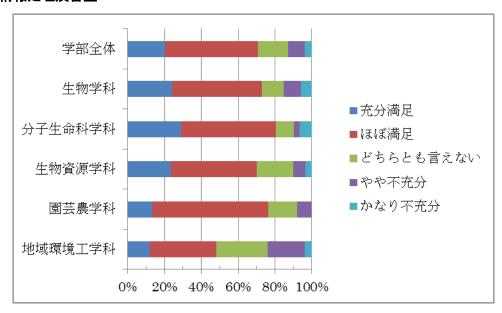


図 I-14(1)-3. 情報処理演習室

情報処理演習室について、学部全体では、「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 71%であった。平成 22 年度 67%、23 年度と 24 年度は 71%、25 年度は 79%と、過去にも満足度は高かったが、本年度もほぼ同水準にあった。但し、学科別に見ると地域環境工学科では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 48%と、他の 4 学科の 70~81%より低かった。同学科では平成  $23\rightarrow 24\rightarrow 25$  年度の数値は  $70\rightarrow 68\rightarrow 81\%$ であったので、本年度に急減した原因は不明である。

# 4. 卒業研究を行った研究室

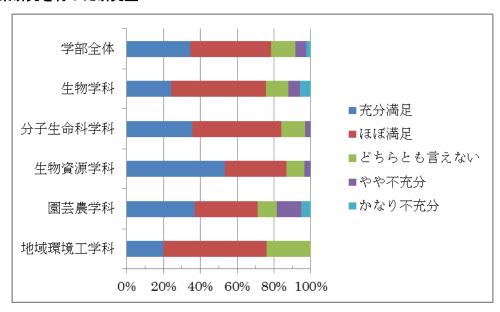


図 I -14(1)-4. 卒業研究を行なった研究室

卒業研究を行った研究室について、学部全体では、「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 78%であった。平成 22 年度 65%、23 年度 79%、24 年度は 74%、25 年度は 82%と、過去にも満足度は高

かったが、本年度も同様であった。学部全体での傾向と大きく異なる学科は無かった。

# (2). 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

延べ80件の要望があったが、最多は「講義室(特に401や402など)が夏は暑さで具合が悪くなるのに、冬は寒すぎて講義に集中できない。」や「冬の講義室、実験室が寒すぎてノートをとるのもままならない時が、しばしばあったので、改善してもらえるとありがたいです。」のような講義室の冷暖房に関しての要望で、29件(36%)あった。他に、実験室や施設は明記されていないが冷房設備の設置の要望が9件、図書閲覧室への要望が5件(各机への照明の設置、開館時間の延長、所蔵専門図書の拡充など)、卒業研究を行った研究室の面積が手狭であるとの指摘が4件、生物学科学生実験室での実験器具の不足の指摘が2件あった。

平成 25 年度は 38 件の要望があったが、講義室の冷房設備の設置 (7 件) および暖房設備の改善 (3 件) を合わせると、26%が冷暖房に関するものであった。冷暖房に関する要望が多いという点は、最近 3 年間変わらない。

#### 【生物学科】

#### 〈講義室〉

- ・ 講義室には冷房を備え付けてほしい!
- ・ 暖房設備を強化してほしい
- ・ 講義室 (特に 401 や 402 など) が夏は暑さで具合が悪くなるのに、冬は寒すぎて講義に集中できない。せめて扇風機を四隅においてほしい。夏も冬も空気を回すことでだいぶ集中出来るようになると思う
- ・ 夏にクーラーをつけてほしい (講義室と実験室)
- ・ 各講義室に電波時計があったら便利だと思います
- ・ 設備不十分。寒い。暑い
- ・ 講義室が寒い
- ・ 講義で使われるマイクがよく使えない状態になって、途中から後の席の人まで声が届かなく なることが多かった。冬の暖房のせいで、備付のプロジェクターが自動停止して授業続行出 来なくなることが、ときどきあった

#### 〈実験・実習室〉

- ・ 生物学科実習室に、人数分の実験器具(顕微鏡やピペットマン)がそろっていない。実験器 具がそろっていないので、限られた人しか実習を十分に行えない不公平感が生じていた。
- ・ 実験・実習室:顕微鏡など壊れている,学生の使用マナー悪いため?

## 〈情報処理演習室〉

・PC動作重い。ネットのつながり悪い

# 〈卒業研究を行った研究室〉

・ 実験室が狭い。農生の研究室は、夏暑く冬寒いのでコラボみたいな冷暖房がほしい。

- ・研究室の人数とスペースの割り当てが一致していない。(研究室に人がいないのに広いところがある) 恒常的に人数が少ない研究室は,恒常的に人数の多い研究室より小さい部屋に割り当てられるように変更してほしい。自分の研究室は人と物が多く、少ないスペースだが、黒尾研は、人も物も多くないのに、広いスペースを使っていて、合理的でない。部屋の割り当てを人数と物品の多さを考えて合理的に行ってほしい。黒尾研のスペースに東研が入るなどの変更をしなければ、研究室によって机が余って誰も使っていない所があるのに、他の研究室では机をもらえない人がでるなど、大学にとっても不利益が生じる。研究室の人数にあったスペースを割り当ててほしいです。
- ・ 研究室が少し狭い
- ・ 研究するのに生物を飼っている部屋の温度調節ができなくて、夏冬が大変だった(生存率的に)冬でも暖房より冷房がつくようにしたかった。
- ・ 卒研を行った研究室にかんして:狭い

# 〈その他の施設〉

- 「読み物」としての本は少ないように思う(図書館)小説や書籍があればもっと行きやすい。
- ・ 9月は、トイレの便座を付けてください。全体的に冬は寒いです。講義中もコートを着てました。
- ・ 図書館:祝日等もあけてほしい。 農生図書閲覧室:冬寒い(秋も)照明が遠すぎて手元が 暗く字読みにくい。机1つに1つ照明つけてほしい。
- ・ 大学図書館があるので、学部図書館を使うメリットが分からない(ここにしかない本があるのか?)
- ・ 所蔵図書に関して、生態学に関する内容の本(洋書も含めて)が基礎生物学の本よりも少ないので、もっと増やしてほしい。
- ・ 夜、農生の廊下が暗い(たまに明かりがつかない。消えるのがはやい)。
- 図書室で、ライフサイエンス系の雑誌で閲覧できるものが少ない。

# 【分子生命科学科】

# 〈講義室〉

- ・ 少し講義室が寒く感じられる時がありました。出来ればもう少し暖房の温かみがほしいです
- 講義室がたまにきたないときがある。ゴミがおちていたり、ケシカスなど
- ・ 冬の講義室,実験室が寒すぎてノートをとるのもままならない時が,しばしばあったので, 改善してもらえるとありがたいです
- ・ 空調の設定と窓に網戸があればと思いました
- 寒い
- 夏暑くてやってられない。クーラーを付けて欲しい。
- 仕方ないとは思いますが、暑い
- ・ 講義室の冷暖房が不十分。講義の妨げになりかねない
- 冷房をつけてほしい

# 〈情報処理演習室〉

- PC を使える場所が全て土足禁止なのがイヤだった
- ・ 冬暖房がちゃんとつくようにしてほしい(情報処理演習室)

#### 〈その他の施設〉

- ・ 図書館で借りられる本に関して、学部研究室にしかない本が多すぎる。Linux について学びたい、星のおうじさまを読みたいというときに利用できない。
- ・ 他学部と比べて老朽化している(全体的に)
- ・ 図書閲覧室の閉館が 19:00 というのは早すぎる。22:00 までに延ばすべき

# 【生物資源学科】

# 〈講義室〉

- ・ (冬期の)寒い講義室と過暖房の講義室の差が激しい。バランスを取って欲しい
- 講義室にエアコンを設置してほしい
- ・ 夏場の冷房があれば勉強しやすいと思った
- ・ 空調の管理をもっと適切にしてほしい。夏は冷房がほとんど効かず、冬は暖房が効きすぎて 暑い
- 講義室は夏が暑かった
- ・ 講義室をもう少し勉強に集中出来る環境にしてほしいです
- ・ 夏場は空調を完備してほしい。学生の学習に対するモチベーションが暑さで下がっていると 思う
- ・ 講義室には冷暖房が欲しかった
- ・ クーラーが欲しい
- ・ 講義室がきたない。利用する生徒がきれいに使わないのも悪いが、掃除をもう少しやってほ しい。暖房入る時期が遅い

# 〈その他の施設〉

- ・ 現状で特に不便はなかったと思う
- ・ 農学部の校舎が暗い印象があるので、明るくするために、廊下に観葉植物や花などを飾って はいかがでしょうか?節電に取り組むのは良いことだと思うので、少し明るくなる工夫をし ていただけるとうれしいです
- ・ GRC のスリッパを一度きれいにしてほしいです
- ・ 食べ物の自動販売機がほしい。教育学部みたいに
- ・ 図書室での専門書を増やしてほしい(分野問わず)

# 【園芸農学科】

## 〈講義室〉

- ・ 402 が寒すぎる。移動の際に、1 階下におりなければならず不便。・
- ・ 講義中の寒さが気になる時、カーテンレールが壊れる、プロジェクターの起動がスムーズじゃない時があった
- ・ 夏が暑すぎる

- ・ 講義室は、時々寒すぎたり暑すぎたりと極端なことがあった(クーラーほしいかも)
- ・ 講義室の冷房が欲しい
- 402 が使いにくい

# 〈実験・実習室〉

・ エアコンが欲しいです (実験室に)

# 〈情報処理演習室〉

・ 情報処理演習室ですが、できれば机の上を掃除してほしい。ホコリがすごいことがあって、 身体的にきついことがあった

#### 〈卒業研究を行った研究室〉

- ・ 卒業研究を行った研究室について、人数が多いのに冷房がなく、しかも風通しが悪いので夏 はつらかった。
- ・ 研究室のスペースがたりていない所もあったので、そういった所へ部屋が欲しかったです

#### 〈その他の施設〉

- ・ タバコを吸える部屋を用意して欲しい
- ・ 特になし
- ・なし
- クーラー完備
- そろそろ飲酒禁止をやめてほしいです
- ・ 研究室に所属学生が全員受け入れるようになってほしいです
- ・ 図書館には、専門書ばっかりで小説や面白そうな本が少ないと思う。なので、行っても正直 面白いと思えない。
- 冷房が欲しい
- 冷房が欲しい

#### 【地域環境工学科】

# 〈情報処理演習室〉

- 情報処理演習室
- ・ 情報処理演習室のパソコンの起動・動作が遅すぎる。たびたびフリーズを起こす。→新しい パソコンに更新される前のことです。新しいものにはまだ触れてません。

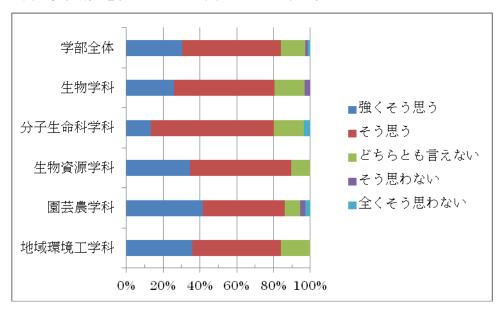
#### 〈その他の施設〉

- ・ 夏の換気をもう少し改善してほしい
- ちょうど良い気温のときがなかった
- ・ 図書館は、24時間毎日開いて欲しい
- ・ 夏場なんとかしてほしい
- ・ 夏は冷房がほしい。冬は暖房が効きすぎて暑い

- クーラーがほしい。あってもすぐ止まる
- ・ 分煙施設を作るべきだと思う

# [卒業研究について]

# 設問 15. (1) 卒業研究を行ったことに満足していますか。



図Ⅰ-15. 卒業研究を行なったことに対する満足度

卒業研究を行なったことに対する満足度は学部全体では、「強くそう思う」と「そう思う」の合計が84%に達し、平成22年度の75%、23年度84%、24年度80%、平成25年度の86%と同様に高値であった。卒業研究は好評であることが判る。学科間でも大差なく、全ての学科で満足度が高い。一方で、回答した151人中、24人が「どちらとも言えない」、「そう思わない」および「全くそう思わない」を選択している。

「どちらとも言えない」の理由として、例えば「内容的にやや不十分に感じた」や「思うようにならない点が多く、時間がもっと必要であったため」といった自省的内容があった。また、「入社に向けて勉強したいのに卒業研究があるため、それができないから。」や「卒業研究に対するアプローチの仕方や組み立てなどは、社会に出ても活かせると思った。ただ教授が気むずかしく対話が少ない。成功に対してかなり遠回りした。」のように教員と学生とのコミュニケーション不足に起因すると思われる理由があった。

「そう思わない」の理由として「身になると思わなかった」と「もっと自分にできることがあったのではないかと思う。じぶんならもっとやれたはずなのにと思うと悔しい。」があった。

「全くそう思わない」の理由として「他の研究室との待遇の差が気にくわない。ゆるいところときびしいところの差が激しく、それでいて単位数は同じ。入るまで研究室のことはわからないのに、入ってからがあまりに周りの研究室と違いすぎて嫌になる。」と「担当教授からの助言がほぼなく、それでいて少量ある助言の内容が二転三転していて、満足いくように行えなかったから。」があった。

# (2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

# 1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない

# 5. 全くそう思わない

#### 【生物学科】

- 1 作業をすることで、生物に触れることが何がおきているのか理解することができた。
- 1 やりとげた感があるから
- 1 卒業研究がなければほぼ一時的にしか覚えていないようなことしか勉強しなかったから
- 1 初めて真面目にやれる。次につながった
- 1 フィールドでの調査において自分で計画を立て、データを取り、まとめる能力がついた。興味のあった自然現象に理解が深まった。英語力がついた
- 1 自分の興味のある題材に深く関わることができたため
- 1 指導教員が熱心に指導してくださったため(卒論の時間,順番などがまわってくるのが遅い)
- 1 1つのテーマに対して責任をもって計画・活動出来たことは今後の人生の糧になったと思う
- 2 おもしろいテーマをもらえて、それを研究していて自分のスキルが上昇していくのが感じられたから
- 2 自分が大学で学んだ事を、自分の力だけで行ったことだから
- 2 自分のやりたかった研究ができたため
- 2 専門的な技術を身につけることができたため
- 2 今すごく死にそうです。でも頑張る
- 2 ここでしかできない経験ができたから
- 2 実際にひとつのテーマに関して、サンプルの採集から処理、統計解析までやる機会があったことは良かった
- 2 必要であればやらなければならないから
- 2 長い研究の歯車となれた
- 2 具体的に科学するという体験ができたから
- 2 自分のすきなようにやれる実験ができた。少し設備がたりなくて出来なかったことがあったの が残念だった
- 2 自分の興味のある分野を研究することができたから
- 2 生物学をより深く学ぶきっかけにもなったから。物事を論理的に考える力を身につける良い機会だった
- 2 やれることはやったので
- 2 論文を読み書く。そしてプレゼンする。実験以外の力がたくさんついた
- 3 入社に向けて勉強したいのに卒業研究があるため、それができないから
- 3 必要なら行うべきと受け取っているから
- 3 研究内容はどちらかといえば、自分の興味がないことだった。しかし実験は3年の冬から卒論 発表ギリギリまでずっとやっていたので、もうやりたくないくらい充分やった
- 3 就職活動等を優先したため、思うように実験を進められなかったから
- 4 もっと自分にできることがあったのではないかと思う。じぶんならもっとやれたはずなのにと 思うと悔しい

# 【分子生命科学科】

- 1 やりがいがあったため。
- 1 指導教員の先生にとても良くしていただきました。研究のノウハウや研究者としての心得等も 教えていただけたと思います。弘前大に来て良かったです。
- 1 日々を共に過ごしたラボメンバー同士で協力しながら 1 つのことを成し遂げたことは非常に 有意義だった。
- 1 研究室のメンバーと先生には本当に恵まれた。その中で研究できたことは本当に良い経験になった。
- 2 本学科で学んで来たことの集大成を、形として残すことが出来たため
- 2 内容の善し悪しは別にして、研究というものを体験できたし、その中での問題解決等のプロセス・構造的なものを学べたので良かったと思う
- 2 もう少し文系みたいに暇な時間はほしかったけれど、全体的に見れば良かったと思うから
- 2 学生実験ではやらないような実験ができた
- 2 所属したゼミでの研究内容をより深く学ぶことが出来た
- 2 4年間の集大成といういみで必要
- 2 自分が入学してから得た知識と教わった実験技術を使って研究室で1年半行ってきたことを1 つの形にまとめることで達成感が得られた
- 2 学生実験では、グループで1つの課題に取り組んだが、卒業研究では1人ひとり異なる課題を 与えられたので、学校生活ではあまり味わえなかった責任感を感じた
- 2 自分の知識が深められたから
- 2 いい経験になったと思う
- 2 大変楽しかった
- 2 より興味分野やの知識が深まった
- 2 卒業研究を行うにあたって、研究室配属が遅く、十分な時間を得られなかった
- 2 自主的に取り組むことの必要性や自分がやりとげたことの結果を知るために必要だったと思うため
- 2 1つのことに向き合って様々な知識を得ることができたから
- 2 毎日頑張った
- 2 学生実験とは違って、1年間という時間を使い研究したことは、大学、又、分子生命科に入学し、それらしい事ができたと思うから
- 2 研究というものを実感できたから
- 3 まだまだ研究が途中の段階だから
- 3 内容的にやや不十分に感じた
- 3 研究自体はいいが、卒業研究を行わないと卒業できないのだからこの設問は意味がわからない
- 3 まだよく分からない
- 5 他の研究室との待遇の差が気にくわない。ゆるいところときびしいところの差が激しく、それでいて単位数は同じ。入るまで研究室のことはわからないのに、入ってからがあまりに周りの研究室と違いすぎて嫌になる

# 【生物資源学科】

- 1 自分の専門領域を確立する上で、約1年半の間にわたり研究を行えたことは、知識・技術力を 身につけるあたり非常に有意義でした。
- 1 所属までと比べて,毎日のしていることの密度が増え,充実感もあったし,こんなに1つのことに打ち込める機会はそうはないから。
- 1 自分が興味のあることに、1年かけて取り組めたから
- 1 今までのカリキュラムを通して、身についたことを実際に試すことができるため
- 1 自分だけに与えられた課題をこなしていくことから、責任感や向上心が生まれたためです。
- 1 研究内容が全てではなく、社会に出たときに必要なことも学べたから
- 1 やりがいを感じているため
- 2 最終目標を設定し、その中で計画を立て作業や研究を行うことは、様々な経験ができてよかった
- 2 大学に入る理由の1つに沿った研究ができた
- 2 設備もそろっていたし、自分の提案が今後の実験につながることもあったから
- 2 ある程度の結果を出すことができたと思うため
- 2 指導教員の先生が、とても熱心に指導してくださったし、卒業研究を行うことで、卒業後の進 路選択にも役だったから
- 2 本来, 自分がやりたかった研究をすることができたから
- 2 1つのテーマに着目し、一所懸命成果を出そうと努力できたから
- 2 社会人になっても必要でありそうな技術が身についた。ワード・エクセル・プレゼンなど
- 2 座学だけでは学べないことを多く学べた
- 2 来年度以降の研究の地力がついたとおもうから
- 2 自分自身の今まで行ってきた実験の集大成であるし、それを人に見せて評価を得られるのはうれしいから
- 2 大学生活中に学んだことの集大成になった
- 2 学業において、長期間に渡って、1つのことを行ったことがなかったから
- 2 やりきったという気持ちもあるが、卒業研究のための実験の量がおおすぎる。コアタイム内で 終わる量で計画を立てて欲しい。寝る時間ないほど実験するのはつらい
- 3 あまり自分がやりたい研究ではなかったから
- 3 開始時期が半期早くてもいいと思う。就活との兼ね合いもあるが、植物・動物の世話等あると 思うので、はやいことに越したことはないと思う

# 【園芸農学科】

- 1 苦しい場面も多かったが充実していた
- 1 計画・実行の過程は、就職したときの仕事を進める上で、役立つと思った
- 1 文章能力を鍛えられたし、何より調査やアンケート調査を行って、様々な問題点や特徴点が見つかることが楽しかったし、主体的に行動することで、社会に出てから役立つことが多かったと思うから
- 1 自分の興味のあることに対して時間をかけて取り組むことができたため
- 1 自分の大学生活をまとめることができる集大成となったため

- 1 何かにこんなに長期間取り組んだことはなかった
- 1 大変だったが、自らの悪いところが浮き彫りになり、役に立つと感じたため
- 1 卒業研究を行っていた時期に一番、学びに対する欲が高まったから
- 1 主体的に動かなければ何でもできない自分を再確認した
- 1 研究を通して色々学ぶことができたから
- 1 専門的な1つの分野を深く学ぶことができたから
- 1 希望していたことを研究できたから
- 1 これから経験できないため
- 1 しっかりと熱意をもって取り組めたと思うから
- 1 研究を行い、新しいものを発見するために探究するということを、身をもって体験できたので
- 2 まだ現時点では終わっていないが、一番充実していた時間だと思うから
- 2 興味がある分野を深くさぐれるから
- 2 自分のもっている知識・技術がどこまで使えるかわかったため
- 2 問題の発見から解決までのプロセスを学び、経験することは、思考回路を成長させると思う
- 2 人生の中で、滅多に経験できない研究を自分の手で行えたことにとても満足しています。しかしながら自分の未熟さ故にあまり意義のある研究ではなかったかもしれないという不安も存在しています
- 2 自身でテーマを決め、進めていくことは、長期のスパンでは初めてのことであり、良い経験に なった
- 2 研究を行ってゆくことで、段階を経る度に達成感が得られ、面白いと思った。また、専門知識を深めることが出来たと思った
- 2 色々な実験や機械を使えるのが楽しかったため
- 2 分からない事だらけの状態からスタートしたので、悩んでばかりだったが、その反面達成感を 感じることも多くあった
- 2 楽しかったから
- 2 目標に向け、1年以上取り組んだことは、貴重な体験であり、充実した大学生活を送ることができた
- 2 それなりに自分で考えて、何かをやりとげる経験は、今後生活していく上で、重要なことであるから
- 2 将来に活かすことができると思うから
- 2 人生で最初で最後の論文だから
- 3 卒業研究を行えたこと自体に不満はない。しかし、就職活動が思いの外長引いてしまったため、 調査や文章を書くのに必要な時間がとれなかった。ただし、私自身が怠けていたことも原因で す。ごめんなさい
- 3 卒業研究に対するアプローチの仕方や組み立てなどは、社会に出ても活かせると思った。ただ 教授が気むずかしく対話が少ない。成功に対してかなり遠回りした
- 3 よく分からないことが多かったから
- 4 身になると思わなかった
- 5 担当教授からの助言がほぼなく、それでいて少量ある助言の内容が二転三転していて、満足い くように行えなかったから

選択枝不明 短い期間だったので、満足とかそういう気持ちを持つ余裕はなかった。感覚的には中学生等の夏休みの自由研究の延長のような感じだったかもしれない

# 【地域環境工学科】

- 1 大変ではあったが、よい経験ができた。今後の人生においても力になるような気がしたから
- 1 大変だった分、研究を行えたことに満足しているため
- 1 面白いから
- 1 好きなことにのめり込んでいるから
- 1 4年過ごしてきた自ら進んで取り組む事を初めてできたため
- 1 卒業研究では、何事もその作業をする目的・動機を明確にして、計画的に行うことの大切さを 再認識したため
- 1 自分の研究したかったことができ、今後に役立てたいと感じたから
- 1 自分のしたいことができたから
- 2 就職してからも役立つ知識が得られたため
- 2 勉強してきたことの総まとめとしてやりがいがある
- 2 何かの事柄を解明することは達成感があります
- 2 自分で興味があることに対して深く考えることができた
- 2 就職試験にプラスになるようなことを、研究できたため
- 2 先生が学生の考えを主体にして卒業研究を進めてくださったから
- 2 興味を持って取り組むことができたから
- 2 締めくくりとして、自分なりに成し遂げる力が身についた
- 2 学んだ知識を十分に生かせられたから
- 2 自分の興味のあるこっとを研究できたため
- 2 全力でがんばったから
- 2 研究内容そのものは面白く興味深いものであったから
- 3 思うようにならない点が多く、時間がもっと必要であったため
- 3 内容の濃さを自力で告出来なかった
- 3 なんとなくで始めた研究であったため

設問 16. (1) あなたの卒業後の進路は次のどれですか。

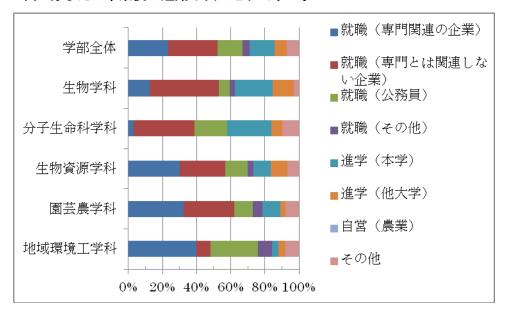


図 I-16(1). 卒業後の進路

学部全体では就職した者の割合は 71%で、平成 23 年度 58%、24 年度の 63%、平成 25 年度の 59%と比較して、高い数値となった。進学(本学と他大学)した者の割合は 22%で、平成 23 年度と 24 年度の 30%、平成 25 年度の 37%と比較して低い数値となった。このうち、大学院(他大学)への進学者は 7%で、平成 23 と 24 年度の 10%より微減、平成 25 年度の 7%と同値であった。 自営(農業)に進んだ者は平成 23~25 年度には 1 名ずついたが、本年度は無かった。

学科単位でみると、就職した者の割合が高いのは、地域環境工学科の84%、園芸農学科の78%、生物資源学科の73%であった。このうち地域環境工学科は就職(公務員)した者の割合が、28%と高かった。一方、進学(本学と他大学)した者の割合が高いのは、生物学科の34%、分子生命科学科の32%、生物資源学科の20%であった。以上の学科単位での進路の特徴は、最近3年で変わらない。進学(本学と他大学)した者の割合は、平成24と25年度が生物学科で33と66%、分子生命科学科で53と55%、生物資源学科で38と32%であったので、本年度は昨年度に比べて激減している。地域環境工学科では、平成25年度は大学院に進学した者(本学と他大学)はいなかったが、本年度は2名(8%)が進学した。

# (2) 本学部のカリキュラムで学んだことは、進路にどのように影響しましたか。

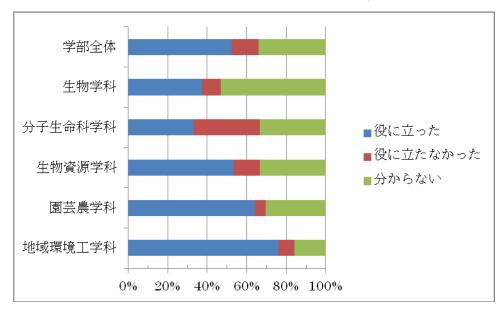


図 16(2). カリキュラムで学んだことはどのように進路に影響したか

カリキュラムで学んだことはどのように進路に影響したかについて、学部全体では「役に立った」は53%、「役に立たなかった」は14%であった。平成23年度はそれぞれ、49%と10%、24年度はそれぞれ、47%と17%、25年度はそれぞれ61%と11%であったので、傾向は変わっていない。

学科単位で見ると、「役に立った」が最多であったのは地域環境工学科の76%で、最小であったのは分子生命科学科の33%であった。一方、「役に立たなかった」が最多なのは分子生命科学科の30%で最小なのは園芸農学科の5.6%であった。「役に立った」が最多の地域環境工学科では就職(専門関連の企業)と就職(公務員)への就職の割合が68%で、5 学科中最多であることと関連があると考えられる。一方、「役に立たなかった」が最多の分子生命科学科では就職(専門関連の企業)への就職割合が他の4 学科で13~40%(4~12 名)であるのに対し、僅かに3%(1 名)に過ぎないことと関連している可能性が考えられる。

# (3) 本学および本学部の進路支援に対する取り組みは充分だったと思いますか。

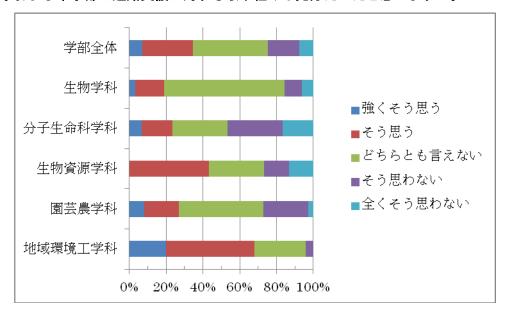


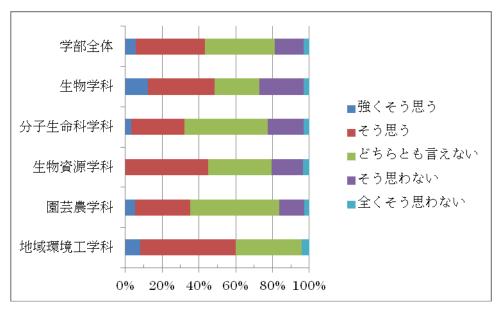
図 I-16(3). 本学部の進路支援の取り組みは充分か

本学部の進路支援の取り組みは充分だったかに対して、学部全体では「強くそう思う」と「そう思う」の合計は34%で、「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計が25%で、肯定的評価と否定的評価が拮抗していた。平成22年度はそれぞれ30%と29%、23年度はそれぞれ45%と19%、24年度はそれぞれ36%と15%、平成25年度はそれぞれ33%と25%であった。平成23と24年度は「肯定的評価>否定的評価」であったが、他は本年度と同様に「肯定的評価≒否定的評価」であった。

学科単位でみると、分子生命科学科では「強くそう思う」と「そう思う」の合計が23%と生物学科の19%に次いで低く、一方で、「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計が47%で5学科最高値であった。これと対照的に、地域環境工学科では「強くそう思う」と「そう思う」の合計が68%である一方で、「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計が4%で、それぞれ5学科中で最高および最低値であった。この相違には、進路に関する相談先に関する設問12(3)で、いずれの相談先も「利用したことはない」と回答した割合が分子生命科学科は5学科中最高値の45%であるのに対し、地域環境工学科は園芸農学科の19%に次ぐ低い値の23%であったことが関連しているかも知れない。

# [本学部の教育のあり方について]

設問 17.(1) あなたが本学部を卒業するに当たり、大学卒業者としての知識や学力を身に付けたと感じていますか。



図Ⅰ-17. 大学卒業者としての知識や学力を身に着けたか

大学卒業者としての知識や学力を身に着けたかに対して、学部全体では「強くそう思う」と「そう思う」の合計が43%で、「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計の19%を大きく上回っていた。平成22年度はそれぞれ37%と25%、23年度と24年度はそれぞれ49%と13%、平成25年度はそれぞれ48%と15%で、本年度も同様の数値になっている。

学科単位でみると、「強くそう思う」と「そう思う」の合計が最も高かった学科と低かった学科は、それぞれ地域環境工学科と分子生命科学科でその差は28ポイントであった。23年度はそれぞれ地域環境工学科と分子生命科学科、24年度はそれぞれ地域環境工学科と生物資源学科で、いずれの年度も差が30ポイント程度あった。平成25年度はそれぞれ生物学科と生物資源学科でその差は16ポイントで、差が縮小されたが、本年度の差は28ポイントと、再度拡大した。

「そう思わない」や「全くそう思わない」理由として、知識や学力不足あるいは社会人基礎力 の不足を挙げている。

# (2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

- 1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない
- 5. 全くそう思わない

#### 【生物学科】

- 1 将来の目標ができたので。知識は自然とつくと感じた。
- 1 さまざまな講義を通じて専門的な知識を得られた
- 1 論理立てての考察等が卒業研究に求められるので、事象をいかように処理する能力については 大学卒業者相応のものを得たつもりである
- 1 専門企業への就職活動にあたって、身につけた知識や卒業研究が評価されたと思うからです。
- 2 農業についてとても知識と経験を得られた
- 2 この学科ならではの専門知識が身についたと思う
- 2 生物に強い関心のある友人が多くできたことで、講義以外の場でもディスカッションを重ね、

生物への知識は増えたと感じるため

- 2 物事に対する忍耐力がついたから
- 2 高卒の人と話が合わなくなった
- 2 高校よりは専門知識増えたと思う
- 2 自分から進んで学びに行った知識,技術に誇りを持っているため
- 2 以前より知識が深まった。考えること、分からない事を見つけることができるようになった
- 2 大学入学時と比較して、専門分野に特化した知識を十分につけたと思うから
- 2 知識の幅が格段に広がった
- 2 生物学科としての知識はもちろん、ゼミないでの発表などで、スライド作成や発表の仕方など を学べた
- 3 社会に出て十分対応できるか不安
- 3 専門以外の知識にだけは、疎くなる気がする
- 3 あまり大学は総合大学の割には、広い社会と感じなかった。せまい社会のまま、大きな社会に 行くという不安は残る
- 3 知識はあっても、学力はないとおもったから
- 3 がんばれば、もっと勉強出来たと思うから
- 3 ほとんど講義で学んだことは覚えていないが、物事を考察する力は若干ついたのかなという印象ではっきりしていないため
- 3 上記それらを意識し心がけるきっかけになったが、はたして自分の身についたかどうかは不安 なところであるため
- 4 講義で学んだことを多く忘れてしまったから
- 4 もっと広く深い知識を身につけているはずだった。努力不足だった。
- 4 知識に偏りがあり、関わりの少ない部分は、高校生と変わらない知識力だと思う
- 4 1~3年の講義内容は、ほとんど頭に残っていない
- 4 自分の学習で補わなければならない知識や学力に他大学との差をかんじたため
- 4 研究室によって差がありすぎる。こんなんで卒業でいいのかと思う人もいる
- 5 勉学の面では知識を得られているかもしれないが、大学を通してその他のものは身についてい ないと感じる

# 【分子生命科学科】

- 1 前よりも社交的になれたと思うから
- 2 広域にわたる知識を授業から得られたと感じたため
- 2 講義を受けてから、しばらくたつので忘れている知識も多少あると思うが、教科書なりノートなりを見せれば、その分野の概略は理解できる。また、深く調べても理解出来る素養はあると考えたので
- 2 振り返ってみると少し悔いが残ることもあったので、少しは進歩できたかなと思った
- 2 社会に出るとはどういうことか先生方におしかりを受け、身になったと思っております
- 2 そう思えないと卒業なんてできないから
- 2 勉強したる~と思ったため
- 3 身につけたと思う反面この程度なのかという感じがある

- 3 あまりイメージがわかないため
- 3 その場限りの知識が多少あったと感じる
- 3 自分次第で、今よりももっと知識や経験がつめたと思うから
- 3 少なくとも講義で学んだことは何一つ役に立たなかった。大卒という価値しかない
- 3 自身の学力・知識等に、まだまだだとおもうので(院で、もっと学びたい、学んで、それ以上 の力を身につけたいです)
- 3 専門分野以外の知識があまり身についていないため
- 3 学部から学んだkとは、専門知識で、今後にいらない
- 3 自分の究研(考え)を人に伝える能力がたりてないと思うから
- 3 特に専門への就職ではないため
- 3 勉強・研究するにあたり、まだ自ら(積極的に)学ぶ事ができた気がするから
- 3 知識は確かに身についているが、自分の専門分野のみである。かなり偏っていると思う
- 4 学んできた専門分野が全く活かされてないであろう所に就職するから
- 4 ゼミで学んだ分野以外の領域が、一度は講義でやったものの知識として身についたとは思えないから
- 4 自分にはまだ知らないことがたくさんあるから
- 4 英語での会話が困難であると感じるため
- 5 何も身につけていない

#### 【生物資源学科】

- 2 「~学」という形で、学問の基礎分野もしくは全体を学べたことで、自分の専門とする学術知識を形成できたので、上記のように考えました
- 2 食中毒について詳しく知り、生活に活かせたから
- 2 実験の原理などを理解したから
- 2 専門知識も身につけることができたから
- 2 本学部に相応した知識を修得することができたと思うから
- 2 プレゼン能力が,講義や実習を経て身についたと思う。これは社会に出てからも役立つとおもうから
- 2 世の中の農業のニュースに自分の考えを持てるようになったから
- 2 自ら考え行動することができるようになった
- 2 入学前とは比べものにならないくらい、農業に関する知識を身に付けたから
- 2 相応かはわからないが、大学にこなければ書籍で勉強してもしることができなかった知識を得ることが出来たと思う。特に、学生実験や卒業研究で実際に研究することで理的に考える能力 や実験技術が身についたと強く思う
- 3 もっと取り組みたいことは、まだまだあった点は、物足りなさを感じる反面、取り組んできた こと一つ一つから学ぶものはあったと思える
- 3 自分ではよくわからない
- 3 知識はもちろん増えたが、さらに自分で深く調べるなどはしていないため、大学卒業者相応とはいえないかもしれないから
- 3 卒業後実際生かせる点が分からないため

- 3 専門知識は身についたが、それ以外に対して伸びたとは言えないから
- 3 専門知識はある程度身についてと思うが、実際の現場で活かせるか分からない
- 3 イメージできないため
- 4 成績評価の基準が良くわからないため、なんとなく受講していた講義で、よい評価をもらえたり、その逆のことなどがあり、知識に偏りが生じたため
- 4 まだまだ自主的な学習が未熟であると思ったからです。又,政治的なニュースの関心が低く, 大人として選挙で投票できるような知識が不足していると思います
- 選択肢不明 高校生よりは専門的な知識は多いが、大学生としてはまだまだ知識や学力が不足しているように感じる
- 4 身についたのは、知識や学力ではなく、経験だと思うから
- 4 就職活動も3年早ければ2年後期からはじめる現状で、知識を養うのは難しいと思える

# 【園芸農学科】

- 1 食や農に対する知識を身に付けられたため
- 1 指導教員が厳しく指導してくれたため
- 2 大学で学んだこともそうだが、余りある時間の内に得た見識は、高卒時代の自分とは遙かに異なるものだという実感があるから
- 2 何かしら目には見えない部分で成長できたと思う
- 2 物事を客観的に見る力が少し養われたと思う
- 2 入学時と比べ、大きく成長したと思うから
- 2 大学での学習は、自分で学習する能力を身に付けることが目的であると考える。その方法は身に付けられたと考える
- 2 専門以外の授業も色々受けたから
- 2 就職活動で活かすことができたから
- 2 しっかりと勉学に励んだと自負している
- 2 実生活で食品を見る角度や見る所が大きく変えられたから
- 3 私自身の勉強に対する努力が足らなかったため
- 3 自分自身が積極的に学ぼうとしなかったり、社会ともっと関わっていく術を身に付けるように しなかったことが悔やまれているから。カリキュラムは悪くない
- 3 大学で決められたことはたいてい意味がなかった。自分の興味のある勉強は自分でやった
- 3 大学で身についた知識などもあったが、高校で身に付けれることも多かった
- 3 専門性はある程度身についたが、常識的なことや社会にでてから必要となることがあまり身に ついていないと思う
- 3 卒業研究次第で成長したかどうかわかると思ったから
- 3 変わったといえば、変わったが、変わらないと言えばあまり変わらない
- 3 英語やプレゼンなども、やっておけばと思った後悔があるため
- 3 他人と会話する際に、自分の方が頭がいいと感じることもあれば、その反対もあるからです
- 3 イメージがわかないから
- 3 会社で働いて初めて実感すると思う。今はまだ学生気分なので、よくわかりません
- 3 あまりよく覚えていないから

- 3 卒業研究を終えてから、そのように感じるかもしれないし、そうでもないかもしれないので
- 3 専門的な知識は幅広く学び見に付けることができたと思うが、その他の学力(言語など)については、不十分だと感じたため
- 3 入学前よりはついたと思うが、自信を持ってついたとは言えないから
- 3 社会で通用することと、卒業者に相応というものに、ズレがあると思うため
- 3 ある程度の知識は得ることができたと思うが、あまり覚えていない自信がある。しかし、大学にきてよかったと思うほどには自分が成長できたのではないかと思う(思いたい)
- 4 まだ知識不足だと思っているから
- 4 学科内で行う授業はためになったが、専門科目は内容がうすく、覚えていることがすくないため
- 4 大学に入り人間的に成長し、より高い視点から物事を考えられるようになったと思います。そ の点でも大学に在籍できたことはとても良かったと思いますが、社会に貢献するための知識や 学力といった面では未だに目標へは到達出来ていない気がするためです
- 4 講義の内容を理解出来るよう、努力していたが、足りなかったと思うと同時に、もっと努力できたとも思った
- 5 相応の知識や学力がどのようなものか分からない。入学時と比べれば、成長したと思うが、これで十分だとは思わない

# 【地域環境工学科】

- 1 社会人として求められる目上の人との接し方を学ぶことができた
- 2 大学で培った自主性は、社会に出た上でも役に立つと思う
- 2 目上の人との関わり方を学んだ
- 2 一般教養+専門の社会に出るのに必要な知識は得られたと思う。コミュニケーション力も上がった
- 2 4年間で成長できた気がするから
- 2 ある程度の専門知識が身についたため
- 2 現場を意識した内容が多かったと思ったため充分そう感じる
- 2 きめ細かい専門の講義に加え、自分自身が農業土木の公務員を目指して勉強していたから
- 2 高校までとは違い、専門的な知識を身に付けたから
- 2 今でもしてきたことを思い出せるから
- 2 大卒としての見識は深められたと感じる
- 2 農業土木に関する知識を十分に身に付けたと思うから
- 2 技術的な知識を学んだから
- 3 もっと勉強すれば良かったと思うことがある
- 3 勉強をすればするほど、わからないことが増え、自分はまだまだだと思うから
- 3 胸をはって、卒業できる自信があるため
- 3 学部に沿った知識はあまり身につかなかったが、広い意味であれば(学部関係なく)身につい たので
- 3 実際に働く上で、役に立つか分からないから
- 3 自分の知識が社会で役に立つか不安なため

5 得た知識・学力よりも失ったもののほうが多く感じるため。これは自分の時間の過ごし方が悪かったとおもっています

# 設問 18. (1) 本学部の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を、次の項目の中から一つを選んで下さい。

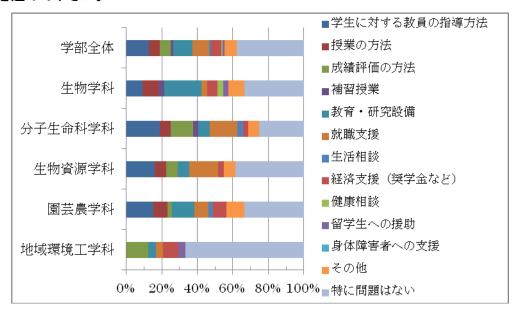


図 I -18. 早急に改善すべき点

学部全体でみると、選択肢の中では「特に問題は無い」が 38%で最多であった。平成 23 および 24 年度も「特に問題はない」が最多で約 35%、平成 25 年度は 42%であった。早急に改善すべき点として選択された上位 5 項目は、学部全体でみると「1. 学生に対する教員の指導方法」(13%)、「5. 教育・研究設備」(11%)、「6. 就職支援」(9%)、「12. その他」(7%)、「2. 授業の方法」(6%)、「3. 成績評価の方法」(6%) であった。平成 23 年度~24 年度にこれらの 5 項目の選択割合と順位は異なるものの、常に上位 5 位以内に入っている。「6. 就職支援」の割合は平成 22 年度 21%、23 年度 14%、24 年度 7%、25 年度 6%と年々減少してきた。これは、全学および学部における就職支援体制の整備充実は図って来た成果と理解される。

学科別に見ると、「1.学生に対する教員の指導方法」、「2.授業の方法」および「3.成績評価の方法」の合計は地域環境工学科では13%に過ぎないが、分子生命科学科と生物資源学科ではそれぞれ、38%と29%にも達する。3人に一人が指摘している。過去にも、平成23年度は分子生命科学科で32%、園芸農学科で28%、平成24年度は生物資源学科で35%、生物学科で33%、平成25年度は分子生命科学科で37%の学生が早急に改善すべき点として選択している。これらの学科においては、3人に一人により指摘されている事実を重く受け止め、改善を図らなければならない。

次項の「1. 学生に対する教員の指導方法」に対する要望には「教員は学生の進路を後押しして、その進路の弊害となるような極端に多い作業を課すべきでは無い。」、「教員の尺度で研究や実験を生徒に行わせると、それが数あるストレス要因の1つとなり、場合によっては「鬱病」などになってしまう。教員側はそんなつもりはなくても、事実数は非常にすくないが、このようなことがおこっている。」、「お気に入りをつくって差別するのやめてほしい。生徒の文句を生徒に言うのは

やめてほしい。いじめまがいな態度と、生徒を追い出すのはやめてほしい。」、「指導教員の生徒に対する悪口、いやがらせをやめてほしい。」、「教員個人の人格の問題だが、「わからないことがあったらなんでも聞きにこい」と行っておいて、いざ聞きに行くと「授業で言った」「考えればわかる」などと突き放してくるのが不愉快だった。」、「言葉遣いや態度が悪い人がいる。職業高校の生徒を馬鹿にしている教員がいて、単位についても不利だった。」や「人を見下す言い方はやめてほしい。」といったものがあった。

「2. 授業の方法」では「高圧的な態度で授業をされる先生がいらっしゃるので、これについては早急に改善していただきたいと思います。正常な心理状態で講義にのぞめません。」、「学生がちゃんと理解しているのか、興味をもって授業に取り組んでいるのかを教員がもっと気にして授業を進めていければいいと思う」、「単位ありきの授業で、学生が主体的に学ぶ意識が希薄な気がします」といった指摘があった。

「3. 成績評価の方法」では「カンニングを禁止するのなら、見て見ぬふりをしている教員もいるためもっと積極的にやるべきだとおもう。」、「成績評価があますぎるところがあるのではないかと思ったため。まじめにやることがばからしく思えます。」、「講義によっては、出席点が大半で、成績評価に対する試験結果の寄与が少ない物があったり、試験の難易度が講義によりバラバラで、「秀」といっても、その実態に差があることに疑問を感じました。」といった指摘があった。

「5. 教育・研究設備」では「実験室にクーラーをつけてほしい」、「学生が多い研究室ほど、資金が必要になる。その上、学生が学習・研究する机も必要だ。研究動物の飼育・維持の都合もあるので、一概には言えないが、上記 2 つは不足していると思える。最低でも机とそのスペースは工面してほしい。」、「Wifi を登録しなくても、どこでも使えるようにしてほしい。」、「農生の建物が暗い・寒い・古いで有名なのは残念」などがあった。

「6. 就職支援」では「地方学生は就活に不利なので、もっとしっかりした支援がほしい。東京で弘大の支援施設を利用したが、着替えスペース、トイレ、洗面所もかぎられていて利用しにくかった。」、「他学部よりも先生が就職(就活)に、関心がないように思えるので、どうにかしてほしい。」、「もう少し先輩の実績が知りたかったため」、「就職支援センターの一部の職員のえらそうな態度を改善して欲しい。社会人として、学生にも規範となるような接し方をするべきだと思う。」、「大学主催の企業セミナー等の時期が遅い。OB/OGの連絡先や企業の紹介がない。」といった指摘があった。

# (2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

1. 学生に対する教員の指導方法 2. 授業の方法 3. 成績評価の方法 4. 補習授業 5. 教育・研究設備 6. 就職支援 7. 生活相談 8. 経済支援(奨学金など) 9. 健康相談 10. 留学生への援助 11. 身体障害者への支援 12. その他(

# 13. 特に問題は無い

## 【生物学科】

- 1 教員は学生の進路を後押しして、その進路の弊害となるような極端に多い作業を課すべきでは 無い
- 1 留年した人を甘やかしすぎだと感じる
- 1 難しいことではあるが、生徒に内在するストレス等は教員からは見えずらい。教員の尺度で研

究や実験を生徒に行わせると、それが数あるストレス要因の1つとなり、場合によっては「鬱病」などになってしまう。教員側はそんなつもりはなくても、事実数は非常にすくないが、このようなことがおこっている。もちろん、研究員として結果を残すのは重要だが、学生も人間なので温度を感じられる対応コミュニケーションもとることも大学教員としては重要ではないのか

- 2 高圧的な態度で授業をされる先生がいらっしゃるので、これについては早急に改善していただきたいと思います。正常な心理状態で講義にのぞめません。
- 2 テストが簡単すぎてつまらない。他の大学と比べて授業内容も薄すぎる。持ち込み可やレポートでの判断はどうかと思う。だから内容が頭に入らないで4年間終わる。また、実験(生物学実験 I 等)で、いきなり担当の先生の内容の実験が始まるのはおかしい。まず最初に基本的な器具の使い方(ピペットマン、溶液の扱い方、オートクレーブの方法など)、実験の準備の方法、レポートの形式等を教えるべきだと思う。3年になって実験室に配属になったとき何も実験についてわからないので、入ってくる後輩をみて、今までの実験は何をやってきたんだろうと思う
- 2 授業には、知識を伝授する形式のものと、議論や質疑から理解を発展させていく形式のものとがあり、どちらも重要とおもいますが、後者の形式の割合がもう少し増えたら良いかと思います。
- 4 他の学部の友人の話を聞くと、再試などを行うという話を良く聞くので、農生にもそれがあるといいのかなと思った
- 5 研は、研究室の規模が大きく変わったにもかかわらず、とても広いスペースを所有し、使っていない机がある。とても非効率的なスペースの使い方をしている。明らかに研究室の規模がかわっているのに、部屋割りを返納しないのは、効率の悪いやり方だと思います。研究活動に大きな支障をきたしています。
- 5 講義室をもっと集中できる環境にしてほしい
- 5 実験室にクーラーをつけてほしい
- 5 他の研究機関、他大学と交流をもったりするのを、大学単位でもっとやれば
- 5 温度調節、網戸の完備、しようできない実験器具など設備が不十分すぎる
- 5 学生が多い研究室ほど、資金が必要になる。その上、学生が学習・研究する机も必要だ。研究動物の飼育・維持の都合もあるので、一概には言えないが、上記2つは不足していると思える。 最低でも机とそのスペースは工面してほしい。
- 6 地方学生は就活に不利なので、もっとしっかりした支援がほしい。東京で弘大の支援施設を利用したが、着替えスペース、トイレ、洗面所もかぎられていて利用しにくかった
- 8 英語の授業等を取り入れている割に、留学には無関心だと思う。金銭面での支援が増えればや りたいことをあきらめずに実行することができる学生も少なからずいると思う
- 9 農生からホケカンが遠い。実験中に何かあったときでも行くのをやめてしまう。農生付近にも、 軽い怪我とかそういうのに対応してくれるとこがほしい
- 10 もっと留学を押してもいいのではないか。とくに院まで進む人にとって語学力は必須だと思う。弘大生の英語力は全体的に弱い
- 12 私は漠然と希望しているゼミに入れるものだと思っていたため、1 年生のうちにどのような研究室があるのかに加え、成績でふるいにかけるということ(決定方法)を教えておいてほし

かったなとおもった

13 満足している

# 【分子生命科学科】

- 1 成績が悪い人だけで無く、時間があれば、全員と面談すればいいと思った
- 1 教員個人の人格の問題だが、「わからないことがあったらなんでも聞きにこい」と行っておいて、いざ聞きに行くと「授業で言った」「考えればわかる」などと突き放してくるのが不愉快だった。指導が不十分なのでは?
- 1 お気に入りをつくって差別するのやめてほしい。生徒の文句を生徒に言うのはやめてほしい。 いじめまがいな態度と、生徒を追い出すのはやめてほしい。いい加減限界です
- 1 先生ごとに生徒からの授業評価アンケートを実施してほしい
- 2 毎回の授業での小テストは、まだいいと思うんですが、小テストよりも重いテストを毎回行われると、他の授業に支障をきたすのでやめてほしい(一部科目において)
- 2 学生がちゃんと理解しているのか、興味をもって授業に取り組んでいるのかを教員がもっと気 にして授業を進めていければいいと思う
- 3 カンニングを禁止するのなら、見て見ぬふりをしている教員もいるためもっと積極的にやるべきだとおもう
- 3 教授によって成績評価の基準が異なり、受講者に人気のあるなしのムラがあるため
- 3 井い
- 3 成績評価があますぎるところがあるのではないかと思ったため。まじめにやることがばからしく思えます。
- 5 Wifi を登録しなくても、どこでも使えるようにしてほしい
- 5 農生の建物が暗い・寒い・古いで有名なのは残念
- 6 もう少し内容が充実したものを要望
- 6 他学部よりも先生が就職(就活)に、関心がないように思えるので、どうにかしてほしい
- 6 もう少し先輩の実績が知りたかったため
- 7 本学部, というより学内全体の問題だと思います。寮生でしたが、寮の学生支援担当者, ひどいです。勝手に女子寮に情宜なしで入ってくるのは男性としていかがなものかと。驚いてしまいました。実際に私があったわけではないですが寮内をうろつき(数名の男性が)勝手に部屋等に入ることがあったそうで、気持ち悪いです
- 12 自分の事で精一杯で他に目を向ける余裕がないので、大学の教育活動のことなど正直興味がない
- 12 受講数が多く、講義室が広いと後ろに座った際に、黒板が小さいため、板書が見えないときがあるため

# 【生物資源学科】

- 1 男女平等に接して欲しい
- 1 授業において、分かりやすい指導をしてほしい
- 1 教授のほぼ独断でゼミ内がとりしきられていて、教授によってゼミの実験量も必要とされる能力の高さもちがうのをどうにかしてほしい

- 2 方法というよりはカリキュラム。何度もカリキュラムを変更されると、不安を感じる。また卒業研究や就職活動のためには研究室配属や必修授業の受講タイミングは早いほうが良いと強く感じる
- 3 講義によっては、出席点が大半で、成績評価に対する試験結果の寄与が少ない物があったり、 試験の難易度が講義によりバラバラで、「秀」といっても、その実態に差があることに疑問を 感じました。
- 3 問 17 (2) のようなことがあるため、努力がそのまま成績に直結するような評価方法にした方がよりと思う(問 17 (2):成績評価の基準が良くわからないため、なんとなく受講していた講義で、よい評価をもらえたり、その逆のことなどがあり、知識に偏りが生じたため)
- 5 古い設備の物があり、使える物であればよいが、ずっと前から故障中のものがある
- 6 周りにも食品会社に就職したいと言った友人が多かったが、食品会社で関係ある職種に就職出 来た人は少なかったから
- 6 就職支援センターの一部の職員のえらそうな態度を改善して欲しい。社会人として、学生にも 規範となるような接し方をするべきだと思う
- 6 ガイダンス以外にも個別相談できる施設などが農生に欲しかった
- 6 資格の習得に関する幅(選択肢)を増やしてほしい
- 6 大学主催の企業セミナー等の時期が遅い。OB/OG の連絡先や企業の紹介がない
- 8 院にいきたくても、大学4年間ですでに奨学金を多額にかりているため、さらに2年間となる と厳しい。よって就職することとなる
- 12 冬は寒すぎて、講義に集中出来ないことがあるため
- 12 授業評価は無記名で行い、指導教員とまったく関係のない人物が回収するべきだと思います。 授業評価が成績に影響する可能性をゼロに近づける必要があると感じていました
- 13 問題はないとおもう

## 【園芸農学科】

- 1 言葉遣いや態度が悪い人がいる。職業高校の生徒を馬鹿にしている教員がいて、単位について も不利だった
- 1 教員レベルに少し問題がある
- 1 指導に具体性を持たせて欲しい
- 1 指導教員の生徒に対する悪口、いやがらせをやめてほしい
- 1 自身の研究室に思うところはないが、他の研究室の教員は、学生にあまり関心がないように思われたため
- 1と6と7 人を見下す言い方はやめてほしい
- 2 問 17 (2) で述べたとおり (問 17 (2): 学科内で行う授業はためになったが,専門科目は内容がうすく,覚えていることがすくないため)
- 2 単位ありきの授業で、学生が主体的に学ぶ意識が希薄な気がします
- 2 出席を取る人と、取らない人がいるので、学部で一律の統一指針を出してもらいたい
- 3 成績通知表に他学部と同じように、必要単位数を取得した単位数を書いて欲しい
- 5 清潔であるべき農生棟がきたない
- 5 専門的な研究への下準備として 21 世紀科目や概論といったものを学ぶ必要があることは理解

していますが、大学への入学時には、やはり専門分野への憧れが強く、早くにプロフェッショナルにあることを夢見ています。ですが、1年次は高校の復習が中心で専門的な講義が少なく、大学生活の学業以外に楽しさを見い出してしまします。そのためできる限り早期に専門性を確立させモチベーションを高いレベルで維持できればもっと違っていたかもしれないと思いました

- 5 研究室に所属学生が全員入らないため、席の取り合いになる上に、半分以上も入らないです。 広い研究室があれば、いいと思います。また、研究室にエアコンがないため、冬場に暖ををと るためにストーブを利用しています。しかし、部屋の中でも温度差ができてしまうので、効率 良く暖のとれるものがあればいいと思います
- 5 私は実験等の研究設備には不満はないが、他の大学や人々から他の学部の建物はきれいなのに 農生はすこしボロボロだね。とよく言われる
- 6 様々な分野にわたる会社の就職情報に関して、もっと幅広く扱って欲しかった
- 8 授業料免除のハードルをもっと下げてほしい。母子家庭で成績も問題ないのに免除されなかったのは不満である。おかげで院に行くのを諦めた一要素になった
- 8 思ったより審査が甘いんだなと感じた。厳しくして欲しいとは思わないが、不必要な支援も中にはあったのではないかと思う
- 12 パソコンが遅すぎる。統計処理に時間がかかったり、フリーズしてしまう。もう少しスペックをあげてほしい
- 12 事務室側にはエレベーターがあって、物を運んだりするときは非常に便利。しかし、コラボ 弘大側にはない。もし、救急搬送が必要な事態になったとき、いちいち階段を上り下りするの は救急隊にとって身体的にきついほか、時間がかかり効率が悪いと思う。エレベーターを設置 した方がいいと思う
- 12 成績表の取得単位の評価の詳細を一学年の時からのせて欲しい。シラバスをもっと見やすく つくって欲しい
- 12 (大学事務) 利用したが、具体的なアドバイス等がなかったから

# 【地域環境工学科】

- 3 テストに重点をおいているため、記憶力ではなく、レポート等での考える力で、評価する方が良いと思う。(社会に出てからは、公式等は本で見るといわれたため)
- 3 もう少し早く開示してほしい
- 6 公務員講座の土木コースをもっと充実させてほしい
- 8 無償にしてほしい
- 8 範囲を広くして欲しい
- 10 国民年金の支払いに関することや、授業の登録の仕方など生活に関することを細かく教えてあげるべきだと思います
- 13 どうでもいい

# 設問 19. (1) 総合的に判断して、本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。

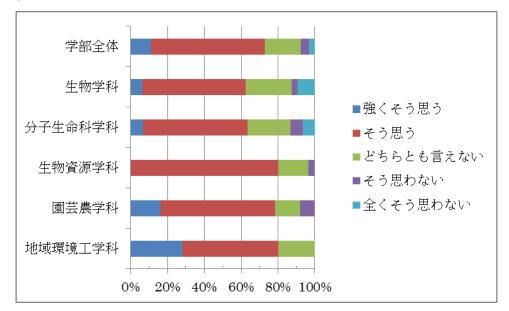


図 I-19. 本学部・学科の取り組みに満足か

本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますかという設問に対して、学部全体では「強くそう思う」と「そう思う」の合計が73%で、「そう思わない」と「全くそう思わない」は計12名で8%に過ぎなかった。

過去のデータを見てみると、肯定的評価は 19 年度 57%, 20 年度 63%, 21 年度 63%, 22 年度 50%, 23 年度 62%、24 年度 73%、25 年度 79%のように推移している。否定的評価は 19 年度 9%, 20 年度 5%, 21 年度 11%, 22 年度 11%, 23 年度 5%、24 年度 6%、25 年度 2%であった。

## (2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

- 1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない
- 5. 全くそう思わない

「強くそう思う」や「そう思う」と回答した理由として、人として成長、将来の糧となる知識と経験ができたこと、研究ができたこと、学務係りのサポートに満足、教員の指導に満足、大学生活に満足できたことが挙げられていた。一方で、「そう思わない」や「全くそう思わない」と回答した理由として、学生数の多寡にかかわらず研究室の面積が同一であることへの疑問や地域偏重への疑問が挙げられていた。

# 【生物学科】

- 1 卒業を控えた今,この研究をして良かったと思っている
- 1 大変なこともあったが、勉強するという点においては、やりやすい環境であったとかんじるため
- 2 教授の人は、授業単位の確認など全員知っておいた方が良い。
- 2 不満はあるが、自身の努力不足だった部分も大きいと思う。弘大で過ごして楽しかったし、農

生で色々と学べたと思う。でも後輩にはより多くを学んで楽しんでもっと充実した学生生活を 送ってほしい

- 2 大学に入ってから、人として一段階成長したと思うから
- 2 将来に活かせる知識と経験を得られたのがとてもよかった
- 2 大学に来ないとできないような実験がたくさん出来て、満足したため
- 2 がんばっているとはおもいます。結局足を動かさなくてはいけないのは、生徒達なので。やは り他大学に比べやる気のある生徒は少ないので、いかに○が熱く、研究が楽しいかなどを語れ るかだと思う
- 2 総合的にそう思ったから
- 2 学務の方が新しくなってから良くサポートしてくださるので満足しています
- 2 自分から学びにいく姿勢のある学生がもっと優遇されてもいいのでは・とは思うが、就職だけ したい学生のために「やることをやってさえいればとりあえず卒業出来る」環境もいると思う し、それはきちんと機能している。私には不満はない
- 2 特に不満に感じることがなかったため
- 2 教員の皆さんの熱い研究意思の下で学ぶ事ができたため
- 3 悪い面も目立っていたから
- 3 精神論等は、立派だが予算がないという点で、妥協しすぎている気もする
- 3 脱落者が多いから
- 3 常に上を目指してください
- 3 設問 18 でもふれたが、今の大学生の精神状態は人によるが脆弱であることは否定しない。大学生のエリート性の欠如がなげかれ、さらに、学生1人1人に気を配りやさしく声をかけなければならないという自分で書いていても恥ずかしい現状である。しかし、大学、学部の生き残りを考えると教員はいかに伝わるよう教育内容を向上していくか、研究に関しては生徒の状態を理解しながら指導していく能力が求められるのではないか。今の日本の国立大学が社会的にどういう意味あいを持つかは明言はしないが、それに沿って教育の向上を行っていくか否かで、教育の向上の焦点をどこにおくか少し変わっていくのではないだろうか
- 3 一番伸び代が大きいと考えられる卒業研究は、研究室単位で対応がかわり、本人のやる気にも よるので、一定の評価はできないと思います。必修の単位について、特に実習関連は様々な体 験ができるのがよかったと思います。でも、それも人によっては、つまらなかったらしいので、 結局は「本人のやる気」と「いかに興味を持たせられるか?」にかかっているのかもしれませ ん
- 4 他大学との連携やグローバルな世界という要素がまだまだ足りないと思う
- 5 規模の大きい研究室から順に広いスペースを割り当てなければ、研究に対する取り組み、姿勢は改善されないと思います。
- 5 基本的に設備がたりない
- 5 全体的に見て、教育熱心な先生は数える程度しかいない。また、他大学と合同の実習等があってもいいんじゃないかと思う。弘大だけでなくもっと広く、視野を持たせてほしい

# 【分子生命科学科】

1 この学科でしか出来ないような経験ができた

- 1 対応が親切だったため
- 2 先生方は熱心に研究に取り組んでいらっしゃるので、学科生みのその熱が伝わっていると思うから
- 2 就職支援や、授業評価の面を除けば総合的には良かったと思うから
- 2 入学する前と比べて広い分野の知識を得ることができた。将来にも生かしていけることを学ぶ 事ができたから
- 2 自分が頑張らなければ学校側がいくら良い方針をとっていても意味がないと今になって思った
- 2 担当教員の先生がとても良い先生だったので非常に満足です
- 2 ありがとうございました。満足です
- 2 自分のためになったから
- 2 研究室配属と就職活動の時期がかぶっているのが大変だった。研究室配属を早め、卒業研究と 就活の計画をしっかり立てられる時間を得た上で、生活したかった
- 2 この学科に来たことを後悔していないため
- 2 直感
- 3 講義内容に対しては、満足な方へ傾くが、それ以外の教育・研究に対する姿勢に良くも悪くも 印象がない。イメージすら浮かびません
- 3 研究室での取り組みは満足した
- 3 何の役に立つのか、いつも考えている。それがわからないので、評価しかねる
- 3 研究には熱心ですよね
- 3 今までの回答参照
- 3 まず、学習しやすい環境が大切だと思う
- 4 もっと学年担当の先生は生徒に興味をもってほしいです
- 5 特になし

#### 【生物資源学科】

- 2 個人的には、満足できたと思います
- 2 自分が興味のある分野について、とことん研究できた気がするから
- 2 大学に入らなければできなかったであろうことを多く経験出来たとおもうため、とても満足です
- 2 毎日楽しく過ごすことができたから
- 2 研究を行うには充分な施設・設備があったから
- 2 4年間特に困ったことなく勉学に励むことが出来たと思うため
- 2 先生方も熱心に指導してくださる方が多く、専門知識も身に付けることができたから
- 2 本学部・学会に所属して満足だと感じたから
- 2 学生が自主的に学ぶ環境が整っていると思ったからです。自分から学ぼうとすれば、いくらで も実力がつけられるような設備がそろっており、自分から求めれば、いくらでもサポートして くれる人々がいます
- 2 充実した研究・学生生活が送れたと思います
- 2 専攻できる分野が多数あり、入学してから興味がわいたものもあり、講義・実験には総合的に

満足した

- 2 設備も良く、満足のいく教育を受けられたから
- 2 自分自身が満足しているから
- 2 結果として自分は進みたい分野で研究ができたから
- 2 充実した学生生活を送れたと思うから
- 2 関わった先生は熱心に指導していただいた
- 2 学びたいことを学べ、しっかり理解することができたから
- 2 大学の授業や就職支援にはおおよそ満足。大学は学生を教育することと研究をすすめることの 役割があると思うが、一部の研究室では、後者が優先されすぎている気がする。ゼミはハード なのが当たり前みたいな雰囲気がすこしでも改善されたらいい
- 3 各授業の関連性がより明確なカリキュラムにしてほしい
- 3 満足している面とそうでない面がある
- 3 私の学科では、研究室所属が3年後期と遅い。土壌・作物を扱う人は、栽培試験が一回しかできない
- 4 まだまだ改善できる部分があると思う

#### 【園芸農学科】

- 1 受講した講義も実習も、現在苦戦している卒業研究も全て自分の成長に繋がっていると感じています。自分の甘さが原因で未熟さが露呈していますが、この4年間で学んだことを糧にさらなる成長が期待できると私個人は感じているからです
- 1 研究室のおかげで。とても成長できた
- 1 大学で学ぶことができてよかったと思うから
- 1 4年間、この大学で過ごせて良かったと感じた
- 2 もっと生徒に切磋琢磨できる雰囲気があれば、なお良いと思うのですが
- 2 楽しかった
- 2 4年間にわたる大学生活の中で、弘前大学の教育は十分だったと感じている。次大学へ入るときにも、また、弘前大学生になりたいと思える大学です。弘大生であったこと、誇りに思いながら人生を歩んでいきます
- 2 担当教授以外には満足しているから
- 2 自分の学科は、食品企業への視察研修への参加による現場の人の生の声を聴けるところが良い。 先生方も好きです
- 2 授業を幅広い分野において受講することが出来たため、自分が今どの様なことに関心を持っているか気づかせてくれるきっかけにもなったし、探求心をかきたててくれた学部だったと思う
- 2 大学として大きな問題はなかったと思う
- 2 将来に向けて多くの事を学べたため
- 2 専門科目や研究室で行われる授業は、どれも面白いと思いました
- 2 学科柄もありますが、4年間で自分の興味のある事を幅広く学ぶ事が出来たと思うため
- 2 いろんな方に助けていただいたからです
- 2 充実した4年間を過ごすことができたから
- 2 弘前大学に入って良かったと思っているから

- 2 4年間楽しく過ごすことができて、本当に良かったです。ありがとうございました
- 2 学ぶことは多いので
- 2 興味を持ったことを学べる環境であることには間違いないので、満足している
- 2 充実した生活を送ることができた
- 2 全体的に学部・学科の名,目標,カリキュラムに沿った教育研究がしっかりと行われた上で, 多角的な視点でそれを見ることができたから
- 3 良いと思わなかったが、自分が合わなかっただけだと思う
- 3 全ての先生の教育を受けていないからよく分からなかった
- 3 良く分からない
- 3 大学全体としては、良い取り組みをしているが、中には良くない教員がいる
- 4 地方の国立大であるので、地域に根ざすのは大切である。しかし、学生は、世界に羽ばたきたいとも思う。今の姿勢は、地域に偏っていると思う。
- 4 研究室紹介を詳しくして欲しい。気軽に訪問できるような状態だと助かる
- 4 一部の人を除いて満足できるものが少なかった

## 【地域環境工学科】

- 1 もう一度大学に入るとしても本学部学科に進学したいと感じるから
- 1 充実した学校生活だったから
- 1 大変お世話になりました。ありがとうございました
- 1 学生の学校生活・進路について、熱心に取り組んでくれていると感じました
- 1 専門的な知識を学び、就職してからも役立てることができるから
- 1 多くの学部が1つのキャンパスに集まり他学部の人との交流機会が多く見聞が広まった
- 2 大学で4年間学んできたことは、大学のみならず、将来においても重要であったと思えるため
- 2 熱心な授業をしてくれる先生が多かった。卒論の指導教員には、知識だけではなく、取り組み 方や取り組む姿勢をおしえていただいたいので、満足している
- 2 面談など、相談の方法があるため。熱心な先生も多いと思う
- 2 自分に対して親身になり協力していただいたから
- 2 学科の名に沿った教育を受けたように思う
- 2 全てを通して良い経験となり良い学習になったと感じる
- 2 先生方がそれぞれしっかりとした信念をもって、教育研究を行っていたように感じたから
- 2 そう感じたから
- 2 指導教員以外も相談に乗ってくれたりと親身であるため
- 2 全体的に専門的な知識を得るのに十分だと思うから
- 2 有意義な大学生活を送れたから
- 3 現状には満足しているが、生徒が気楽に相談できる環境になれば、より良いと思ったため
- 3 どうでもいい
- 3 社会に出て大学で学んだことが役に立つか不安なため

# Ⅱ. 研究科修了時学生対象教育評価アンケート

## 1. アンケート調査内容

調査目的:農学生命科学研究科の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため,2年間本研究 科で教育を受け今まさに修了しようとしている学生を対象に,研究科における教育に ついて総合的な評価を得ることを目的とした。

調査方法:教員をとおして研究室所属の研究科学生にアンケート用紙を配布し,無記名方式で 行った。

調査対象:平成27年3月研究科修了予定者37名

調査期間: 平成27年1月19日~2月6日

有効回答者数:29名

調査項目:設問は以下のとおりである。(ただし、下記の[]の項目名は、回答結果の分析にあたってグループ化のために設けたものである。)

設問 1. あなたの所属コースをお答えください。

### [研究科・コースの教育目標等の認識]

設問 2. 本研究科の教育目的および教育目標を知っていますか。

- 設問 3. あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが、コースの概要および入学者受入れ方針(アドミッションポリシー)を知っていますか。
  - (1) 概要について
  - (2) 入学者受け入れ方針について
- 設問 4. (1) あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが、コースのカリキュラムはその目標に合致していると思いますか。
  - (2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

# [コースの教育について]

- 設問 5. シラバスは受講する科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。
- 設問 6. (1) あなたが所属するコースで受けた教育(講義・演習など)について満足していますか(修士研究については設問 15 で別に聞きます)。
  - (2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。
- 設問 7. 本研究科では年度初めに指導教員がガイダンスを行っていますが、その内容は適切であったと思いますか。

## [教員の指導について]

- 設問 8. (1) 所属するコースの教員の学生への指導や対応に満足していますか。
  - (2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。
- 設問9. 大学院で履修した科目の成績評価についてお尋ねします。
  - (1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。
  - (2) 疑問や異議があったとき、あなたは実際にどこに相談し、その対応に満足しましたか。具体的に記入して下さい。

## [学生の主体的学習について]

#### 設問 10.

- (1) 講義や演習の受講に当たり、あなたは1日平均どの程度の時間を予習や復習に当てましたか。教員が課した課題に対するレポート作成に要した時間も含みます。
- (2)学術特別研究(学術研究プログラム)、実践特別研究(実践研究プログラム)あるいは課題研究(社会人入学者)に要した時間は1日平均どの程度ですか。
- 設問11. 大学院教育では、学生自身の主体的、意欲的な学習が要求されます。
  - (1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。
  - (2) 大学在学中のカリキュラムで、もっとも印象に残った科目があれば、その科目名と理由を記入して下さい。

## [学生への教育支援,施設・設備について]

- 設問 12. 本研究科や本学では皆さんに助言したり、皆さんからの相談・苦情を受け付けたり、皆さんのニーズを把握するために、以下のようなルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)~(3)の項目について主にどれを利用しましたか。( )内に番号を記入して下さい。
  - (1) 学業 ( ) (2) 学生生活 ( ) (3) 進路 ( )
- 設問 13. 本学部図書閲覧室の利用について質問します。
  - (1) あなたは在学期間を通して、平均どのくらい利用しましたか。
  - (2) 以下の項目について、どのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。
- 設問 14. 本学部の以下の施設について、どのように感じていますか。
- (1) 下表の該当する欄に○を書き込んで下さい。
- (2) 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

## [修士研究について]

- 設問15. (1) 修士研究について満足していますか。
  - (2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。
- 設問16.(1)研究科修了後のあなたの進路は次のうちのどれですか。
  - (2) 本学部のカリキュラムで学んだことは、進路の決定にどのように影響しましたか。
  - (3) 本学および本研究科の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

## [本研究科の教育のあり方について]

- 設問 17. (1) あなたが本研究科を修了するに当たり、大学院修了者としての知識および学力を身に付けたと感じていますか。
  - (2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。
- 設問 18.(1) 本研究科の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を、次の項目の中から一つを選んで下さい。
  - (2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

- 設問19. 本研究科で学生が期待する教育を受けるとともに充実した学生生活を送るために,希望する点や,大学または学部が改善すべき点があれば具体的に記入して下さい。
- 設問 20. (1) 総合的に判断して本研究科・コースの教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。
  - (2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

# 2. 調査結果

# 設問 1. あなたの所属コースをお答え下さい。

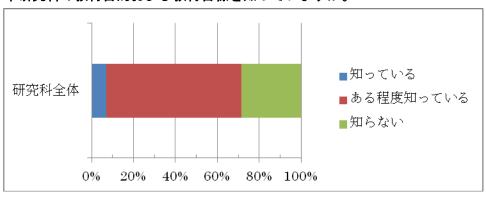
コース	対象者人数(人)	回答者数(人)	回答率(%)
研究科合計	37	29	78
生物学コース	12	10	83
分子生命科学コース	9	7	78
生物資源学コース	8	6	75
園芸農学コース	7	5	71
地域環境工学コース	1	1	100

表Ⅱ-1. コース別アンケート回答率

回答率は研究科全体で 78%であり、昨年 (76%) と同程度だった。大学院生が 5 名以上のコースのなかで最も回答率が高かったコースは生物学コースであり、83%であった。他のコースも回答率は高く、最も回答率が低い園芸農学コースでも 71%あった。回答者数が 10 人未満のコースが過半数であるため、集計は研究科全体で行った。

## [研究科・コースの教育目標等の認識について]

## 設問 2. 本研究科の教育目的および教育目標を知っていますか。



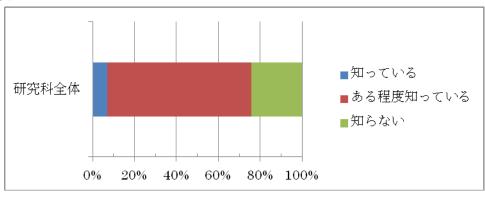
図Ⅱ-1. 本研究科の教育目的等の認識

研究科全体では、「ある程度知っている」以上の肯定的な回答が 71%であり、昨年の 76%と同程度であった。約3割の学生が教育目的を知らないことから、教育目的のさらなる浸透を図る必要がある。

## 設問 3. あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが、コースの概要および入学者受

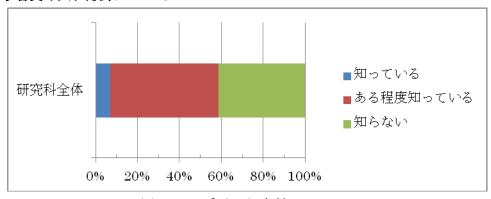
# け入れ方針(アドミッションポリシー)を知っていますか。

# (1) 概要について



図Ⅱ-2. 所属コースの概要の認識

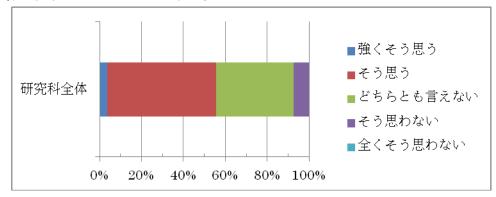
# (2) 入学者受け入れ方針について



図Ⅱ-3. 受け入れ方針

研究科全体で見ると、(1) 概要についての「知っている」と「ある程度知っている」大学院生の割合は合計で76%で、昨年の68%よりもやや高かった。設問3の(1)は「概要」としているが、例年おおよそ認識していることが見てとれる。(2)の入学者受け入れ方針については、研究科全体で見ると、「知っている」と「ある程度知っている」の合計が69%であり、昨年の63%と同程度だが、一昨年の45%よりはかなり高い。 大学院説明会の実施が奏功し微増しつつあると思われるが、今後も改善していく余地がある。

# 設問 4. (1) あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが、コースのカリキュラムはその目標に合致していると思いますか。



図Ⅱ-4. 概要とカリキュラムの合致度

研究科全体では、肯定的な評価は56%であり、否定的な評価は7%であった。肯定的な評価は、61%であった昨年と同程度である。大学院説明会の効果が現れていると思われるが、今後も改善していく余地がある。

# (2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

- 1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない
- 5. 全くそう思わない

# [生物学コース]

- 1 植物,動物及び分子生態にまで広くコースの中で研究室があるから生物生態系の保全に係る研究ができたから。
- 2 自分の研究に関わる分野とは別の分野を学ぶ事ができ、ある程度コースの概要にそっている と思った。
- 2 履修できる講義の選択肢がある程度広いから。
- 2 カリキュラム通りだと感じるため。
- 3 専門技術者になれるとは思えないため。
- 3 目標について良く理解していないから。
- 3 修士研究と関係ない授業科目が多く、研究の妨げになっていることがある。
- 3 単位取得の条件(講義を受けられる学年など)が毎年のように変化している。よりよく目指しているとおもうのだが、安定していないとも考えられる。

## [分子生命科学コース]

- 2 コースによって必要な単位の種類に変化があるのが良い。
- 2 コンピュータ分析の実践が足りない。
- 2 専門知識を学ぶことができた。
- 3 国際的な視野のもと活躍できる人材を育てるならば、もう少し英語に力をいれるべきだと思う。
- 3 研究の進め方や、実験結果を考察するやり方を、もっと学生に教えるべきだと思います。現

- 状,実験室内での教員とのディスカッションでしたそれを学べないので、もっと専門的な学問ではなく、研究に関して汎用的な講義を設けるべきだと考えます。
- 4 私は、国際的な視野のもとで活躍できる研究者、高度専門技術者並びに博士課程に進学する人材になれませんでした。

## [生物資源学コース]

- 2 人が食を得るために必要なこと、土から食品までの一連をすべて学べるから。
- 2 技術や知識を習得できるカリキュラムであったと思うから。
- 2 より専門的な勉強をしてこれたため。
- 3 コースの概要を把握してなかったので考えてみたことがない。
- 3 行っていることが基礎の基礎であるため、あまり先のビジョンに繋がりを見出せない。

## [園芸農学コース]

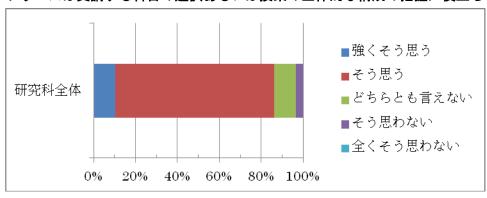
- 2 技術の習得、知識の修得、どちらもバランス良くカリキュラムに入っていたから。
- 2 栽培技術に関する研究を行うことが出来た。
- 3 その人次第だから。
- 3 自身がその狙いのような人物になれたかどうかの判断がつかないから。

## 「地域環境工学コース]

2 その目標を前提に計画しているばずなので。

# [コースの教育について]

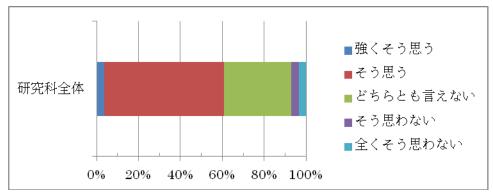
# 設問 5. シラバスは受講する科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。



図Ⅱ-5. シラバスの有用性

研究科全体で、肯定的評価は86%であり、昨年の76%よりも高かった。シラバスと講義内容の整合性が上ったためかもしれない。

設問 6.(1) あなたが所属するコースで受けた教育(講義・演習など)について満足していますか(修士研究については設問 15 で別に聞きます)。



図Ⅱ-6. 所属コースの教育に満足か

研究科全体では、肯定的評価は 61%であり前年度の 36%よりもかなり多くなった。一方、否定的評価は 7%であり、前年度の 14%よりも少なくなった。各所属コースでの教育が改善され、満足度が増加する傾向にあるといえるかもしれないが、今後の推移に注意したい。

## (2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

- 1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない
- 5. 全くそう思わない

# 「生物学コース]

- 1 たくさんのことを学べたから満足している。
- 2 より深いことを学べたと思うから。
- 2 研究に集中すると忘れがちな各分野の基礎を復習することができた。
- 2 実際の自分の研究で役になったことがあるから
- 3 授業にとられる時間が多い気がする。特に2年次通年で行われるプレゼン演習Ⅱはどうかしていると思う。
- 3 まだ改善できるとおもう。
- 3 設問4(2)と同じ。
- 3 役にあったものも役に立たなかったものもある。

## [分子生命科学コース]

- 2 副コースの種類がもう少し多くあった方が良かったが全体的に満足。
- 2 広く色々な分野を学ぶ事ができ、満足している。
- 2 今行っている研究の基礎となる知識を得られたから。
- 2 自分の分野だけでなく、他の分野を自分の研究的視点で学ぶことで、より一層知識を深めることができた。
- 3 プレゼンテーション演習 II と修論作成が重なって非常に大変です。講義の内容については、 おおむね満足しています。
- 3 専門分野に近いところでは満足だが、副コース科目として受講したものに関しては予備知識が少ないことも原因だが、講義を受けても内容が理解しづらく受講する意味が感じられなかった。

## [生物資源学コース]

- 2 広範囲の知識を得ることができた。
- 2 プレゼンテーションをする機会が多くあり、それを通して自身のプレゼンテーション力が上がったと思うため。
- 3 プレゼンテーション演習や講義で研究に支障が出るカリキュラムであると感じたものがあったから。
- 3 行っていることの内容が安定せず、非効率である場面がみられた。
- 4 研究に時間をとられ、講義などに集中できなかった。

## [園芸農学コース]

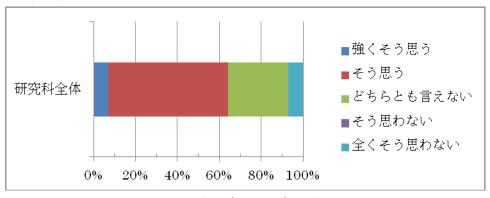
- 2 良かったから。
- 2 楽しく学ぶことができたから。
- 2 プレゼンテーション演習が良かった。
- 2 プレゼンの講義は、今後に役立つ授業であった。

#### 「地域環境工学コース]

2 どれも良い経験になったと思えるから。

肯定的評価では、自らの専門を深められることや、専門外の分野も知ることが出来たことなどが理由として挙げられていた。否定的評価の主な理由は、必修科目であるプレゼンテーション演習Ⅱの開講時期に問題があること(修士論文の作成時期と重なるなど)、講義数や課題が多すぎることなどであった。プレゼンテーション演習Ⅱについては、肯定的な意見もあるものの、開催時期等について昨年と同様に問題視する意見が多数を占めていることから、なんらかの改善を講じる必要があると思われる。

# 設問 7. 本研究科では年度初めに指導教員がガイダンスを行っていますが、その内容は適切であったと思いますか。

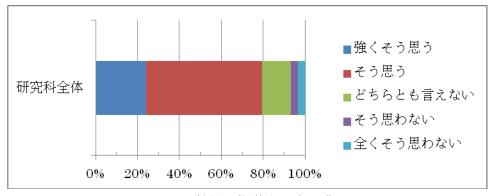


図Ⅱ-7. ガイダンスは適切だったか

研究科全体では、肯定的な評価が 64%であり、昨年の 74%よりも少なかった。一昨年の肯定的な評価は 55%であることから、評価の程度は年度によって変動するものと思われる。

## [教員の指導について]

# 設問 8. (1) 所属するコースの教員の学生への指導や対応に満足していますか。



図Ⅱ-8. 教員の指導や対応に満足か

研究科全体での肯定的評価は全回答の79%であり、昨年(93%)よりもやや減少したといえる。

## (2)上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

- 1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない
- 5. 全くそう思わない

#### [生物学コース]

- 1 セミナーなどを多数開催して学外での最新研究を取り入れることができた。
- 1 熱心な教員ばかりであると感じる。
- 2 とても丁寧に教えてくださるので。
- 2 研究にあまり負担がかかりすぎないように配慮してくれた。
- 2 学生のことに真剣に対応してくださる先生が多かったから。
- 2 研究の相談には快く応じていただけた。
- 2 研究内容について相談しやすい。
- 4 ゼミの教員によって対応が異なり、うらやましいとおもうこともある。

## [分子生命科学コース]

- 1 助言をいただくことで安心感が得られた。
- 2 学生が質問すれば丁寧に答えてくれるため。
- 2 とても良かったです。
- 3 学生によって態度を大きく変えるのはよろしくないと思います。しかし、教員も人間なので、 ある程度はしょうがないかも。
- 3 熱心な人もいれば、熱心でない人もいる。
- 3 所属する研究室の教員には満足しているが、その他の先生方とは接することが少な過ぎて判断できません。
- 5 指導教員の理解がない。

## [生物資源学コース]

- 1 就職につながるような研究にのめりこめるような方針、指導であったから。
- 2 熱心に指導していただいたと思うため。
- 2 きちんと院生の実験状況も把握した上で授業に対応してくれている。
- 2 親身になって対応してくれたと思う。
- 3 指導教員以外と接する機会があまりなかったから。

## [園芸農学コース]

- 1 特に不満に思うことがないから。
- 1 研究内容だけでなく就職のアドバイスも熱心にしてくれたため。
- 1 状況に応じた対応をしていただいた。
- 2 良かったから。
- 2 周囲の人から不満を聞かなかったから。

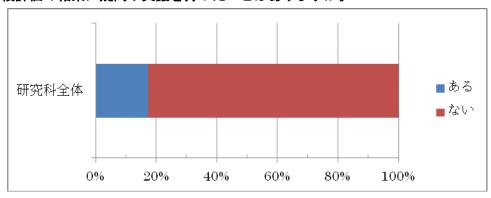
#### 「地域環境工学コース]

2 特に不満がないので。

各コースとも、肯定的評価については丁寧で親身な指導や対応を受けられたことが挙げられている。ただし、肯定的でない評価も見られることから、教員の指導・対応については改善の余地が残されているといえる。

# 設問 9. 大学院で履修した科目の成績評価についてお尋ねします。

# (1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。



図Ⅱ-9. 成績評価に対する疑義

「成績評価に疑問を持った」とする回答の割合は19%であった。

# (2) 疑問や異議があったとき、あなたは実際にどこに相談し、その対応に満足しましたか。

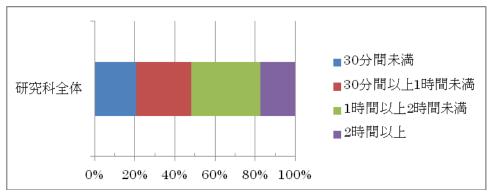
回答文は以下のように4件あった。

「外部の講師であったため相談はしなかった。授業は全て受け、精一杯頑張ったが「可」は厳しいのではないか。演習型の授業で得意不得意が出やすい科目であった。少しは考慮すべきではな

いのか」、「相談はしていない」、「どこにも相談しなかった」、「何を基準に評価したのか、わからなかった。疑問に思ったが、相談するほどでもないと感じたので、実際に相談はしていない」

# [学生の主体的学習について]

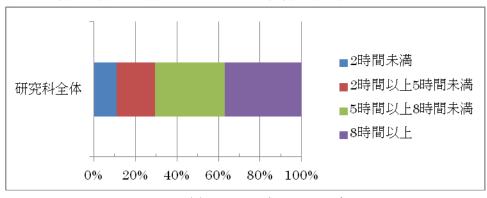
設問 10. (1) 講義や演習の受講に当たり、あなたは1日平均どの程度の時間を予習や復習に当てましたか。教員が課した課題に対するレポート作成に要した時間も含みます。



図Ⅱ-10 (1). 予習や復習の時間

研究科全体では、1日当たりの予習・復習時間が1時間未満あるいは30分未満と回答した大学院生の割合は48%であり、昨年の28%より多くなった。30分未満だけでも21%もあり、予習・復習が十分になされていない大学院生が少なくないことがわかる。

# (2) 学術特別研究(学術研究プログラム)、実践特別研究(実践研究プログラム)あるいは課題研究(社会人入学者)に要した時間は1日平均どの程度ですか。



図Ⅱ-10(2). 課題研究に要した時間

5時間以上もしくは8時間以上と回答した大学院生は70%を占めており、昨年の72%と同程度であった。

# 設問 11. 大学院教育では、学生自身の主体的、意欲的な学習が要求されます。

(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

「生物学コース]

・興味のある分野、関係のある分野に精一杯取り組んだ。単位のためだけの授業は何もしなかった。

- ・わからないところは積極的に質問した。
- ・参加するからには新たな知見を手に入れる。
- ・修士研究よりは重点を置かなかった。
- ・卒業するためにもまじめに取り組んだ。
- ・自分の研究に関わる講義が少なかったので、最低限の努力で受講した。
- ・苦手な授業にも精一杯努力して取り組んだ。
- ・自身の研究に役立つよう考えながら受けた。

## [分子生命科学コース]

- ・ある程度クリティカルな意見を持つような姿勢で取り組みました。
- ・専門分野以外の講義も積極的に参加した。
- ・授業の進め方や考え方、教授の授業への熱の入れ具合などにより様々。
- 視野を広げる。
- ・講義自体は、単位を取ることだけを目標にした。大学院では、もっと実験に集中したかった。
- ・専門分野の学問については、意欲的に取り組んできたつもりでいます。
- ・様々な視点から多くを学ぼうとしていた。

# [生物資源学コース]

- 単位をとれればいい。
- ・ゼミのようなプレゼンをする講義がふえたので、準備をきちんとするようとりくんだ。
- できるだけ質問をするようにした。
- ・実験とのかねあいもありつつ、最大限努力した。
- ・疑問を持つことを大事にした。

### [園芸農学コース]

- ・まじめ。
- ・単位を落とさないように。
- ・講義内容を吸収するべく真面目に取り組みました・
- ・多くの事を学ぶため努力する。自分の Best をつくす。
- ・今後の仕事に役立つ知識を身につけるように心がけて取り組んだ。

#### 「地域環境工学コース]

経験のつもりで。

多くの学生が講義に意欲的に取り組んだと回答しており、幅広く知識を得ようとする姿勢が見受けられる。学生により様々ではあるが、各自が問題意識を持って取り組んだようである。

(2)大学院在学中のカリキュラムで、もっとも印象に残った科目があれば、その科目名と理由 を記入して下さい。

#### 「生物学コース]

- ・昆虫進化学:個人的に進化の話が好きなので興味が持てた。
- ・プレゼンテーション演習Ⅱ:講師に柔軟性が足りない。学生側と講師側で意見がかみ合わない ことが多かった。考えを押しつけるような授業は良くないと思う。
- ・プレゼンテーション演習 I ・II:正直意味無と思われる。
- ・コミュニケーション演習Ⅱ:修論時期に課題が多すぎ。ただ内容はいいので時期が違えばとは 思った。
- ・プレゼン I: 二度とやりたくない。教員の話しで今役にたっていることはない。

# [分子生命科学コース]

- ・プレゼンテーション演習Ⅱ:ひたすら疲れました。
- ・キャリア開発セミナー:社会人の生の話が聞けるのはおもしろかった。
- ・プレゼンテーションⅡ:評価の基準が分からなかった。
- ・プレゼンテーション演習 I, II:自発的に考え行動出来る環境であったから。
- ・プレゼンテーション演習 I:自分のプレゼンに多大な影響を与えてくれた。
- ・プレゼンテーション演習Ⅱ:予習の量が多すぎる。地獄だった。4 コマだと,実験を中断せざるをえないのでやめてほしい。
- ・プレゼンテーション演習Ⅱ:英語でコミュニケーションするのは良いと思う。

#### [生物資源学コース]

- ・プレゼンテーション演習Ⅱ:2年後期に授業があり大変だった。
- ・生物工学方法論:他の研究室が何をやっているのか, どう発表をするのかを知ることができたから。
- ・プレゼンテーション演習Ⅱ:英語でプレゼンをする機会が多くあり、自分の英語力の不足を痛感できたため。
- ・プレゼンテーション演習Ⅱ:一番忙しい時期の講義なので、あまり身が入らずおろそかになった。

#### [園芸農学コース]

- ・プレゼンテーション演習Ⅱ:身になる内容でもなく、課題に時間がかかったから。
- ・プレゼンテーション演習Ⅱ:英語でのプレゼン難しかったです。
- ・プレゼンテーション演習Ⅱ:学術的な場面だけでなく、働く中でもこれから最も必要とされる スキルだったから。
- プレゼンテーション I は、今役に立つ授業であった。

### 「地域環境工学コース]

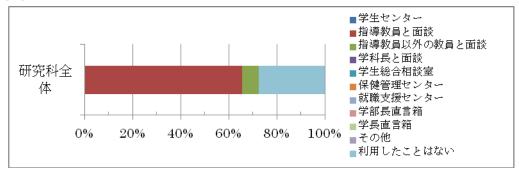
・プレゼンテーション演習Ⅱ:ほぼ全て英語でというのは高校ぶりだったので。

プレゼンテーション演習Ⅱについての否定的なコメントが昨年と同様に多かった。

# [学生への教育支援,施設・設備について]

設問 12. 本学部や本学では皆さんに助言したり、皆さんからの相談・苦情を受け付けたり、皆さんのニーズを把握するために、以下のようなルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)~(3)の項目について主にどれを利用しましたか。() 内に番号を記入して下さい。

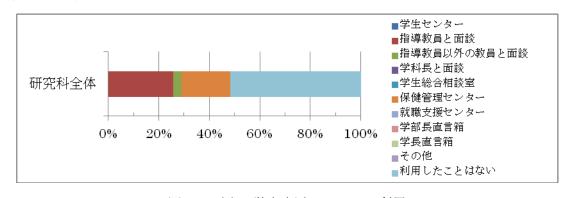
## (1) 学業



Ⅱ-11(1). 学業についての利用

研究科全体では「指導教員と面談」が最も多く、66%を占めているが、昨年と比べると 11 ポイント減少した。ついで多かったのは「利用したことが無い」の 11%であり、昨年の 12%と同程度であった。

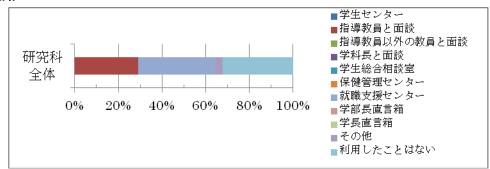
# (2) 学生生活



図Ⅱ-11(2). 学生生活についての利用

研究科全体では「利用したことが無い」が52%で最も多く、昨年の38%よりも増加した。また、「指導教員と面談」は26%で昨年の35%よりも減少した。相談しやすい環境の形成に努める必要がある。

# (3) 進路

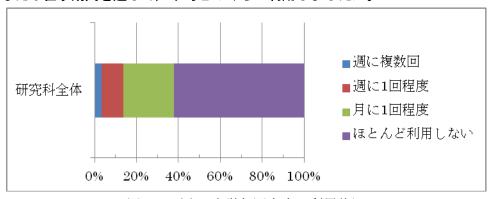


図Ⅱ-11(3). 進路についての利用

利用したものの中では「就職支援センター」が35%で最も多く、昨年と同程度であった。しかし、「利用したことは無い」も32%と多かった。就職支援センターの存在はある程度認知されているといえるが、さらなる支援体制の強化が望まれる。

## 設問 13. 本学部図書室の利用について質問します。

# (1) あなたは在学期間を通して、平均どのくらい利用しましたか。

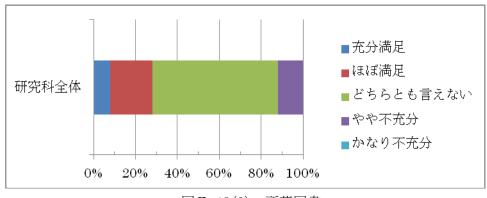


図Ⅱ-12(1). 本学部図書室の利用状況

回答のうち「ほとんど利用しない」の割合は62%であり、昨年と同じ値であった。週に1回以上(1回程度及び複数回)の利用は13%と少ないが、昨年と比べると10ポイント増加した。利用状況があまり改善されていないことには、インターネット利用等、情報収集の仕方の変化が関係していると思われるが、図書の整備状況等の改善を続け今後の推移をみていく必要がある。

# (2)以下の項目について、どのように感じていますか。該当する欄に〇を書き込んで下さい。

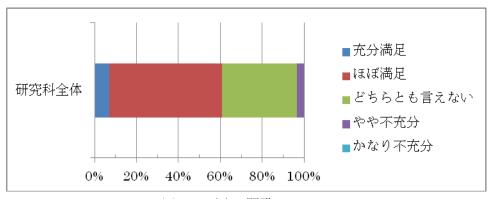
# 1. 所蔵図書(和書および洋書の単行本)



図Ⅱ-12(2). 所蔵図書

研究科全体では、「充分満足」と「ほぼ満足」を合わせた肯定的な評価の割合は 28%であり、昨年より 5 ポイント減少した。一方、否定的な評価の割合は 12%であり、これも昨年より 12 ポイント減少した。新しい蔵書が追加されたことの効果はまだ現れていないようであるが、今後も学部図書室の蔵書を充実させ、追加図書等の情報を伝達することにより、利用状況の改善を測る必要がある。

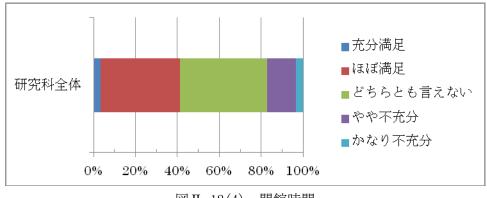
# 2. 閲覧スペース



図Ⅱ-12(3). 閲覧スペース

研究科全体では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計が61%であり、昨年より6ポイント上昇した。しかし、「どちらとも言えない」も36%と少なくない。閲覧スペースが限られているために、満足度が上がりいにくいのかもしれない。

# 3. 開館時間

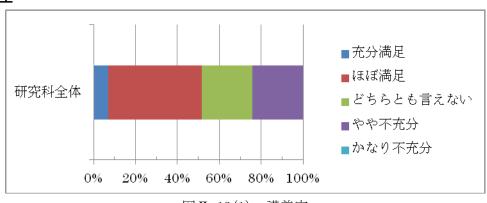


図Ⅱ-12(4). 開館時間

研究科全体では肯定的評価が71%と多い一方で、否定的評価は17%と少なかった。

# 設問 14. 本学部の以下の施設について、どのように感じていますか。該当する欄に〇を書き込んで下さい。

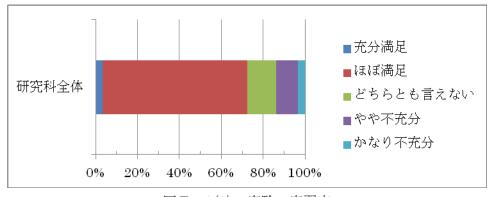
# 1. 講義室



図Ⅱ-13(1). 講義室

研究科全体では、「充分満足」と「ほぼ満足」の合計が51%であり、昨年より35ポイント減少したが、一昨年とは同程度である。今後の推移に注意する必要がある。

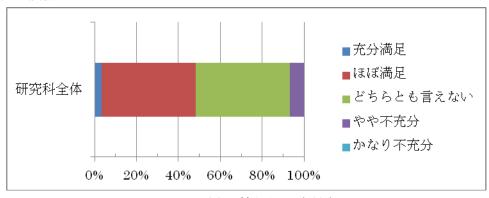
# 2. 実験・実習室



図Ⅱ-13(2). 実験・実習室

研究科全体では、肯定的評価は 72%で昨年と同程度であった。否定的評価は 14%と低く、これも昨年と同じであった。平成 19 年度から空き室の利活用がはかられていることを反映しているようである。

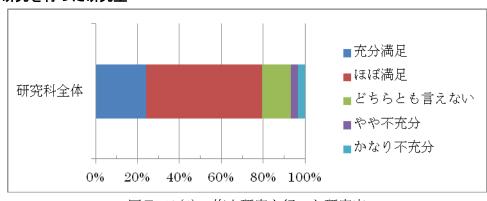
## 3. 情報処理演習室



図Ⅱ-13(3). 情報処理演習室

研究科全体では、肯定的評価は 48%であり、昨年より 16%減少した。否定的評価は 7%で昨年 と同値である。

# 4. 修士研究を行った研究室



図Ⅱ-13(4). 修士研究を行った研究室

研究科全体では、肯定的評価が 79%と多く、昨年と同程度であった。否定的評価は 7%と少なく、昨年と同程度であった。対応は図られてきているが、設問 14(2)に示したような要望もあり、全て改善された訳ではない。今後も適切な対応が望まれる。

## 設問 14. (2) 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

### 「生物学コース]

- ・講義室が寒いことが多かったです。夏場はエアコンを入れて下さい。
- ・図書館においては本当に探したい本がないと本と出会えない並び方になっている気がする。もっと表に出す本を増やしてほしい
- ・深浦臨海実習所は狭く、宿泊スペースもないのでそこを改善してほしいと思った・

・サリジェから遠い、喫煙所を設置してほしい。

## [分子生命科学コース]

- ・冬は暖房をもっと早くつけてほしいです。
- ・講義室は大部屋だでもエアコンを付けた方がいいと思いました。
- ・講義室や実験室などで、クーラーを使えるようにしてほしい。
- ・学生は基本的に Windows ユーザーなので、Windows を導入してください。
- ・(情報処理演習室)・・大学院生になると紙がなくて全くコピーできなかったので大変困った。
- ・情報処理室はせまいです。農生棟は夏は熱く, 冬は寒いです。

# [生物資源学コース]

- ・研究室が狭く, 窮屈に感じる。
- 寒いときが多かった。
- ・クーラーの完備(を希望する)。

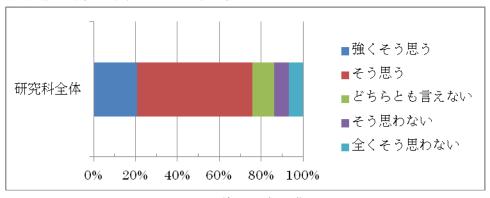
#### [園芸農学コース]

- ・研究室に人数分の席をきちんと用意してほしい。共同スペースではなく,個人の場がほしかった。
- ・暖房を17:30まで入れてほしいです(講義室)

冷暖房に関わる要望が多い。また、研究室や実験・実習室のスペースについての要望もある。 適正な改善を図っていく必要がある。

## [修士研究について]

# 設問 15. (1) 修士研究に満足していますか。



図Ⅱ-14. 修士研究に満足か

肯定的な評価は、研究科全体で76%であり、昨年および一昨年と同程度に高い。ただし、否定的な評価も13%あり、今後の推移に注意する必要がある。

# (2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない

# 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

## [生物学コース]

- 4 あまり良いデータが出ないまま終わってしまったため。
- 2 自己評価でもって出来たのではないかと感じでいるから。
- 1 自分のやりたいことができ、教員の方々にも多くのサポートをしていただいた。
- 1 指導教員の先生や研究室の人と多くの議論を交わし中身ある研究ができたと思うから。
- 2 学部より満足はしているが、生態の研究を本当に満足するまでやるには 2 年ではたりないと 思うから。
- 2 忙しいながらも充実した研究を行えた
- 2 結果が思うように得られなかった
- 2 もう少しがんばれたと思う

## [分子生命科学コース]

- 2 研究結果については、あまり満足していないが、これは自分の努力不足によるところが大きいと思うので、テーマはおもしろかったです。
- 3 自分に満足が出来ないと思います。
- 2 学会発表という貴重な場で、他大学の方とディスカッションできたから。
- 2 メディアで紹介されたため。
- 5 指導教員と価値観が合わず本当につらかった。
- 1 指導教員に満足しているため。
- 2 研究とはどういうものかを体験し、さらに技術や知識を深めることができた。

## 「生物資源学コース]

- 1 研究を通して色々な研究をさせてもらえたから。
- 1 学会やゼミをとして、たくさんのことを学べたから。
- 3 自分の努力不足を感じているため。
- 2 機械も環境も整っているので満足している。
- 4 まだまだわからないことだらけで、もっと多くの事を明らかにしたかったため。

## [園芸農学コース]

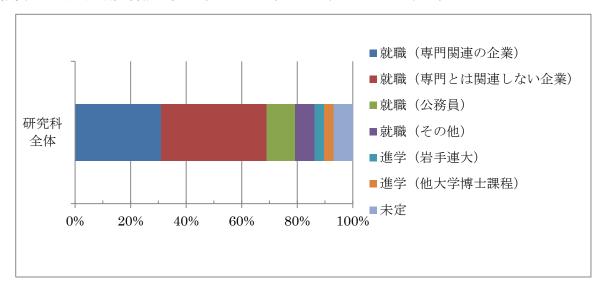
- 5 全く上手くできなかったから。
- 2 充実した時間だったから。
- 2 思うような研究に取り組めた。また必要に応じて実験器具等を用意してもらえたため満足に 実験できた。
- 2 様々な方向から研究を行うことが出来た。

#### 「地域環境工学コース]

1 良い経験になったし、面白かったから。

修士研究に満足したという肯定的評価の理由には、やりたい研究を十分に行なうことができた 等、研究に対する充実感があげられている。一方、「どちらとも言えない」と否定的評価について は、研究時間の不足や計画不備などの理由があげられていた。

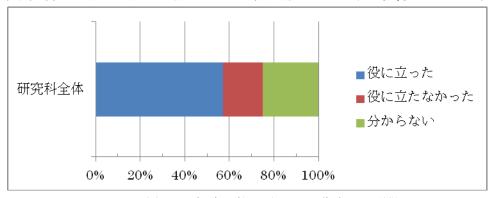
## 設問 16. (1) 研究科修了後のあなたの進路は次のうちのどれですか。



図Ⅱ-15(1). 進路

研究科全体では、「専門関連の企業」は29%であり、昨年と同程度である。「非関連企業」は38%であり、昨年よりも9ポイント増加した。一方、「公務員」は10%と昨年より11ポイント減少した。就職の全体合計は86%であり、昨年と同程度である。全体としては昨年と同程度であるが、就職支援を充実させていく必要がある。

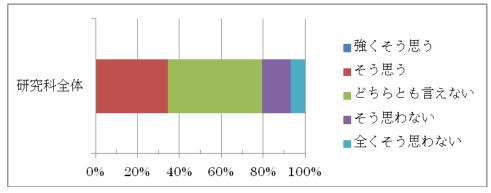
# (2) 本研究科のカリキュラムで学んだことは、進路にどのように影響しましたか。



図Ⅱ-15(2). 研究科で学んだことの進路への影響

「役に立った」は 57%で、昨年と同程度である。「役に立たなかった」も 18%で昨年とほぼ同じである。研究科で学んだことが進路に好影響を与えるようになってきたものと思われるが、今後も注視していく必要がある。

# (3) 本学および本研究科の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

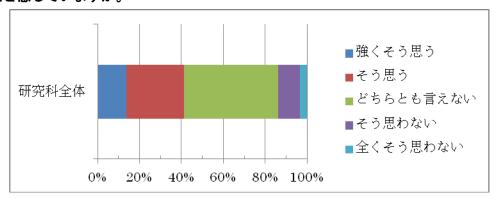


図Ⅱ-15(3). 進路支援の取り組みは十分か

研究科全体では、肯定的な評価が34%で昨年と同程度であった。否定的な評価も20%であったが、昨年と比べると9ポイント減少した。継続的な進路支援の取り組みが必要であろう。

# [本研究科の教育のあり方について]

# 設問 17. (1) あなたが本研究科を修了するに当たり、大学院修了者としての知識及び学力を身に付けたと感じていますか。



図Ⅱ-16. 大学院修了者としての知識および学力を身につけたか

研究科全体では、肯定的な評価が 41%、「どちらとも言えない」が 45%であり、肯定的な評価 が昨年より 7ポイント減少した一方で、「どちらとも言えない」は同程度であった。修了生として の学力を身につけたと感じているものが半数に達していないことがわかる。

## (2)上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

- 1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない
- 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

## [生物学コース]

- 1 博士に進んでもやりたい研究が見つかったから。
- 1 知識,学ぶ姿勢共に良く身についた。
- 2 成長したと感じる場面がある。
- 3 学部のときの内容に毛が生えたような講義が多かった。色々なことが学べて良かったが、専門が深まったかどうかはわからない。

- 3 「相応の知識及び学力」の基準がよくわからない。
- 3 自分の努力がもう少しできれば、さらに多くの知識を増やすことができたと思うから。
- 3 修了者として相応な学力かは不明だが、大学院生活で様々なことを学び、人生の勉強にはなったと思う。

## [分子生命科学コース]

- 1 自ら考える力がついた。
- 3 大学院相当の学力がどれほどのものかわからない。でも、研究を通して物事の考え方が変わったように感じる。より論理的になったような・・・
- 3 まだまだやるべき事があり、教授とのディスカッションが必要と感じるから。もっと多くの 事を学べると思うから。
- 3 別大学の学生と比較したことがないので、よく分かりません。
- 3 世界が求める大学院修了者に相応な知識及び学力というものがどの程度のものなのか,把握 していないので。
- 3 相応の度合いがわからないから。
- 4 大学と大学院では、そこまで知識量が増えたとは思わない。

# [生物資源学コース]

- 2 指導教員に社会の厳しさを教わったから。
- 2 研究を通して考え方や組織の中で成果を出す方法等いろいろ学べたから。
- 2 多くの事を学ぶことができたため。
- 2 2年間学業に集中し、頑張ってきたため。
- 4 知識が狭く深くなので、すべての人が今後に利用できるものではない。

### [園芸農学コース]

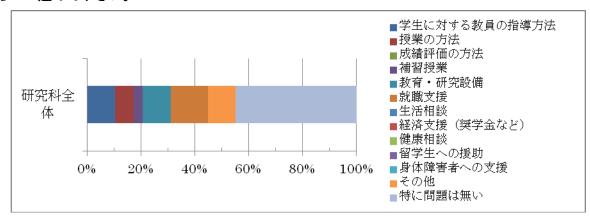
- 2 以前の私よりも知識を身につけることが出来たと思う。
- 3 相応のものを身につけた部分もあるが、足りない部分もあるように思うから。
- 4 自身の取り組みが悪く、勉強や実験等を行わなかったから。

#### 「地域環境工学コース]

3 相応の知識や学力がどれほどのものなのかは、世代等で変わると思うので。

肯定的評価の回答では、研究面で得られた専門知識や技術、経験をあげているものが多い。「どちらとも言えない」や否定的評価では、努力不足であったことなどが挙げられており、自己評価の厳しい学生が少なくないといえる。大学院で身につけた知識と学力について、教員が具体的に指摘する必要がある。

# 設問 18. (1) 本研究科の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を次の項目の中から一つ選んで下さい。



図Ⅱ-17. 早急に改善すべき点

研究科全体で見ると、「特に問題は無い」が 45%で最も多かった。改善すべき点として比較的 多くあげられていた事項は「就職支援」であり、14%を占めていた。「就職支援」は改善すべき課題といえる。

- (2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。
- 1. 学生に対する教員の指導方法 2. 授業の方法 3. 成績評価の方法 4. 補習授業
- 5. 教育・研究設備 6. 就職支援 7. 生活相談 8. 経済支援(奨学金など) 9. 健康相談
- 10. 留学生への援助 11. 身体障害者への支援 12. その他( )
- 13. 特に問題は無い

## [生物学コース]

- 1 一部,生徒に対する情熱が感じられない先生がいらっしゃいます。ゼミ生などもあまり研究 を行っていない(そもそも教授にやる気が感じられない)事は改善すべきと思います。
- 5 透過型電子顕微鏡においてデータを記録出来ないこと。
- 5 測定器機が他大学より劣っていると思う。
- 12 読めない雑誌が多すぎる。
- 12 修士研究を行うにあたり、関係のない授業や時間的に圧迫する授業は見直した方が良いと思う。

## [分子生命科学コース]

- 1 様々な教員がいるので一概に言えないです。
- 2 副コース科目の受講をなくする。もしくは、研究方法論をもっと拡充すべきだと思います。
- 4・6 就職活動よりも、実験をしなければならないと指導教員に言われ、満足のいく就職活動ができなかった。
- 6 就職活動でのアドバイス等があまりなく、掲示板に貼り出されるのが他研究科よりも遅く感じた。
- 6 教授の就職活動の知識不足から、就職活動制限されてしまう事態があった。教授陣の就職活

動に対する意識の改革が必要であると思う。

## [生物資源学コース]

- 1 研修などの制度をもうけるべきである。
- 2 中間発表をみんなでやるべきであると思います。実践プログラムの人だけでやりましたが、 学術の人もやるべきであると思います。学術こそ必要ではないのでしょうか?分けられた意味がわかりません。中間発表は、すべての人がやる必要があると思います。また、学術の方が融通がきくらしいということで学術を選んでる人がいましたが、そんなんで学術と実践にわける意味もわかりませんでした。
- 5 教授らの教育力の向上(教員免許取得。それなりの教育講習などの対応)。

#### 「園芸農学コース」

12 専門分野に関係した短期留学プログラムにおいて、大学からの資金面での支援制度がほしい と思った。

指導、授業、研究設備、就職支援など様々な要望があった。改善可能なことは早急に改善しなければならない。

# 設問 19. 本研究科で学生が期待する教育を受けるとともに充実した学生生活を送るために、希望する点や、大学または学部が改善すべき点があれば具体的に記入して下さい。

### [生物学コース]

- ・2 年生の修論発表の時期にプレゼン演習Ⅱを受講しなければならなかった。研究にも論文執筆 にも大変重荷であった。改善してほしい。
- ・弘前大学大学院の特色をもっと前に押し出すべき。地方だからできることを売りにすれば、おのずとそれに関わりたいとおもっている学生が集まってくるはずだと思う。
- ・今のままで問題ないと思います。あとは学生次第だと思います。
- ・教務課の言ったことがあいまいだったり2転3転することがあったので事務的な処理で矛盾が うまれることのないようにしてほしい。農生側の駐車スペースがすくなすぎるので増やしてほ しい。違反駐車が多いのはこのせいでは?農生の正面門前で喫煙している人がおおいので,印 象が悪い。いっそのこと喫煙所を設置するべきだと思う。
- ・学部で研究室に所属する際に研究室ごとに人数が決まっていることが学生にとって良くないのではないか。学生をとることに積極的でない先生のところにも必ず一定数の学生がはいらなければならず、それは先生にとっても学生にとっても良くない。
- ・駐車場が少ない。雪かきを徹底してほしい。平日でも使用できるようにしてほしい。喫煙所を つくるべき。見苦しい。
- ・弁当安くしてください。
- ・受けれる授業科目を増やしてあげてほしい。

# [分子生命科学コース]

- ・大学を就職のための道具としか考えていない学生が多いので、その意識を変えるようなおもし ろい興味を引くような教育が必要だと思う。難しいでしょうけど。
- 空調設備。
- ・学食をもう一つ作ってほしい。また食堂の営業時間を長くしてほしい。
- ・コンピュータ解析の講義を増やしてほしい。英語以外の語学も学べるカリキュラムがほしい。
- generalist ではなく, specialist の教育・養成をもっと強く意識すべきだと思います。

## [生物資源学コース]

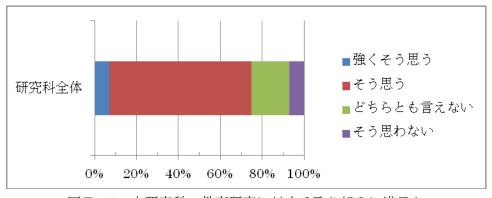
- ・教員の質の向上。
- ・ 先ほども書きましたが、 研究活動に力をいれる修士なのだから、 中間発表はすべての人に必要 である。
- ・研究が忙しくバイトができずお金に困る人もいると思うので、お金を得る機会が学内にあった ら助かると思う。

## [園芸農学コース]

・私は 研究室に所属していましたが、4年間、自分の机が無く、図書館などを利用してきました。机が無かったことで部屋に行きづらく孤独を感じていました。後輩も机が無く、みんなバラナラでした。もっと仲良くなりたかったと後悔しています。精神面からも、1人1つ机がほしいです。後輩にこんな思いをさせていることも大変後悔しています。

回答は多種多様であった。要望や批判に耳を傾け、改善を図っていく必要がある。

# 設問 20. (1)総合的に判断して本研究科・コースの教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。



図Ⅱ-18. 本研究科の教育研究に対する取り組みに満足か

肯定的評価は研究科全体で 75%,「どちらとも言えない」は 18%であった。肯定的評価の割合 は昨年と同程度である。否定的評価は 7%で,これも昨年と同程度であった。

# (2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

- 1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない
- 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

## [生物学コース]

- 2 様々な分野に対して興味を持ち、学ぶことができたから。
- 2 教員に恵まれたから。
- 2 適度に多分野を学ぶことができ、そのため研究への負担も少なくてすみ、研究も充実できた。
- 2 充実した研究生活だった。
- 2 自分の好きなことをテーマとして実験できたから。
- 3 専門性が上がると思って入学したが、取りたい授業が取れない、必要の無い授業が選択必修 になっていたりして不満があった。
- 4 計測施設が充実していないから。

# [分子生命科学コース]

- 1 己のレベルアップが実感できた。
- 2 厳しすぎず易しすぎない環境で自分には合っていたと思います。
- 2 充実した学生生活を送ることができたから。
- 2 満足でした。

#### [生物資源学コース]

- 1 学生が研究し学ぶことが出来る環境が十分にあったと感じるため。
- 2 自分のスキル向上にはつながった。しかし、授業のカリキュラムなどを見直した方がさらに良いと思う。
- 2 研究活動も、就職もすべて満足出来る終わりをむかえられたから。
- 2 研究に集中して取り組めた点は良かったと感じる。
- 3 完全に方向がさだまっていない状況で方針がころころ変わるので事務と教員との連携にぎこ ちなさがみえる。

## [園芸農学コース]

- 2 満足しているから。
- 2 今後に役立つ知識を身につける事が出来た。
- 3 きちんとした学生生活を送らなかったから。

## [地域環境工学コース]

2 特に大きな不満はないので。

肯定的評価については、「スキルアップ」「やりたい研究ができたから」「充実感」等、研究の成果や取り組み対する満足感を示した学生が多かった。一方、講義体制や計測施設に問題があると感じている学生もいることがわかる。

# Ⅲ. 教員対象授業アンケート(学部授業および研究科授業)

# 1. アンケート調査内容

調査目的:農学生命科学部および研究科の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため、学部 および研究科の授業に関する教員の意識について調査することを目的にアンケート調査を実施し た。

調査方法:各教員にアンケート用紙を配布することで調査を行った。各教員が担当している授業のうち最も重要と考えられる学部専門教育科目,研究科講義科目それぞれ1科目の合計2科目について回答してもらった。

調査対象:学部授業については平成27年1月に学部および生物共生教育研究センター(以下センター)に所属の教員を、研究科授業については学部・センター教員および白神自然環境研究所所属の教員とした。

調査期間:平成27年2月9日~2月20日

対象教員数:学部授業70人 回答者数48人

研究科授業 73 人 回答者数 48 人

調査項目:設問は以下の通りである。

『学部授業に関する調査』

設問1. あなたが所属する学科等を選択して下さい。

- 1. 生物学科 2. 分子生命科学科 3. 生物資源学科 4. 園芸農学科
- 5. 地域環境工学科 6. 生物共生教育研究センター

設問2. 授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

- ① 予定回数 (2単位 15 回とし、集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目を除きます) ( )回
- ② 実施回数(集中講義の場合は90分間を1回に換算して下さい。オムニバス形式の科目を除きます) ( )回

設問3.休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

- 1. 休講回数分を補講した 2. 一部補講した 3. 他の措置( )
- 4. 何もしなかった

設問 4. ① シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。

- 1. シラバスに記載した内容に一致させて講義を行った
- 2. シラバスに記載した内容を意識し、できるだけ沿うように講義した
- 3. シラバスに記載した内容にはとらわれないで講義した
- ② 上記で、「3.」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

設問 5. ① 本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。

- 1. 昨年度と同一であった 2. 一部変更した 3. 大幅に変更した
- ② 上記で、「2.」または「3.」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。
- ③ 上記の場合で、シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。
- 1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった 3. 教育効果は低下した

- 4. 分からない
- ④ 上記の設問③で「1」と回答した方は、その具体的な事例を教えて下さい。

設問 6. 学部の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

- 1. 大多数の学生のレベルを意識して展開した
- 2. より専門性を重視して展開した
- 3. その他()

設問 7. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい(複数回答可)。

- 1. 視聴覚教材 (ビデオや DVD 教材など) の利用
- 2. 画像データ(OHP、スライドプロジェクター、プレゼンテーションソフトなど)の提示
- 3. 授業の合間に質疑や討論の時間を設けた
- 4. 小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた
- 5. 宿題 (レポートを含む) を課した
- 6. その他(

設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが、そのような場合への対応として、どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

設問 9. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために、このアンケートに追加した方がよい とお考えの項目がありましたらご記入下さい。

設問 10. このアンケート調査の実施や内容について他にご意見がありましたらご記入下さい。

### 『研究科授業に関する調査』

設問 1. あなたが所属する学科等を選択して下さい<sup>注1)</sup>。

- 1. 生物学コース 2. 分子生命科学コース 3. 生物資源学コース 4. 園芸農学コース
- 5. 地域環境工学コース
- <sup>注1)</sup> 生物共生教育研究センターの先生は 4 を、白神自然環境研究所の先生は 1 をお選び下さい。 設問 2. 授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。
- ① 予定回数(1単位8回を目安\*とし、集中講義の場合は90分間を1回に換算して下さい。オムニバス形式の科目は除きます。\*2014年12月3日のコース長会議で了承)

( ) 回

② 実施回数 (集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目は除きます。)

( ) 回

設問3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

- 1. 休講回数分を補講した 2. 一部補講した 3. 他の措置( )
- 4. 何もしなかった

設問 4. ① シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。

- 1. シラバスに記載した内容に一致させて講義を行った
- 2. シラバスに記載した内容を意識し、できるだけ沿うように講義した
- 3. シラバスに記載した内容にはとらわれないで講義した
- ② 上記で、「3.」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

設問 5. ① 本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。

- 1. 昨年度と同一であった 2. 一部変更した 3. 大幅に変更した
- ② 上記で、「2.」または「3.」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。
- ③ 上記の場合で、シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。
- 1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった 3. 教育効果は低下した
- 4. 分からない
- ④ 上記の設問③で「1」と回答した方は、その具体的な事例を教えて下さい。

設問 6. 大学院の講義は平成 24 年度から、それ以前の前後期制に代わりクオーター制で実施されています。

- ① 3 年を経過して、クオーター制による講義は、教育効果にどうような影響を与えたとお考えですか?
  - 1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった 3. 教育効果は低下した
  - 4. 分からない
- ② 上記の設問で「1」あるいは「3」と回答した方は、そう判断した理由を教えて下さい。 設問 7. 大学院の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。
  - 1. 大多数の学生のレベルを意識して展開した
  - 2. より専門性を重視して展開した
  - 3. その他(

設問 8. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい(複数回答可)。

- 1. 視聴覚教材(ビデオや DVD 教材など)の利用
- 2. 画像データ (OHP、スライドプロジェクター、プレゼンテーションソフトなど) の提示
- 3. 授業の合間に質疑や討論の時間を設けた
- 4. 小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた
- 5. 宿題 (レポートを含む) を課した
- 6. 実習形式の授業を行った
- 7. その他(

設問 9. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが、そのような場合への対応として、どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

設問 10. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために、このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

設問11. このアンケート調査の実施や内容についてご意見がありましたらご記入下さい。

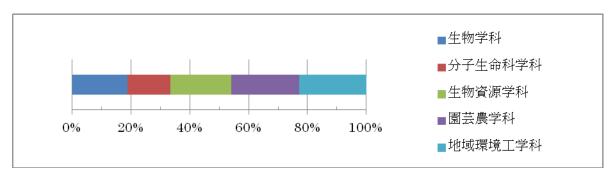
# 2. 学部授業に関する調査結果

# 設問 1. あなたが所属する学科等を選択して下さい。

表Ⅲ-2-1. 学科別回答率

	教員数 (人)	回答数(人)	回答率 (%)
学部全体	70	48	68. 6
生物学科	13	9	69. 2
分子生命科学科	14	7	50. 0
生物資源学科	13	10	76. 9
園芸農学科	19	11	57. 9
地域環境工学科	11	11	100.0

園芸農学科の教員数には生物共生教育研究センター教員 4 名を含めて集計(以下の図Ⅲ-2-1~Ⅲ-2-7まで同様)

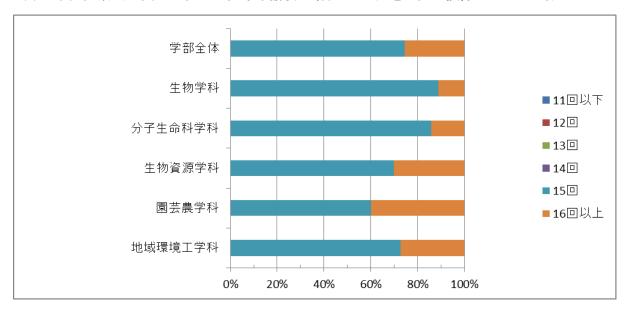


図Ⅲ-2-1. 学科別回答割合

学部全体の回答率は 68.6%で昨年度 (71.8%) より 3 ポイント低下した。学科別では分子生命 科学科が 50.0%と低い。また、地域環境工学科では 100%であった。

# 設問 2. 授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

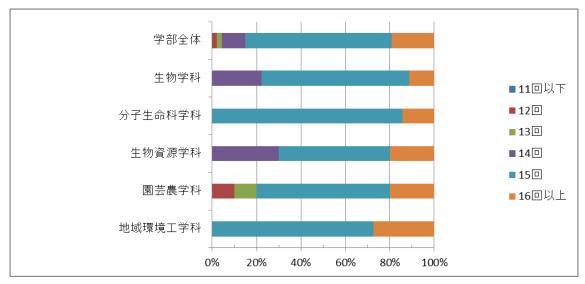
# (1) 予定回数 (2 単位 15 回とし、集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。)



図Ⅲ-2-2(1). 授業予定回数

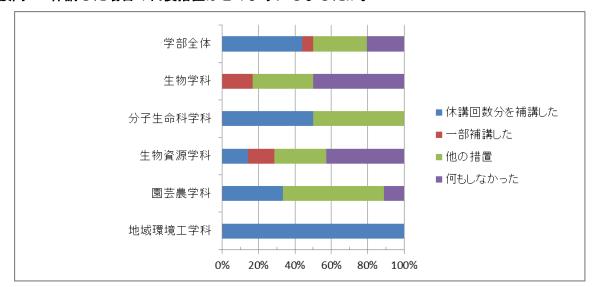
学部全体回答数は 47 である。全体ではすべての回答が 15 回以上としており、16 回以上が、昨年度の 15%から 25%に増加した。学科では、16 回以上が、生物資源学科で、昨年度の 10%から 30%に、園芸農学科が昨年度の 22%から 40%に増加した。

# (2) 授業実施回数(集中講義の場合は90分を1回に換算して下さい。)



図Ⅲ-2-2(2). 授業実施回数

学部全体回答数 47 で、実施回数 15 回以上が、昨年度の 75%から 85%とさらに増加した。また、16 回以上実施との回答は、前年度の 10%から 20%へ増加した。一方で、14 回以下との回答が 16%と昨年度の 10%よりやや増加した。学科別で見ると、分子生命科学科・地域環境工学科では全て15 回以上実施となっている。14 回以下との回答は、生物学科で 21%(前年度は 10%で 1 名増)、生物資源学科 30%(前年度は 20%で 1 名増)となっている。



設問3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

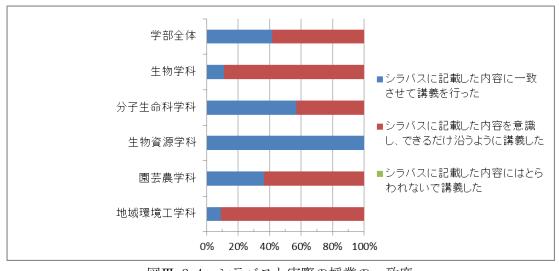
図Ⅲ-2-3. 休講の代償措置

学部全体回答数は 34 である。休講回数分の補講措置が取られたのは、学部全体で 45%であった。これは、前年度の 65%から 20 ポイントの低下となっている。 一方、「一部補講した」・「他の措置」も併せなんらかの措置を取ったとの回答は 80%で昨年度の 96%から低下している。今年度は「何もしなかった」との回答が 7名あった。学科別では、地域環境工学科は「休講回数分補講した」が 100%であった。一方、「何もしなかった」が、昨年度に比べ、生物学科で 35%から 52%  $\sim(+3\ L)$ 、生物資源学科 0%から 42% $\sim(+3\ L)$  増加している。

講じた代替措置については以下の記述があった。

- ・レポート(生物学科1件、生物資源学科2件、園芸農学科3件)
- ・課題を課す(園芸農学科2件)





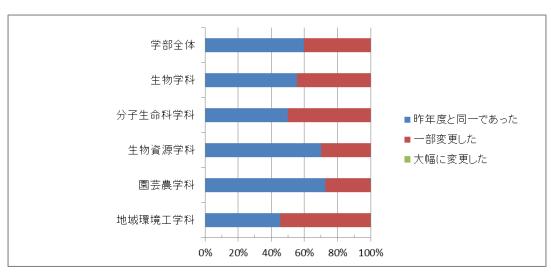
図Ⅲ-2-4. シラバスと実際の授業の一致度

全体回答数は 48 である。学部全体で、「シラバスに一致させた講義を行った」が、前年度の 48% から 42%にやや減少、「できるだけ沿うように講義した」が、前年度の 52%から 58%にやや増加した。以上から、基本的にシラバスを重視して授業が行われている。学科別では、「シラバスに一致させた講義を行った」は、生物資源学科で前年度の 90%から今年度 100%と高くなっている。

### (2) 上記で、「3. 内容にはとらわれないで講義した。」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

該当者がいないため回答は無い。

#### 設問 5. (1) 本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。



図Ⅲ-2-5(1). 昨年度のシラバスとの比較

全体回答数は 47 である。学部全体では、「昨年度と同一」が 60%で昨年度とほぼ変わらず、「大幅に変更」は、昨年度 4%あったのが今年度 0%になった。学科別では、「昨年度と同一」と「一部変更」の割合の各学科の傾向は、昨年度と同様である。シラバス内容は大幅な変更はなされずに授業が行われていると言える。

### (2) 上記で、「2. 一部変更した。」または「3. 大幅に変更した。」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

#### [生物学科]

- ・新しいトピックを入れた。昨年度、学生の理解が不足していた部分を補強した。
- ・内容を更新した。
- ・新しい試みを行うため、計画に近いシラバスに変更した。

#### [分子生命科学科]

- ・改良しようと考えたから。
- ・最新の情報を取り入れるため。

・受講者の人数とバックグラウンドが昨年度と違ったため。

#### [生物資源学科]

- ・より良い内容を目指したから。
- ・本年度から教科書を使うことにしたので、その内容に沿うように一部変更した。

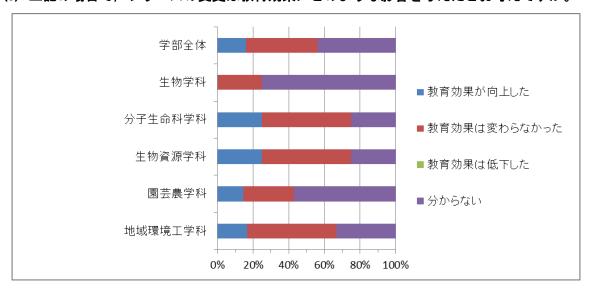
#### [園芸農学科]

・最新の研究成果を反映するため。

#### [地域環境工学科]

- ・講義内容の中で新たな物を入れ込んだ (ニュース等)。
- ・担当科目は全て今期よりのものだったので、前任者のものに少し自分の色を加えた。
- ・進行改善のため。
- ・昨年度の授業アンケートや学生の試験結果から、扱う内容や量を変える必要があると感じため。
- ・学生の理解力を考慮して変更。
- ・授業内容の改善のため。

### (3) 上記の場合で、シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。



図Ⅲ-2-5(2). シラバス変更の効果

全回答数は25である。学部全体では、教育効果は「変わらなかった」、「分からない」を合わせて前年度の90%から84%へとやや減少したが、「教育効果が向上した」に比べ割合は大きい。学科別では、分子生命科学科・生物資源学科では昨年度無かった「教育効果が向上した」が各1名ずつあった。この具体的内容については(4)で述べる。総じて、シラバス変更の教育効果への影響は明瞭でない場合が多いようである。

### (4) 上記の設問3で「1. 教育効果が向上した」と回答した方は、その具体的な事例を教えてください。

#### [分子生命科学科]

・講義の最後の回に学生による発表を取り入れた。英文で書かれた資料を参考にさせたものだったが、受講者はそれぞれに工夫した発表を行う事ができ、教育効果があった。

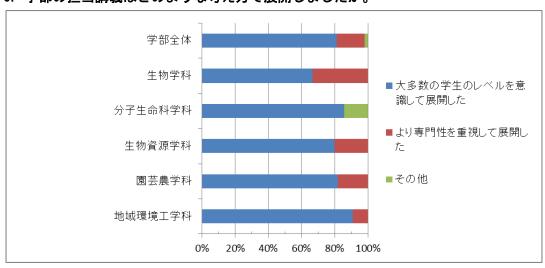
#### [生物資源学科]

・一部の学生から講義が Best であったと言われた。

#### [地域環境工学科]

・年度によって学生の理解力が異なるため、そのレベルに出来るだけ沿った形とする方が、結果 的には良い。

#### 設問 6. 学部の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。



図Ⅲ-2-6. 講義展開の考え方

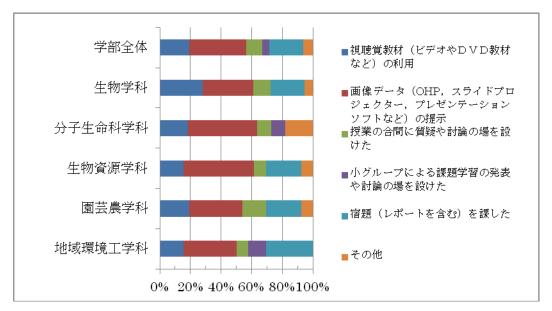
全回答数は48である。学部全体では、81%が学生のレベルを意識した講義を行っており、前年度84%とほぼ同割合である。学科別では、生物資源学科・園芸農学科では「専門性をより重視した講義」が、昨年度0%からそれぞれ20%、18%(各2件)に増加した。

「その他」の回答

#### [分子生命科学科]

・底辺レベルを意識して展開した。

設問 7. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい(複数回答可)。



図Ⅲ-2-7. 授業の工夫

回答は学部全体で95件に上った。全体では、「画像データの呈示」が前年度の60%から38%まで減少した。しかし、「視聴覚機材の利用」と併せ50%を超えており、これらが一般的に使われていることを示す。一方、前年度事例の無かった「宿題を課す」が22.5%(21件)となった。これは科目の単位取得が、授業受講だけでなく自己学習を含めたものであることから、授業外の学習を重視した取り組みとみられる。

#### 「その他」の回答

#### [生物学科]

毎時間,予習における理解をたしかめる課題を課した。

#### [分子生命科学科]

- ・授業用 Web サイトの利用。
- ・講義のはじめに前回の復習をした。

#### [園芸農学科]

・インターネットを利用した情報収集を促した。

# 設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが、そのような場合への対応として、どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

#### [生物学科]

- ・今まで例がない(3件)。もしあれば教務を通じて書類により対応を考えている。
- ・コメントを付けたレポートの返却。
- ・解答用紙を見せて配点を示し、何故その点数になったかを理解できるように説明する。

#### [分子生命科学科]

・物事の本質を理解するように説得する。

- ・答案は返却。
- ・希望学生には採点後に答案を返却している。
- ・学生が納得するよう丁寧な説明を心がけている。

#### 「生物資源学科]

- 事例なし。
- ・実際に答案を見せて、その点数になった理由を示している。
- ・必要があれば、来室してもらい、説明した。
- ・期末試験後,解答例,配点,加点基準を掲示するとともに,答案を返却し,約1週間疑義照会を受け付けている。
- ・成績のあり方をルービックキューブに基づき提示。
- あれば個別に対応する。
- ・採点方法について詳しく説明する。

#### [園芸農学科]

- ・丁寧に説明している。
- ・相談を受けたことはないが、もしあった場合、シラバスで紹介されている学部のシステムを説明して対応する。
- ・点数を見せる。
- ・評価方法、採点基準を公開する。

#### [地域環境工学科]

- ・テストの返却を実施し、採点基準を説明することを実施。
- ・答案は個人単位で説明の上で、個別に返却しており、その際にも特に疑義を受けなかった。
- ・話を聞く機会を持つ。
- ・評価方法の説明。試験返却, 点数の開示。
- ・説明するしかない。
- ・速やかに成績評価結果を学生に開示し、評価視点を説明する。

昨年度同様,成績評価に疑義を持つ学生に対して評価基準を示して説明する等さまざまな取組 がなされており、多くの教員は積極的に対応している。

設問 9. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために、このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

意見なし

### 設問 10. このアンケート調査の実施や内容について他にご意見がありましたらご記入下さい。 [園芸農学科]

・毎年同じ質問なのは意味があるのか?

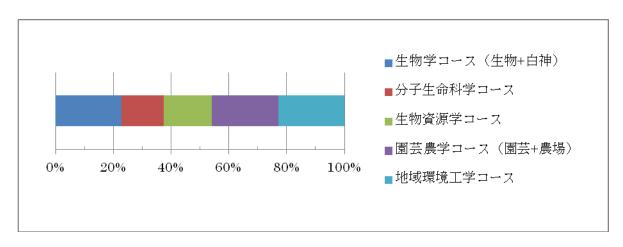
ある程度の期間、設問を大きく変えずに行っているのは、教育改善が進んでいるのか数量的に 確認し、またその根拠となる具体的取組みの内容を把握する目的があるためである。

#### 3. 研究科授業に関する調査結果

#### 設問 1. あなたが所属するコースを選択して下さい。

表Ⅲ-3-1. コース別回答率

所属コース	教員数(人)	回答者数(人)	回答率(%)
研究科全体	73	48	65.8
生物学	16	11	68.8
分子生命科学	14	7	50.0
生物資源学	13	8	61.5
園芸農学	19	11	57.9
地域環境工学	11	11	100.0

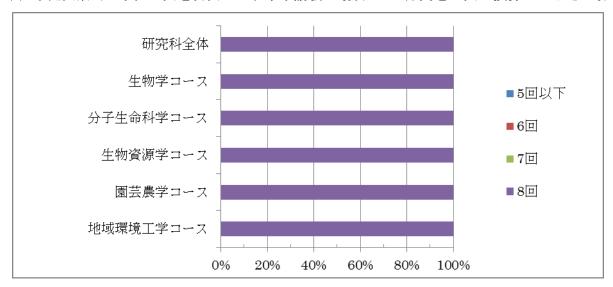


図Ⅲ-3-1. コース別回答割合

集計では、生物共生教育研究センターは園芸農学コースに、白神自然環境研究所は生物学コースに含んでいる。研究科全体での回答割合は65.8%である。

#### 設問 2. 授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

#### (1) 予定回数(1単位8回を目安とし、集中講義の場合は90分間を1回に換算して下さい。)

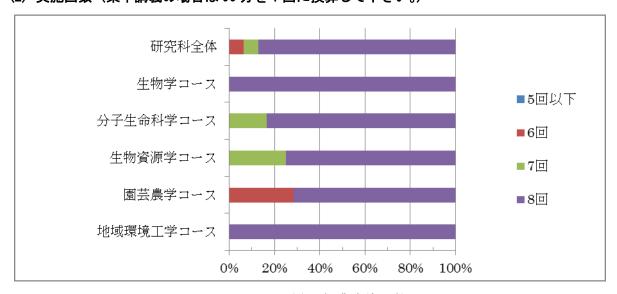


図Ⅲ-3-2(1). 授業予定回数

全体回答数は 45 であった。しかし、設問通りに予定回数を 8 回とした回答者数は 31 人で、残りの 14 人は 15 あるいは 16 回と回答していた。そこで、前者の 31 人のみの回答を有効な回答として集計した結果を図Ⅲ-3-1(1)に示した。31 人全員が 8 回の実施を予定していた。

なお、平成28年2月に実施予定のアンケートでは、回答時の混乱を避けるため、回数を記入して貰う現行の方式から、選択枝の中から予定および実施回数を選択して貰う設問に変更する予定である。

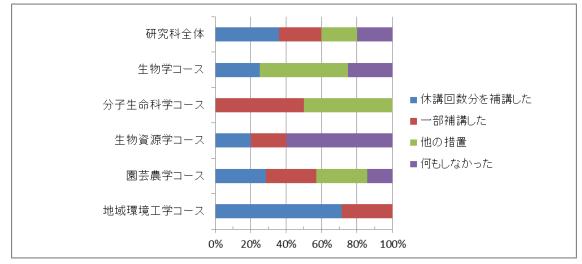
#### (2) 実施回数(集中講義の場合は90分を1回に換算して下さい。)



図Ⅲ-3-2(2). 授業実施回数

全体回答数は 44 であった。しかし、設問(1)で述べた理由により 31 人のみの集計結果を図Ⅲ -3-1(2)に示した。コース毎の回答者数が 4~8 人と少ないため、研究科全体の傾向についてのみ

分析すると、87% (31人中27人)の教員が8回実施していた。



設問3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

図Ⅲ-3-3. 休講の代償措置

全回答数は45である。ここでは全回答者の集計結果を分析に使用した。研究科全体では、一部補講も含め「補講した」が60%で、前年度(65%)と比較してやや低下した。また、「何もしなかった」が学部全体で20%あり、昨年度(17%)と同程度である。学部授業に比べ、特段の措置をしていないケースがやや多くなっている。コース別では、生物資源学コースで「何もしなかった」が58%(3人)と多かった。

「他の措置」としては、以下のようであった。

#### [生物学コース]

・レポート

#### [生物資源学コース]

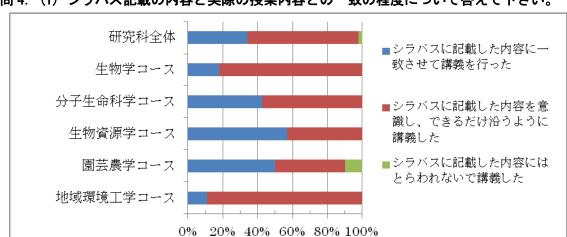
・レポート2件

#### [園芸農学コース]

- ・レポート3件
- 課題2件
- 資料配布

#### [地域環境工学コース]

・レポート1件



設問 4. (1) シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。

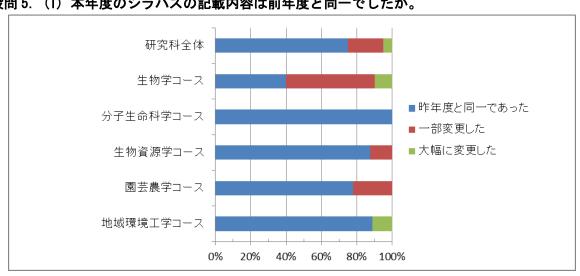
図Ⅲ-3-4. シラバスと実際の授業内容との一致度合

全回答数は44である。研究科全体では、「シラバスと一致」、「できるだけ一致」と合わせる98% で、昨年度(83%)より15%増加した。大学院でもほぼシラバスに沿った講義が行われていること が伺われる。園芸農学コースでは、シラバスに捉われない内容での講義が1件あった。理由は(2) に記載している。

### (2) 上記で、「3. 内容にとらわれないで講義した」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記 入して下さい。

#### [園芸農学コース]

・受講学生の興味と知識レベルが、あまりにも多様なため、シラバスの内容にできるかぎり関連 があるかたちで、学生の興味を優先して内容を修正した。



設問 5. (1) 本年度のシラバスの記載内容は前年度と同一でしたか。

図Ⅲ-3-5. 前年度のシラバスとの比較

全体回答数は40件。研究科全体で、「昨年度と同一」と「一部変更」がそれぞれ76%、20%で

あり、合計は96%で、昨年度(95%)と同程度であった。「大幅に変更」は1件(2%)のみである。 昨年度と同様にシラバスを大きく変更しない状況が認められた。

### (1)② 上記で、「2. 一部変更した。」または「3. 大幅に変更した。」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

[生物学コース]

- ・新しいトピックに合わせ, 一部変更した。
- 内容に合わせた。
- ・内容をより新しいもの(知見)に合わせるために変更した。

#### 「生物資源学コース」

・良い講義内容を目指した。

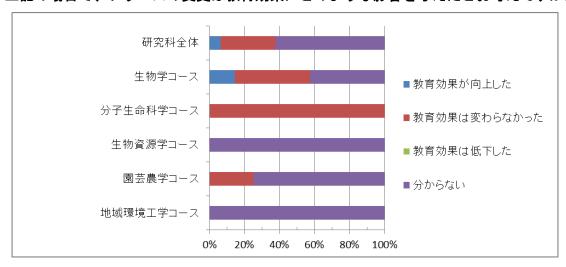
#### 「園芸農学コース]

・最新の研究成果を追加した。

#### [地域環境工学コース]

初めてなので。

#### ③ 上記の場合で、シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。



図Ⅲ-3-6. シラバス変更の教育効果

全回答数は15である。研究科全体で、「教育効果が向上した」と回答した件数(率)は1件(6%)のみであった。「分からない」は62%を占める。したがって、シラバスの変更が、必ずしも教育効果の改善に寄与していないとみられる。

設問 6. 大学院の講義は平成 24 年度から、それ以前の前後期制に代わりクォーター制で実施されています。

① 3年を経過して、クォーター制による講義は、教育効果にどうような影響を与えたとお考えですか?

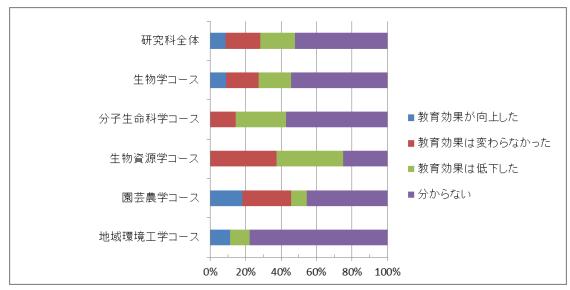


図 Ⅲ-3-7. クォーター制による教育効果

全回答数は46である。研究科全体で、クオーター制に対し「それ以前に比べ教育効果が向上」との指摘は10%と少ない。「低下した」が20%ほどあり、分子生命科学・生物資源学各コースで30%内外とやや高い。学部全体で「分からない」が54%に及んだ。これは、以前と講義内容構成が変わるなど効果の比較が難しいためと推定される。

- ② 上記の設問で「1」あるいは「3」と回答した方は、そう判断した理由を教えて下さい。
  - 1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった 3. 教育効果は低下した
  - 4. 分からない

#### [生物学コース]

- 3 I, Ⅱと別になったことで、Iのみ受講しⅡはとらない学生が多く、Ⅱの授業実施に支障がでた。
- 1 いろいろな種類の科目をつくることができるようになった。

#### 「分子生命科学コース」

3 ひとまとまりの講義回数が半減したため、内容も少なくせざるを得なくなった。

#### [生物資源学コース]

- 3 クオーター制をやる意味が理解出来ない。1 つの授業の機関を短くして何の効果があるのか?前期や後期で半期分をやることで理解が増すのではないか?
- 3 学部時代に関連科目を履修していなかった学生が多すぎるため、学部レベルの講義もする必要がある。
- 3 今まで 1 つのテーマの下で行っていたものを 2 つに分けて I と II にしたが, I と II の受講者数が 大きく異なる(I は 20 名程度,II は 4.5 名程度)ようになり,また年により受講者数

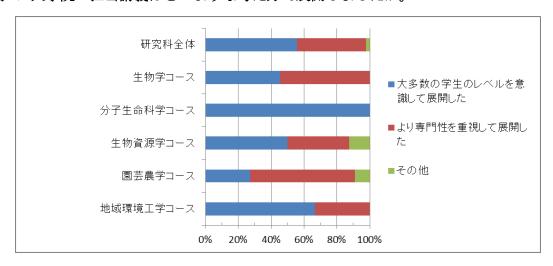
が変更するため授業の焦点が合わせづらくなったため。

#### [園芸農学コース]

1と3 専門の近い学生には不十分かも?専門外の学生にはフレッシュかも? [地域環境工学コース]

- 1 知識の定着が良い傾向になった。
- 3 講義の流れが分断しているように感じる

#### 設問7. 大学院の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。



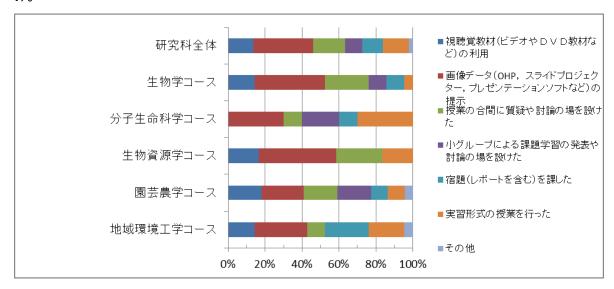
図Ⅲ-3-8. 講義についての考え方

全回答数は 45 である。研究科全体では、「学生のレベルを重視」とした回答が 56%、「専門性重視」が 42%であり、昨年度の各回答 (50%, 40%)と同程度で、前者が多い傾向は過年度と同様であった。

#### [その他の回答]

・受講者の人数と顔ぶれで調整している

設問 8. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい (複数回答可)。



図Ⅲ-3-9. 授業の工夫

全体回答数は87件である。研究科全体で、「画像データ活用・視聴覚機材の利用」が計約46%を占め、学部授業と同様である。一昨年まで学期制で多かった「質疑・発表や討論」は25%と前年度より7%増えたものの全体に対する割合は少ない。細切れの内容や時間数減少のため、このような時間を取りにくいと推定される。分子生命科学コースで実習形式(32%)、地域環境工学コースで宿題(28%)が、また、以下のようにさまざまな取組みがなされていることが分かる。

「その他」とした回答

[園芸農学コース]

- ・植物材料の実物を扱ったり、温室で一部の講義を行った [地域環境工学コース]
- ・現地調査で座学内容の理解を深めた

設問 9. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが、そのような場合への対応として、どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

#### [生物学コース]

- ・今までに無い(6件)。
- ・もしあれば、事務を通じて書類を出すようにしている。

#### [分子生命科学コース]

- ・無し (3件)。
- ・物事の本質を最優先するように説得する。
- ・学生が納得するように丁寧な説明を心がける。

「生物資源学コース]

・なし (3件)。

- ・何故そのような成績になったのかを説明している。
- ・個別に対応している

#### [地域環境工学コース]

- ・なし (2件)。
- ・レポート等を返却した(2件)。
- ・できる限り理解してもられるよう説明 (レポート等の評価)。
- 説明するしかない。

設問 10. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために、このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

回答なし。

設問 11. このアンケート調査の実施や内容についてご意見がありましたらご記入下さい。

回答なし。

#### Ⅳ 教員対象教育評価アンケート

#### 1. アンケート調査内容

調査目的:農学生命科学部の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため学部教育に関する教員の意識について調査することを目的とした。

調査方法:アンケート用紙を各教員に配布して調査を行った。学生に対するアンケートの設問と共通項目を設けた。

調査対象: 平成27年3月の時点で学部・遺伝子実験施設および生物共生教育研究センターに所属する教員とした。

調査期間: 平成27年2月9日~2月20日

調查対象教員数:71名, 有効回答者数:48名

調査項目:設問は以下の通りである。

- 設問1. あなたの所属学科等をお答え下さい。
- 設問2. 本学部および本研究科の理念,教育目的および教育目標を知っていますか。
- 設問3. あなたが所属する学科・コースの教育目標を知っていますか。
- 設問 4. 本学部の入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)を知っていますか。
- 設問 5. あなたが所属する学科・コースの教育目標は学部ホームページにあるとおりですが,学科 (21 世紀教育科目および専門教育科目) およびコースのカリキュラムはその目標によく 合致すると感じていますか。
- 設問 6. あなたはシラバス作成時に、学科・コースの教育目的や教育目標に従った講義内容にしようとしていますか。
- 設問7 ① 授業内容がシラバス記載の内容と異なることをどのようにお考えですか。
  - ② 何らかの理由で授業内容がシラバス記載の内容と異なった場合,あなたは受講生に対する説明の必要性についてどのようにお考えですか。
- 設問 8. 本学では「授業方法改善のための学生による授業評価に関するアンケート調査」が平成 15 年度後期から実施されています。その結果についてお尋ねします。
  - ①学生による授業評価の妥当性についてどのようにお考えですか。
  - ②授業評価の結果を授業の改善に利用していますか。
- 設問 9. 本学では授業改善のための各種の研修活動 (FD活動) が行われています。
  - ①この1年間でどのようなFD活動に参加されましたか。参加された回数をお答え下さい (参加されなかった場合は0を記入して下さい)。
  - ②参加された活動は、教育改善に役立ちましたか。
- 設問 10. 担当科目において学生の授業時間外の学習を促すためにどのような工夫をして いますか。
- 設問 11. ①本学部の以下の施設と設備についてどのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。
  - ②上記で「4. やや不充分」と「5. かなり不充分」を選択した場合, その理由を次の欄に具体的に書いて下さい。
- 設問12. ① 卒業研究は必要であると思いますか。

- ② 上記のように回答した理由を下欄に分りやすく記入して下さい。
- 設問 13. ① あなたの学科の大多数の卒業生は本学部での教育により大学卒業生としての知識と 学力を身に付けたと思いますか。
  - ②上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。
- 設問 14. ① あなたの専攻の大多数の修了生は、本研究科での教育により大学院修了程度の専門知識を身に付けたと思いますか。
  - ②上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

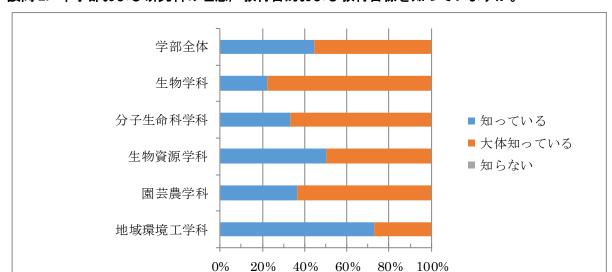
#### 2. 調査結果

#### 設問 1. あなたの所属学科等をお答え下さい。

表IV-1 回収率

学科	教員数	回答数	回答率	H25回答率
生物学科	13	9	69%	79%
分子生命科学科	14	7	50%	57%
生物資源学科	13	10	77%	77%
園芸農学科	15	10	67%	58%
地域環境工学科	11	11	100%	100%
学部全体	70	48	69%	73%

4 か年(平成 23~26 年)の学部全体の回答率を見ると、 $78\% \rightarrow 76\% \rightarrow 73\% \rightarrow 69\%$ と低下傾向にある。学科毎に見ると、「地域環境工学科」( $90\% \rightarrow 70\% \rightarrow 100\% \rightarrow 100\%$ )、「生物資源学科」( $79\% \rightarrow 85\% \rightarrow 77\% \rightarrow 77\%$ )、「生物学科」( $62\% \rightarrow 79\% \rightarrow 79\% \rightarrow 69\%$ )、「園芸農学科」( $87\% \rightarrow 80\% \rightarrow 60\% \rightarrow 58\%$ )、「分子生命科学科」( $79\% \rightarrow 64\% \rightarrow 57\% \rightarrow 50\%$ ) と推移している。なお、「生物共生教育研究センター」は「園芸農学科」に含めて集計している。

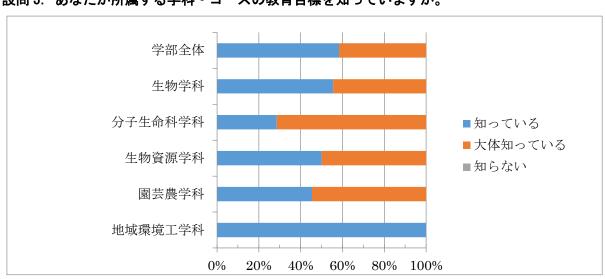


設問 2. 本学部および研究科の理念,教育目的および教育目標を知っていますか。

図IV-1 学部・研究科の理念・教育目的・教育目標の認知

学部・研究科の理念・教育目的・教育目標の認知について、3 か年の推移を全体で見ると、「知っている」( $53\% \rightarrow 34\% \rightarrow 45\%$ )、「大体知っている」( $47\% \rightarrow 62\% \rightarrow 55\%$ )と推移している。「知らない」は皆無である。回答した教員の全員が、学部と研究科の理念・教育目的・教育目標を概ね認知している。

3 か年の推移を学科別に見ると、「知っている」は「地域環境工学科」(78% $\rightarrow$ 70% $\rightarrow$ 73%)、「生物資源学科」(40% $\rightarrow$ 30% $\rightarrow$ 50%)、「分子生命科学科」(64% $\rightarrow$ 29% $\rightarrow$ 33%)、「園芸農学科」(50% $\rightarrow$ 22% $\rightarrow$ 36%)、「生物学科」(38% $\rightarrow$ 27% $\rightarrow$ 22%) となった。



設問3. あなたが所属する学科・コースの教育目標を知っていますか。

図IV-2 所属学科・コースの教育目標の認知

所属学科・コースの教育目標の認知について、3か年の推移を学部全体で見ると、「知っている」

 $(56\% \rightarrow 41\% \rightarrow 58\%)$  , 「大体知っている」 $(44\% \rightarrow 57\% \rightarrow 42\%)$  , 「知らない」 $(0\% \rightarrow 2\% \rightarrow 0\%)$  と推移しており、全教員が概ね認知している。

学科別に「知っている」の 3 か年の推移を見ると、「地域環境工学科」(100%→80%→100%)、「生物学科」(56%→27%→56%)、「生物資源学科」(56%→30%→50%)、「園芸農学科」(62%→44%→45%)、「分子生命科学科」(64%→37%→29%)と推移している。特に「地域環境工学科」に「知っている」の割合が高く出ている。

### 学部全体 生物学科 分子生命科学科 生物資源学科 園芸農学科 地域環境工学科 0% 20% 40% 60% 80% 100%

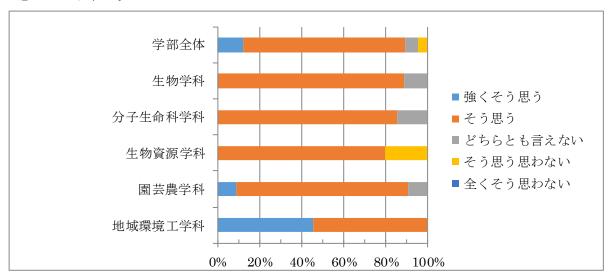
#### 設問 4. 本学部の入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)を知っていますか。

図IV-3 入学者受けれ方針の認知

アドミッションポリシーの認知について、2か年の変化を学部全体で見ると、「知っている」(37%  $\rightarrow$ 42%)、「大体知っている」(59%  $\rightarrow$ 54%)、「知らない」(4%  $\rightarrow$ 4%)と推移している。このように、教員のほとんど(96%)が、アドミッションポリシーを概ね認知している。

「知っている」の比率を学科別に 3 か年で見ると、「園芸農学科」(69%→44%→55%)、「地域環境工学科」(67%→60%→55%)、「生物学科」(50%→27%→33%)、「生物資源学科」(44%→22%→30%)、「分子生命科学科」(45%→43%→29%) となる。

# 設問 5. あなたが所属する学科・コース教育目標は学部ホームページにあるとおりですが、学科 (21 世紀教育科目および専門教育科目) およびコースのカリキュラムはその目標によく合致する と感じていますか。



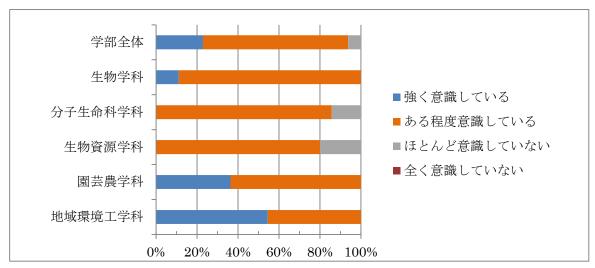
図IV-4 所属学科・コースの教育目標とカリキュラムとの合致

学部全体では肯定的評価(「強くそう思う」と「そう思う」)が 90%であり,ほとんどの教員が 昨年度と同様,概ね合致すると考えている。

学科別の「肯定的評価」を 3 か年で見ると、「地域環境工学科」(89%→100%→100%)、「園芸農学科」(85%→89%→91%)、「生物学科」が (88%→64%→89%)、「分子生命科学科」(91%→100%→86%)、「生物資源学科」(67%→70%→80%)となっており、学科による肯定的評価の度合いの差は少ない。

「否定的評価」(「そう思わない」) は、「生物資源学科」にのみ 20%見られた。「どちらとも言えない」は、「園芸農学科」9%、「分子生命科学科」14%、「生物学科」11%となった。「全くそう思わない」は 0%であった。

### 設問 6. あなたはシラバス作成時に、学科・コースの教育目的や教育目標に従った講義内容にしようとしていますか。



図IV-5 教育目的・目標に従ったシラバスの作成

2 か年で見ると、学部全体で、「強く意識している」が 31%から 23%へ、「ある程度意識している」が 61%から 71%へと変化した。「強く」が減少したが、「強く」と「ある程度」意識している 教員が 2 か年とも 9 割を超えており、全体として「教育目的・目標に従ったシラバスの作成」が 意識されている。「ほとんど意識していない」は 8%から 6%へ減少し、「全く意識していない」が 2 か年とも 0%であった。

学科別に「強く意識している」と「ある程度意識している」の合計割合を見ても、「地域環境工学科」と「園芸農学科」と「生物学科」が100%、「分子生命科学科」が86%、「生物資源学科」が80%と、前回と同様、全学科で教育目的・目標にしたがったシラバスの作成が意識されている。

「ほとんど意識していない」は学部全体で6%であり、学科別で見ると「生物資源学科」に20%、「分子生命科学科」に14%となった。

### 学部全体 生物学科 分子生命科学科 生物資源学科 生物資源学科 国芸農学科

#### 設問 7. ①授業内容がシラバス記載の内容と異なることをどのようにお考えですか。

図IV-6(1) シラバスと実際の授業内容の不一致に対する見解

20% 40% 60% 80% 100%

3 か年で見ると、学部全体で、「極力さける」( $51\% \to 47\% \to 48\%$ )、「より良い授業を提供するためには、ある程度異なってもかまわない」( $49\% \to 49\% \to 50\%$ )、「担当科目の性格から、異なることは避けられない」( $2\% \to 2\% \to 0\%$ )と推移している。このように教員の意見は、「極力さける」と「ある程度異なってもかまわない」に分かれている。

学科別に見ると、以下のようになる。括弧内は、前回の結果である。

0%

地域環境工学科

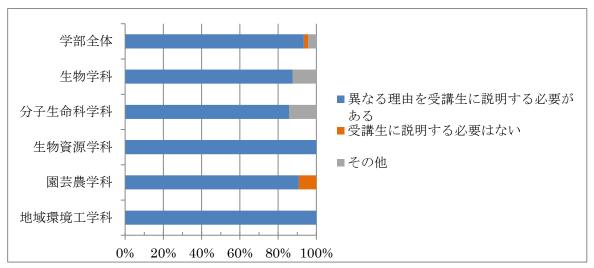
「生物資源学科」 「極力さける」100% (80%),「ある程度異なってもかまわない」0% (20%)「分子生命科学科」「極力さける」57% (63%),「ある程度異なってもかまわない」43% (38%)「地域環境工学科」「極力さける」36% (30%),「ある程度異なってもかまわない」64% (70%)「園芸農学科」 「極力さける」27% (44%),「ある程度異なってもかまわない」73% (56%)「生物学科」 「極力さける」22% (10%),「ある程度異なってもかまわない」76% (70%)

「極力さける」が100%を占める学科(「生物資源学科」)もあるが、「ある程度異なってもかまわない」が多数を占める学科(「生物学科」・「園芸農学科」・「地域環境工学科」)もある。中間に位置するのが「分子生命科学科」である。

シラバスは学生との約束事であり、教員が約束を違えることを極力さけようとするのは当然である。しかし、教育効果を上げるために変更が必要になることもある。どちらに力点を置くのかの違いはあるが、教員は全体として「変更を極力さけつつも、必要なら変更してもよい」と柔軟に考えていることが示されている。

なお、「その他」(2%)の自由記述欄には、「学生の理解度に応じた柔軟な対応や、そのときの最新のトピックの紹介など、ある程度の修正は必要である。」(「生物学科」)との記述があった。

### 設問 7. ②何らかの理由で授業内容がシラバス記載の内容と異なった場合, あなたは受講生に対する説明の必要性についてどのようにお考えですか。



図IV-6(2) シラバスと授業内容が異なる場合の受講生への説明

「異なる理由を受講生に説明する必要がある」が93%と大勢を占めている。しかし、ごく少数ではあるが「説明する必要はない」との意見も2%あり、「その他」も4%になっている。

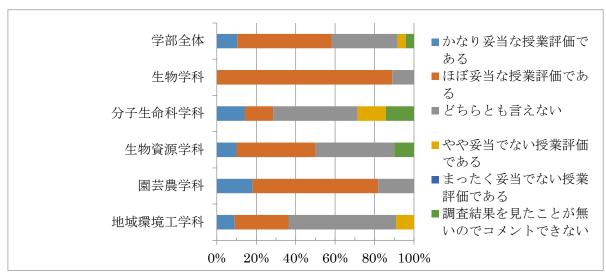
「その他」の「自由記述欄」には、①「大まかに沿っていれば、組織の違いを説明しても意味があるとは思えないし、学生もそこまでは気にしない。方針を大きく変えた時に、説明すれば良い。」 (「生物学科」)、②「程度による」(「分子生命科学科」)との記述があった。

#### 設問 7. ③上記の質問で 2. と回答した理由を教えて下さい。

「受講生に説明する必要はない」と考える理由の記述はなかった。

# 設問 8. 本学では「授業方法改善のための学生による授業評価に関するアンケート調査」が平成 15 年度後期から実施されています。その結果についてお尋ねします。

①学生による授業評価の信頼性についてどのようにお考えですか。



図Ⅳ-7(1) 学生による授業評価アンケートの信頼性

3 か年で見ると, 学部全体では, 「かなり妥当」(6%→8%→10%), 「ほぼ妥当」(57%→55%→ 48%),「どちらとも言えない」( $31\% \rightarrow 18\% \rightarrow 33\%$ ),「やや妥当でない」( $2\% \rightarrow 14\% \rightarrow 4\%$ ),「ま ったく妥当でない」 $(2\% \rightarrow 4\% \rightarrow 0\%)$ と推移した。「かなり妥当」と「ほぼ妥当」の合計は 63%  $\rightarrow$ 63% $\rightarrow$ 58%と推移した。「やや妥当でない」と「まったく妥当でない」の合計は、4% $\rightarrow$ 18% $\rightarrow$ 4% と推移した。

このように,58%の教員は学生による授業評価を概ね妥当だと肯定的に受け止めているが,33% の教員は「どちらとも言えない」と懐疑的である。否定的な意見は4%,「コメントできない」は 5%であった。全体として教員は、学生による授業評価に対して、「受け止めなければならないが、 鵜呑みにはできない」と考えていると見られる。

「かなり妥当」と「ほぼ妥当」の合計の3か年の変化を学科別に見ると,「生物学科」(75%→ 91%→89%),「園芸農学科」(77%→66%→82%),「生物資源学科」(44%→50%→50%),「地 域環境工学科」(75%→70%→36%), 「分子生命科学科」(36%→38%→29%)となっている。 「学生による授業評価」への信頼感の度合いは、「生物学科」と「園芸農学科」に高く出る傾向 にあり,高かった「地域環境工学科」の信頼感は低下した。「分子生命科学科」は低く出る傾向に あり、「生物資源学科」が中間的な傾向にある。

#### 学部全体 ■評価の低かった項目の評価を上 げるよう努力している 生物学科 ■評価が低くても現在の講義の内 容を続ける 分子生命科学科 ■評価を上げるためには授業の質 をある程度低くするのも止むを 生物資源学科 得ないと考えている 学生の評価結果はあてにならな いと考えている 園芸農学科 ■評価結果を見たことが無いので コメントできない 地域環境工学科 20% 40% 60% 80% 100% 0%

#### ②授業評価の結果を改善に利用していますか。

図IV-7(2) 学生による授業評価結果の授業改善への利用

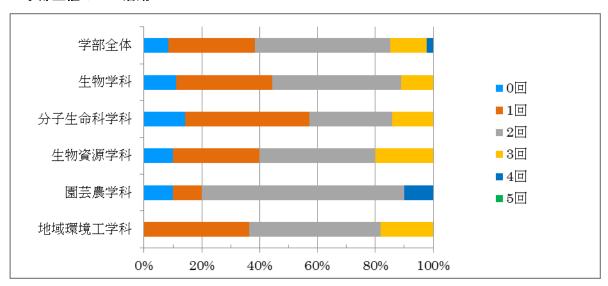
3か年で見ると、学部全体では、「評価の低かった項目の評価を上げるよう努力している」(77%  $\rightarrow 80\% \rightarrow 83\%$ ),「評価が低くても現在の講義の内容を続ける」( $11\% \rightarrow 2\% \rightarrow 2\%$ ),「評価を上げる ためには授業の質をある程度低くするのもやむを得ない」(7%→8%→7%),「学生の評価結果は あてにならない $|(5\%\rightarrow 8\%\rightarrow 2\%)$ ,「評価結果を見たことがないのでコメントできない $|(0\%\rightarrow 2\%)$  $\rightarrow$ 7%) となった。

「評価が低くても現在の講義の内容を続ける」は「分子生命科学科」に 14%,「評価を上げるた めには授業の質をある程度低くするのもやむを得ない」は「地域環境科学科」(10%),「生物学 科」(22%) となった。

このように、多くの教員(83%)が評価を上げようとして、評価結果を授業改善に利用している。「評価を上げるために授業の質をある程度低くする」(7%)も「評価を上げよう」とする点では同じであり、加えると9割の教員が「評価を上げよう」と努力している。ただし、先の83%の教員が授業の質を下げるのか下げないのかは不明である。

設問 9. 本学では授業改善のための各種の研修活動 (FD活動) が行われています。 ①この1年間でどのようなFD活動に参加されましたか。参加された回数をお答え下さい。 (参加されなかった場合は0を記入して下さい)。

#### 1. 学部主催のFD活動



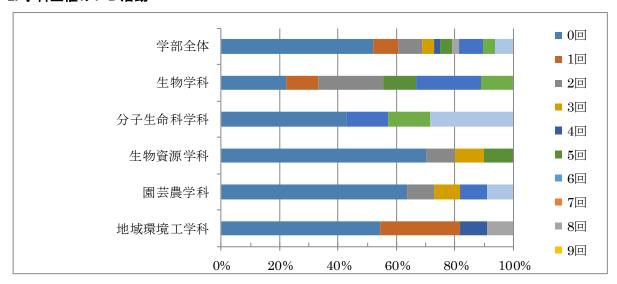
図IV-8(1) 学部主催のFD活動への参加回数

学部主催のFD活動への参加回数毎の集計を 2 か年で見ると、学部全体で 0 回 (12%→9%)、1 回 (39%→30%)、2 回 (41%→47%)、3 回 (8%→13%)、であり、1 回以上参加した教員が 91% を占めている。

学部全体の述べ参加回数は80回(昨年度74回)と増加した。1 教員当たりの参加回数を2か年で見ると、学部全体では1.5回から1.7回へと増加した。

学科別に見ても、「園芸農学科」(1.1回 $\rightarrow$ 1.9回)、「地域環境工学科」(1.4回 $\rightarrow$ 1.8回)、「生物資源学科」(1.3回 $\rightarrow$ 1.7回)、「生物学科」(1.7回 $\rightarrow$ 1.6回)、「分子生命科学科」(1回 $\rightarrow$ 1.4回) と、全体的に参加回数を増やしている。

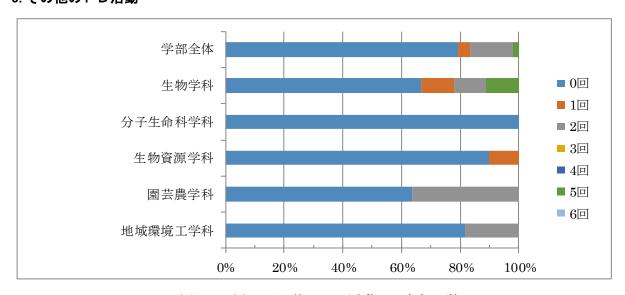
#### 2. 学科主催のFD活動



図IV-8(2) 学科主催のFD活動への参加回数

学科主催のFD活動への参加回数は、多い教員で12回である。学科別の1教員当たりの参加回数を2か年で見ると、「分子生命科学科」(6.3回→6.4回)、「生物学科」(2.7回→4.6回)、「園芸農学科」(1.1回→2.5回)、「地域環境工学科」(1.4回→1.4回)、「生物資源学科」(1.4回→1回)となっている。

#### 3. その他の F D 活動



図IV-8(3) その他のFD活動への参加回数

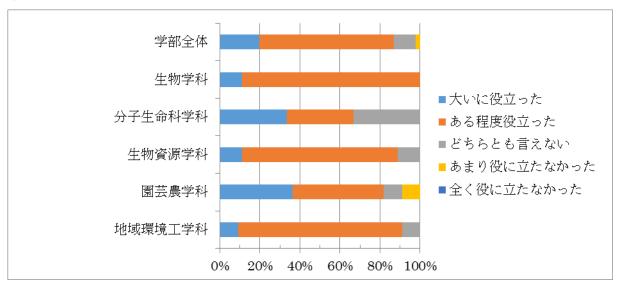
その他のFD活動とは、大学全体のFD活動や学外でのFD活動である。参加回数毎に 2 か年で見ると、学部全体では 0 回  $(64\% \rightarrow 79\%)$ 、1 回  $(24\% \rightarrow 4\%)$ 、2 回  $(10\% \rightarrow 15\%)$ 、4 回  $(2\% \rightarrow 0\%)$ 、5 回  $(0\% \rightarrow 2\%)$  となる。

学科別の回答者1人当りの平均参加回数を2か年で見ると、「生物学科」(0.4回→0.9回)、「園

芸農学科」 $(0.4 回 \to 0.7 回)$ ,「地域環境工学科」 $(0.5 回 \to 0.4 回)$ ,「生物資源学科」 $(0.6 回 \to 0.1 回)$ ,「分子生命科学科」 $(0.5 回 \to 0 \Box)$ ,と推移している。

前々年度・前年度においては、学科・学部・その他の順に参加が消極的になっていく傾向が見られたが、今年度は学部主催のFD活動が重視され、学部・学科・その他の順になった。

#### ②参加された活動は、教育改善に役立ちましたか。

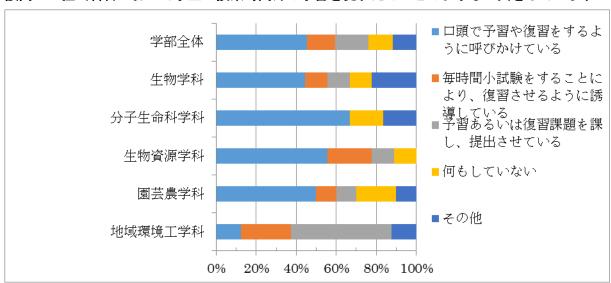


図IV-8(4) 参加したFD活動の教育改善効果

学部全体では, 肯定的評価 (「大いに役立った」19.6%, 「ある程度役立った」67.4%) が 87% (昨年度 80%) を占めた。

それを学科別に3か年で見ると、「生物学科」が(100%→80%→100%)、「地域環境工学科」(100%→90%→91%)、「生物資源学科」(44%→80%→89%)、「園芸農学科」(85%→78%→82%)、「分子生命科学科」(82%→75%→67%)であった。

「生物資源学科」(年々増加)と「分子生命科学科」(年々減少)が対照的な推移を見せているが、多くの教員がFD活動の教育改善効果を認めていることには、変わりはない。「どちらとも言えない」(11%)や「あまり役に立たなかった」(2%)という評価もあったが、ごく少数であった。



設問 10. 担当科目において学生の授業時間外の学習を促すためにどのような工夫をしていますか。

図IV-9 学生に対する時間外学習の促進方法

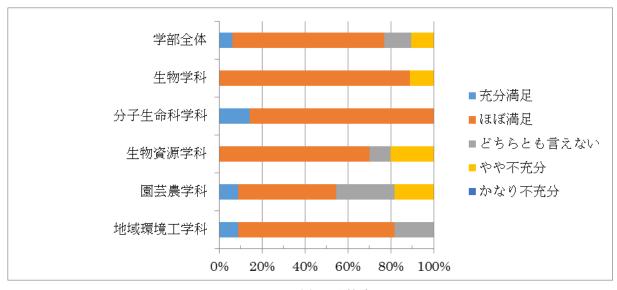
3 か年の推移を見ると、学部全体では、「口頭での予習・復習の呼びかけ」( $42\% \to 35\% \to 45\%$ )、「小試験で復習を誘導する」( $13\% \to 21\% \to 14\%$ )、「予習・復習課題を課す」( $29\% \to 30\% \to 17\%$ )、「何もしていない」( $10\% \to 9\% \to 12\%$ )、その他( $6\% \to 5\% \to 12\%$ ) であった。このように、多くの教員(88%)が時間外学習を促している。その方法としては、「小試験」や「予習・復習課題を課す」が減少傾向にあり、「口頭」が増加傾向にある。

「小試験」と「課題を課す」の合計を学科別に 2 か年で見ると、「地域環境工学科」( $50\% \rightarrow 75\%$ )、「生物資源学科」( $56\% \rightarrow 33\%$ )、「生物学科」( $30\% \rightarrow 22\%$ )「分子生命科学科」( $75\% \rightarrow 0\%$ )、「園芸農学科」( $57\% \rightarrow 20\%$ )、と推移している。

「その他」の自由記述欄には、「2~3回レポートの提出を課す」(地域環境科学科)、「予習が出来るように、資料を配布」(園芸農学科)、「問題点があれば教員に聞きに来るよう呼びかけている」(分子生命科学)、「適宜様子を見て課題を課すことがある(毎回ではない)」(分子生命科学科)、「事前にネットで資料公開を行い、予習するように呼びかけている」(生物学科)、「毎時間小試験をすることにより、予習させるように誘導している」との記述があった。

設問 11. ① 本学部の以下の施設と設備についてどのように感じていますか。該当する欄に〇を書き込んで下さい。

#### 1. 講義室

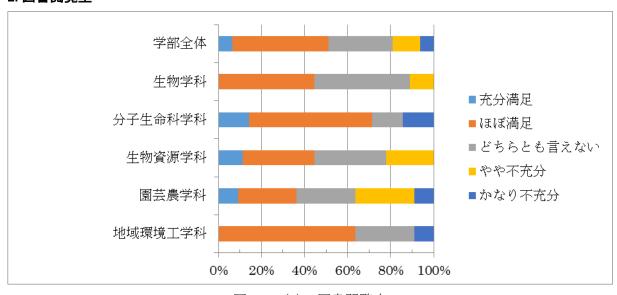


図IV-10(1) 講義室

講義室について、2か年で見る。まず学部全体を見ると、「充分満足・ほぼ満足」(73% $\rightarrow$ 77%)、「どちらとも言えない」(7% $\rightarrow$ 13%)「やや不充分」(20% $\rightarrow$ 10%)、「かなり不充分」(0% $\rightarrow$ 0%)であった。

「充分満足」・「ほぼ満足」を学科別に見ると、「分子生命科学科」(88% $\rightarrow$ 100%)、「生物学科」(91% $\rightarrow$ 89%)、「地域環境工学科」(70% $\rightarrow$ 82%)、「生物資源学科」(60% $\rightarrow$ 70%)、「園芸農学科」(67% $\rightarrow$ 55%) となった。「やや不充分」は「生物資源学科」(20%)、「園芸農学科」(18%)、「生物学科」(11%) である。このように、多くの教員が概ね満足している。

#### 2. 図書閲覧室



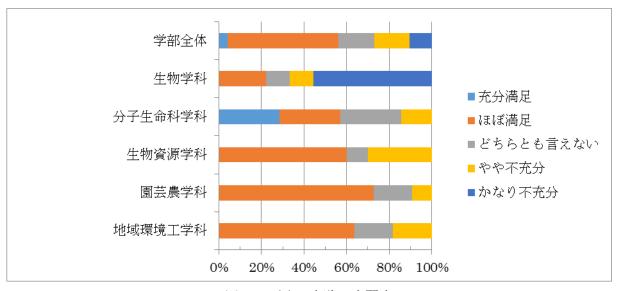
図IV-10(2) 図書閲覧室

図書閲覧室について、学部全体で3か年で見ると、「充分満足・ほぼ満足」(78% $\rightarrow$ 51% $\rightarrow$ 51%)、「どちらとも言えない」(15% $\rightarrow$ 29% $\rightarrow$ 30%)、「やや不充分」(7% $\rightarrow$ 8% $\rightarrow$ 13%)、「かなり不充分」(0% $\rightarrow$ 12% $\rightarrow$ 6%)と推移している。このように、約半数の教員(49%)が満足していない。

「充分満足」と「ほぼ満足」の合計を学科別に 2 か年で見ると、「分子生命科学科」( $50\% \rightarrow 71\%$ )、「地域環境工学科」( $70\% \rightarrow 64\%$ )、「生物資源学科」( $70\% \rightarrow 44\%$ )、「生物学科」( $45\% \rightarrow 44\%$ )、「園芸農学科」( $33\% \rightarrow 36\%$ )と推移している。

「かなり不充分」と「やや不充分」の合計は、「生物学科」(36% $\rightarrow$ 11%)、「園芸農学科」(33% $\rightarrow$ 36%)、「分子生命科学科」が 13% $\rightarrow$ 14%)、「生物資源学科」が 10% $\rightarrow$ 22%)、「地域環境工学科」(10% $\rightarrow$ 9%)と推移した。

#### 3. 実験・実習室



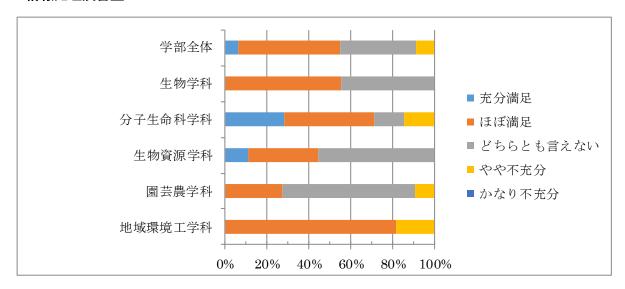
図IV-10(3) 実験・実習室

実験・実習室について、3か年で見ると、学部全体では「充分満足・ほぼ満足」(47% $\rightarrow$ 57% $\rightarrow$ 56%)、「どちらとも言えない」(37% $\rightarrow$ 14% $\rightarrow$ 17%)、「かなり不充分・やや不充分」(16% $\rightarrow$ 29% $\rightarrow$ 27%)と推移している。このように、半数近くの教員(44%)が「満足」していない。

学科別に「充分満足」・「ほぼ満足」を見ると、「園芸農学科」(31% $\rightarrow$ 78% $\rightarrow$ 73%)、「地域環境工学科」(56% $\rightarrow$ 80% $\rightarrow$ 70%)、「分子生命科学科」(64% $\rightarrow$ 75% $\rightarrow$ 57%)、「生物資源学科」(78% $\rightarrow$ 70% $\rightarrow$ 60%)、「生物学科」(25% $\rightarrow$ 9% $\rightarrow$ 22%) であった。「生物学科」の満足度が極めて低い点が特徴的である。それは3か年、連続している。

「かなり不充分・やや不充分」は、「生物学科」(0%→82%→67%)、「生物資源学科」(13%→20%→30%)、「地域環境工学科」(0%→10%→18%)、「分子生命科学科」(18%→0%→18%)、「園芸農学科」(31%→22%→9%)と推移した。「生物学科」に不充分と考える教員割合が高く、「園芸農学科」と「地域環境工学科」に満足と考える教員割合が高く出ている。とりわけ、「生物学科」へのしっかりとした対応が求められる。

#### 4. 情報処理演習室



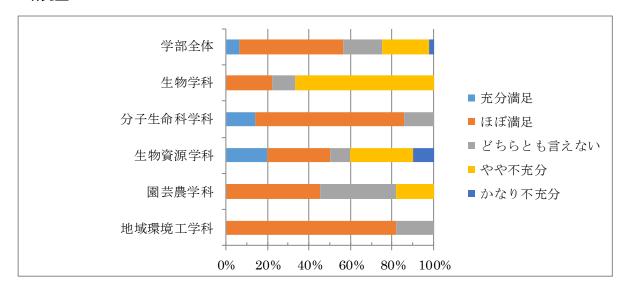
図IV-10(4) 情報処理演習室

情報処理演習室について 3 か年で見ると、学部全体では「充分満足・ほぼ満足」(63% $\rightarrow$ 60% $\rightarrow$ 55%)、「どちらとも言えない」(31% $\rightarrow$ 34% $\rightarrow$ 36%)、「かなり不充分・やや不充分」(6% $\rightarrow$ 6% $\rightarrow$ 9%)と推移した。 肯定的評価は 55%であり、 半数近くの教員(45%)が「満足」しておらず、残りの教員の多く(36%)が「どちらとも言えない」と考えている。

学科別に「充分満足・ほぼ満足」を見ると、「地域環境工学科」( $78\% \rightarrow 50\% \rightarrow 82\%$ )、「分子生命科学科」( $36\% \rightarrow 50\% \rightarrow 71\%$ )、「生物学科」( $50\% \rightarrow 90\% \rightarrow 56\%$ )、「園芸農学科」( $82\% \rightarrow 71\% \rightarrow 27\%$ )、「生物資源学科」( $50\% \rightarrow 50\% \rightarrow 27\%$ )と推移しており、満足度の急落した学科(「園芸農学科」(「どちらとも言えない」の急増)がある点、学科間に満足度の差が大きい点などが特徴的である。

「どちらとも言えない」は「園芸農学科」(64%)、「生物資源学科」(56%)、「生物学科」(44%)、「分子生命科学」(14%) である。「かなり不十分・やや不十分」は、「地域環境工学科」(11%→20%→18%)、「分子生命科学科」(9%→0%→14%)、「園芸農学科」(0%→0%→9%)、「生物資源学科」が(13%→10%→0%)、「生物学科」(0%→0%→0%)であった。

#### 5. 研究室



図IV-10(5) 研究室

研究室について 3 か年で見ると、学部全体では「充分満足・ほぼ満足」( $54\% \rightarrow 61\% \rightarrow 56\%$ )、「どちらとも言えない」( $21\% \rightarrow 12\% \rightarrow 19\%$ )、「かなり不充分・やや不充分」( $25\% \rightarrow 27\% \rightarrow 25\%$ )と推移した。肯定的評価は 56%であり、半数近くの教員(44%)が「満足」しておらず、「どちらとも言えない」か「やや不十分」(合計 42%)と考えている。「かなり不十分」は 2%である。

学科別に「充分満足・ほぼ満足」を見ると、「分子生命科学科」(36% $\rightarrow$ 50% $\rightarrow$ 86%)、「地域環境工学科」(67% $\rightarrow$ 90% $\rightarrow$ 82%)、「生物資源学科」(67% $\rightarrow$ 60% $\rightarrow$ 50%)、「園芸農学科」(67% $\rightarrow$ 57%  $\rightarrow$ 45%)、「生物学科」(50% $\rightarrow$ 55% $\rightarrow$ 22%)である。満足度は「分子生命科学科」と「地域環境工学科」で高く、「生物学科」で低い。

「かなり不充分・やや不充分」は、「生物学科」(38%→45%→67%)、「生物資源学科」(22%→20%→40%)、「園芸農学科」(8%→43%→18%)、「分子生命科学科(36%→25%→0%)、「地域環境工学科」(22%→0%→0%)と推移した。

# ② 上記で「4. やや不充分」と「5. かなり不充分」を選択した場合、その理由を次の欄に具体的に書いて下さい。

#### [生物学科]

- ・図書閲覧室一「図書、雑誌が少ない。」
- ・実験実習室―「毎年同じ事を書き続けているが、実習室が狭く順回して指導するのが困難である。」、「学生全員に顕微鏡が行き渡らない。」、「狭い。」、「備品が足りない。」、「狭い (所属する学生数に対して)。」「学生実習器具、試薬などに十分な予算がついていない。」、「狭い、顕微鏡等の設備の不足。」、「前任者のレイアウトを変えるのが容易ではない。オープンラボにすべきである。」
- ・研究室―「研究室の引き継ぎの時点ですでに故障していた設備があった。」, 「書いても仕方がないが、研究室のスペースがない。」

#### [分子生命科学科]

- ・図書閲覧室―「関連図書がそろっていない。」
- ・情報処理室―「情報処理室が狭い。」

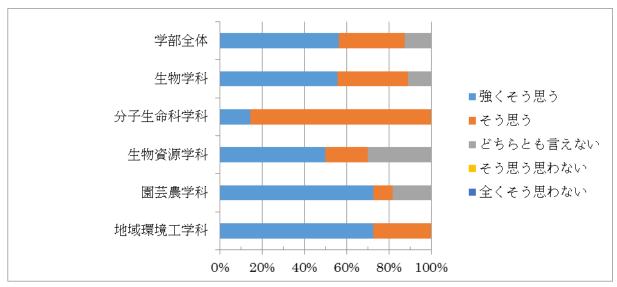
#### [生物資源科学科]

- 実験室─「実験室が狭い」、「前任の教員の勝手な設計のためにとても使いづらく、学生にもま ともな机を置いてやることができない。」,「スペースが狭くて不十分。」
- ・講義室―「講義室のスクリーンの位置を斜め左にして、黒板も同時使用とすべき。」、「黒板消 し等の充実が必要。」
- ・図書閲覧室―「本の質。図書室のドアと室内灯スイッチが合致していない。」
- ・実験・実習室―「実験・実習室は各学科で使用すべき。器具の充実等。スペースが狭く不十分。」 [園芸農学科]
- ・実験・実習室―「せまいうえに、閉鎖的な雰囲気。立ち入らない学生は立ち入る気にならない だろう。」、「スペースが充分とはいえない。学生数にあった充分なスペースの確保が必要 と考えます。」
- 講義室―「スクリーンを下ろすと黒板が使用不能になる。ホワイトボードをおいてほしい。」
- ・研究室―「学生が入りきらない。」

#### 「地域環境科学科〕

- ・情報処理室―「老朽化。パソコン起動が遅い。」
- ・図書室一「図書の数が少ない。」
- ・実験室―「実験施設がほとんどない。」

# 設問12. ① 卒業研究は必要であると思いますか。



図IV-11 卒業研究の必要性

3 か年で見ると, 学部全体で, 「強くそう思う・そう思う」(90%→86%→84%), 「どちらとも 言えない」 $(2\% \rightarrow 12\% \rightarrow 16\%)$ ,「そう思わない・全くそう思わない」 $(7\% \rightarrow 2\% \rightarrow 0\%)$ となった。 多くの教員が卒業研究は必要であると考えているが、その割合は僅かながら減少傾向にある。

学科別に見ると,「強くそう思う・そう思う」は,「地域環境工学科」(100%→100%→100%), 「分子生命科学科」(100%→63%→100%),「生物学科」(100%→100%→89%),「園芸農学科」  $(92\% \rightarrow 89\% \rightarrow 82\%)$ ,「生物資源学科」 $(67\% \rightarrow 80\% \rightarrow 70\%)$ , と推移した。

否定的評価は,前々回では「そう思わない」のみ「分子生命科学科」に 13%,前回は「園芸農学科」に「そう思わない」が 8%,「生物資源学科」に「そう思わない・全くそう思わない」が 22% 出た。今回は、「そう思わない・全くそう思わない」は 0%となった。

#### ②設問 12. ② 上記のように回答した理由を下欄に分りやすく記入して下さい。

1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

#### [生物学科]

- 1 アカデミックな学習環境を保つため。卒業研究が不要であれば、放送大学のような形態で良いだろう。
- 1 一連の研究を自ら考え、計画を立て、最後まで遂行することで、自主的に考え、行動するということを学ぶ事ができる。
- 1 一連の科学研究を成し遂げるプロセスは、社会に出ても重要であるし、役に立つと思っているから。
- 1 自分で考える力を養うために大変効果的
- 2 伸びるのを教員として実感する。ただし、卒業研究をしなくても卒業できるコースがあって もよいと思う。
- 1 論理的な思考方法の形成に必要である。
- 3 就職活動に影響が大きいので、必ずしも優先的に取り組める状況にないため。

#### [分子生命科学科]

- 2 社会に出たら1人で(場合によってはグループで)仕事を立案し,実行していくことになる。 卒業研究は,そのようなことをする初めての経験になる。
- 2 卒業研究は、いわゆる問題解決学習として、もっとも適切だと思います。
- 2 授業で得た知識が、どう研究でいかされるかを実感するには、短期間であっても卒業研究は 必要と感じる。
- 2 自分で考えて研究を進めプレゼンするトレーニングの場として必要。
- 2 まとめをすることで、学生に問題を把握する力、問題を解決する力、論理的思考能力、人に物事を伝える力がつき、意識が変わる。

#### [生物資源学科]

- 2 卒論を通して教育する
- 1 (個人人差はあるが) 机上の学問とは全く異なる次元の教育となり、得ると思われる
- 3 やる気の無い学生には無理にやらせる必要はない。
- 2 理系の学生として、卒業研究は必須なものと考えている。ただし、これは3人までが限度である。人数が増える場合は、能力的にすべての学生の卒論研究指導は不可能である。
- 3 卒業研究をまともに取り組めない学生が増えてきている。
- 3 卒業研究は PDCA サイクルを体験的に学ぶ事が出来るので、必要なかもうとは思うが、最近は「したくない」オーラがでている学生さんが増えているように感じるので。
- 1 考える能力,遂行能力,責任力の充実のため

- 1 自分で考え試して、得られた結果を分析すること、考えをまとめて書くことなど、座学や授業、実習では得られない重要なスキルが身につくため。
- 1 理系の大学のカリキュラムの中で最も重要なものだとおもうから。

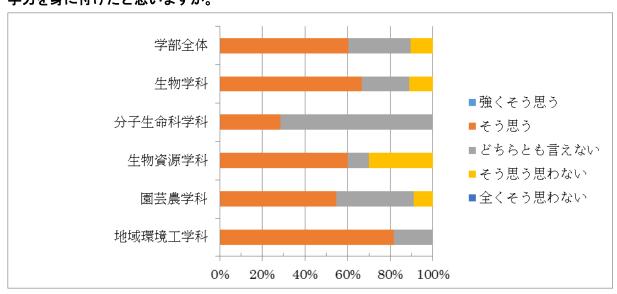
#### [園芸農学科]

- 1 達成度は別として、主体的に取り組む格好の機会となっているため。
- 1 企画・実施・総括・執筆・発表など、就職後に求められる仕事に通じる訓練となる良い機会となっている。
- 3 学生によっては、必ずしも充分な教育効果がえられないと感じるため
- 1 計画→実行→データまとめ→発表(文章化)のプロセスは、社会に出ても必要なスキルだから。
- 1 研究はどういうものかについて考えさせる機会
- 1 何かに取り組むという姿勢が必要だと思うから

#### [地域環境工学科]

- 2 総合力が高まる
- 1 学習の最終目標でもある。デザイン能力の発現!
- 1 学生の成長のため
- 2 課題発見能力につながる可能性がある。文章を書く練習になる。プレゼンの練習になる。
- 1 仕事にも役立てそう
- 1 何かを修めるコン跡となるから
- 2 総合的に思考することができるから

### 設問 13 ① あなたの学科の大多数の卒業生は、本学部での教育により大学卒業生としての知識と 学力を身に付けたと思いますか。



図IV-12 学部卒業生の知識と学力の修得

2 か年で見ると学部全体で、「強くそう思う・そう思う」( $72\%\rightarrow60\%$ )、「どちらとも言えない」 ( $16\%\rightarrow29\%$ )、「全くそう思わない・そう思わない」( $12\%\rightarrow10\%$ ) であった。60%の教員が、「卒業生は知識と学力を身に付けた」と考えている。

学科別に「強くそう思う・そう思う」を見ると、「地域環境工学科」(90% $\rightarrow$ 82%)、「生物学科」(64% $\rightarrow$ 67%)、「生物資源学科」(80% $\rightarrow$ 60%)、「園芸農学科」(67% $\rightarrow$ 55%)、「分子生命科学科」(63% $\rightarrow$ 29%)と推移している。「地域環境工学科」(82%)と「分子生命科学科」(29%)には、かなりの差が見られる。

「どちらとも言えない」(2 か年) は、「分子生命科学科」(25% $\rightarrow$ 71%)、「園芸農学科」(22% $\rightarrow$ 36%)、「生物学科」(27% $\rightarrow$ 22%)、「地域環境工学科」(10% $\rightarrow$ 18%)、「生物資源学科」(0% $\rightarrow$ 10%) と推移している。

「全くそうは思わない・そう思わない」は、「生物学科」( $13\%\rightarrow1\%\rightarrow11\%$ )、「園芸農学科」( $8\%\rightarrow11\%\rightarrow9\%$ )、「生物資源学科」( $33\%\rightarrow20\%\rightarrow0\%$ )、「分子生命科学科」( $0\%\rightarrow13\%\rightarrow0\%$ )、「地域環境工学科」( $0\%\rightarrow0\%\rightarrow0\%$ ) と推移した。

# ② 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合、その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

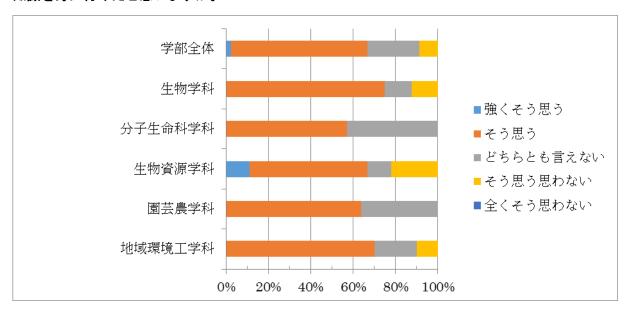
- 1. 学生に意欲がない 2. 学生の基礎学力不足 3. 講義内容が高度過ぎた
- 4. 教員に問題 5. その他( )

次IV 2 分(C) V (V なV 左田 (于工)				
理 由	回答数(学科)			
学生に意欲がない	3 (園芸農学1,生物資源1,生物学1)			
学生の基礎学力不足	6 (園芸農学 2, 生物資源 3, 生物学 1)			
講義内容が高度過ぎた	0			
教員に問題	3 (園芸農学 1, 分子生命 1, 生物学 1)			
その他	1 (園芸農学)			

表IV-2 身についていない理由 (学生)

2 か年で見ると、「学生の基礎学力不足」(2 人 $\rightarrow$ 6 人)、「学生の意欲がない」(1 人 $\rightarrow$ 3 人)、「教員に問題」(0 人 $\rightarrow$ 3 人)、「講義内容が高度過ぎた」(0 人 $\rightarrow$ 0 人)と推移した。「その他」(自由記述欄)には、「指導に充分な時間・労力を割けない場合があるため」(園芸農学)との記述があった。

# 設問 14 ① あなたの学科の大多数の修了生は、本研究科での教育により大学院修了程度の専門知識を身に付けたと思いますか。

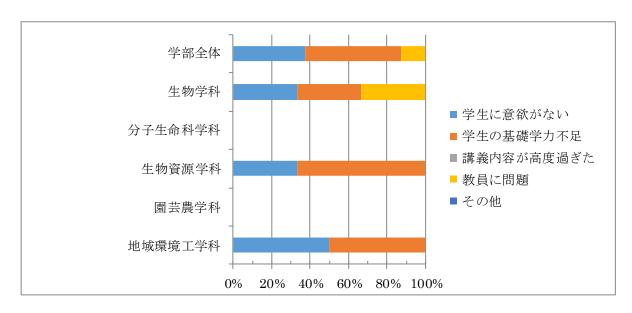


図IV-13(1) 修士修了生の専門知識の修得

2か年で見ると、研究科全体では、「強くそう思う・そう思う」(57% $\rightarrow$ 74% $\rightarrow$ 67%)、「どちらとも言えない」(31% $\rightarrow$ 21% $\rightarrow$ 24%)、「全くそう思わない・そう思わない」(4% $\rightarrow$ 4% $\rightarrow$ 9%)であった。大学院修了生は「専門知識を身に付けた」と見ている教員は、74%から67%へと減少した。

学科別に見ると、「強くそう思う・そう思う」は、「生物学科」(75% $\rightarrow$ 100% $\rightarrow$ 75%)、「地域環境工学科」(89% $\rightarrow$ 90% $\rightarrow$ 70%)、「生物資源学科」(78% $\rightarrow$ 89% $\rightarrow$ 67%)、「園芸農学科」(42% $\rightarrow$ 63% $\rightarrow$ 64%)、「分子生命科学科」(55% $\rightarrow$ 47% $\rightarrow$ 57%)と推移した。「生物学科」・「地域環境工学科」・「生物資源学科」では、昨年度より「強くそう思う・そう思う」の割合が減少した。

② 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合、その理由は何ですか. 以下の中から選んで下さい。



図IV-13(2) 修士修了生が専門知識を修得できなかった理由

上記の棒グラフを表にまとめると,下記のようになる。

表IV-3 修士修了生が専門知識を修得できなかった理由

理 由	回答数(学科)
学生に意欲がない	3 (地域環境 1, 生物資源 1, 生物学 1)
学生の基礎学力不足	4 (地域環境 1, 生物資源 2, 生物学 1)
講義内容が高度過ぎた	0
教員に問題	1 (生物学1)
その他	0

大学院修了生に専門知識が身に付いていないと判断した教員は、「学生には基礎学力が不足している」、あるいは「学生には意欲がない」と見ている。その他(自由記述欄)への記載はなかった。

# V. アンケート調査結果に対する各学科の見解 生物学科

学科の教育目標がカリキュラムに合致しているかに対する肯定的回答の割合は今年度はあまり 高くなかった。学部は来年度から改組になるため、この辺は今後どうなるか注意深く見ていく必 要がある。学科教員の講義・実習・演習などにおける指導や対応への満足度については肯定的回 答が約70%で、まずまずの評価だった。学生が講義や演習の受講に当たり1日平均どの程度の時 間を予習や復習にあてているかの質問に対しては、30分未満が約20%、30分から1時間未満が約 30%、1時間以上2時間未満が約40%、2時間以上が約10%であった。これは、おおよそ学生が日々、 予習、復習をしながら、つまり日々授業を理解しようと努力しながら試験にのぞんでいることを 示している。印象に残った授業の中で多かったのは、生態学野外実験と臨海実習であった。宿泊 実習の形態が学生のよい評価となっていることがうかがえる。施設の満足度に関しては、図書館 について不充分と答えた学生の割合が少なかったが、実験・実習室については不充分と答えた学 生の割合が5学科中、最も高かった。理由としては顕微鏡の破損や実験器具の不足があげられてい た。これについては今後改善が必要である。なお、来年度以降は改組になり、すぐにではないが、 より広い分子生命科学科の実験室で他学科と顕微鏡を共用しながら生物学科の主要なカリキュラ ムの実験(生物学実験 IとII)が行われる予定なので、改善が期待される。学生が最も長期に渡 って指導を受けながら研究に携わる卒業研究に対する満足度は約80%であり、まずまずの評価だ った。早急に改善すべき点として回答の割合が多かったのは「研究・教育設備」の割合で、約20% と5学科中一番大きかった。一方「学生に対する教員の指導」については約10%未満であり、5学 科中2番目に低く、問題ないと感じられた。「研究・教育設備」について不満を感じる割合が相 対的に多いという結果は、本学部・学科の総合的な満足度に対する肯定的回答の割合がそれほど 大きくなかった(約60%)ことにも反映されていると考えられる。このように教育・研究のソフ ト面よりもハード面での充実を求める割合が多く、今後改善が可能なものについては改善を図っ ていく必要がある。

大学院はコースごとの集計がないが、修士研究に満足しているかや総合的に判断して研究科・コースの教育・研究に満足しているかの質問に対して約75%が肯定的な回答だったことから、学生指導については大きな問題がないと考えられる。また、集計データから、学生は修士課程においても学部のときと同様に、日々、予習、復習する時間を設け、授業を理解したり、課題に対応する努力をしていると感じられた。なお、授業の中で、特にプレゼンテーション演習IIについては、課題量が多いという意見が結構見受けられたので、今後、検討が必要であると思われる。

(平成27年度学科長 葛西身延)

## 分子生命科学科

学部卒業生からの回答について。回答率は前年より 20%以上高くなり、これはアンケート回収 の努力が奏功したと思われる。入学者受け入れ方針であるアドミッションポリシー(AP)を知って いると答えた学生は 25%に満たない。つまり学生の大半はこちらがやろうとしている教育を知らないまま大学に入った事になる。AP は学生募集要項に記載されており、この質問は例年では 4割

程度が知っていると回答している。今回の卒業生はいわゆる大震災直後の入学生であるが、他学科ではそのような減少は見られない。当学科は教育研究内容などから医学・医療系志望受験生の第二志望または滑り止めにマークされることも多く、教育内容を見ずに偏差値だけで受験する学生も多いという状況が透けて見える。大学生の修学を充実させる対策の第一歩は、高校生との情報交換から始まると思われる。また、アンケート回答にはそのような、中身をよく知らないで入ってきた学生の感想も混じっていると解釈すべきであろう。

教育目標とカリキュラムの整合性、シラバスによる授業導入、さらに専門教育の満足度については6割以上が肯定的である。教員の指導については約半数の学生が満足している。不満足の主な原因としては学生側のモチベーションの低さ、消極性が根底にうかがわれる。中身をよく調べないで入った学生が7割以上いたわりに満足度が低くないのは、在学中に自らを啓発する機会に恵まれたと推定できる。そのような機会を増やすことが、今後の教育の目標であろう。成績評価については全般に受動的であり、結果に対する執着の少なさがうかがわれる。

学生の自習時間については2時間以上と答えた学生が6%と学部では高い方であるが、30分未満と回答した学生も2割以上いた。これは卒業生アンケートなので、それでも卒業できたことはむしろ教員側の努力の成果と言える。ただ、それらの学生はそもそも学業に高いモチベーションを有していたとは考えにくい。一方で実験・実習に対しては否定的な回答が見られず、どの学生も高い充実感を得ていた。

学生生活に関しては、大学が用意する様々な学生支援窓口を利用したことがないという回答が7割近くあり、学部の中で最も多い。進路に関しても、4割以上の学生は大学側窓口を利用せずに決めており、指導教員と相談した割合が学部で最も低い(10%以下)。他方で本学部の進路支援に対する取り組みに否定的な回答をした学生が4割を超え、学部内で最も高かった。これらを総合して考えると、進路指導について学生は教員に何か相談しにくい印象を持っていることが根源にあるのかもしれない。

施設面に関しては学科として特異な傾向は見られず、概ね学部全体の傾向に同調している。夏場の暑さ、冬の教室の寒さに閉口した記述が目立つ。気候の異常にもかかわらず夏冬の授業終了が遅れ込んでおり、困ったと言うしかない。

様々なモチベーションで入学したと思われるにも関わらず、卒業する時には8割程度が卒業研究に満足し、6割以上が学んだことが役に立ったと答えたことは、それなりに大学教育の成果ではなかろうか。最も早急に改善すべき点として「教員の指導」という回答が2割近く、学部で最も多い。一方、教員にしてみれば、後述の教員アンケートで学生の専門教育の習熟度に対する評価が学部で一番低いという結果が出ている。教員も学生も、互いに相手からの期待を満たしていない状況が見えてくる。教員と学生の間で、よりコミュニケーションの機会を増やす必要があると思われる。

大学院修了生からの回答について。教育目標、アドミッションポリシーについて6割が知っていると回答しており、学部より高い。コースで受けた教育については6割程度が肯定している。個々の授業科目ではプレゼンテーション演習に対する感想が良かれ悪しかれ目立った。修士研究に対しては全体では75%が満足しており、教員の指導については8割の学生が肯定的に評価していた。研究科に対する大きな不満足・要望は認められないが、個別記述から、研究生活と就職活動との両立に苦しんだことがうかがわれた。

教員からの回答について。学科の教育目標、アドミッションポリシーの理解、シラバスと授業

の整合性など、特に大きな問題は見られない。ただ、学生による授業評価の信頼性について、肯定的な回答が学部で最も少なく(3割以下)、「評価が低くても現在の講義内容を続ける」という回答が14%と学部で最も高い。アンケートそのものに懐疑的な教員が少なくないことが示唆される。一方で学科主催のFD活動は学部で最も多く開いており、学生に無関心でいるわけではない。学生アンケートから学生の自習時間の減少が浮き彫りにされているが、勉強も十分せずに授業がわからないという資格があるのか、という疑義を率直に反映しているようにも見える。授業に対する教員の頑なな姿勢は、これ以上に授業の質を低めることへの危機感の反映かもしれない。一方、学生アンケートでは、難易度が高く苦労の多かった授業が、最も印象に残った授業として挙げられているので、一定の教育効果は認められる。学生が大学卒業生としての知識と学力を身に着けたかという質問には、肯定的な回答が3割以下と、学部で最も低い。大学院修了生に対しては同じ質問の肯定率が6割近くまで上がっている。学部学生に高い期待を抱きながらも、就活等に多くの時間を奪われ十分な専門教育を行えない現況に、教員はもどかしさを感じていると思われる。(平成27年度学科長 吉田孝)

# 生物資源学科

教育目標に対する認知度は昨年に比べてやや減少したが、アドミッションポリシーの認知度は 昨年とほぼ同様であった。アドミッションポリシーの認知度は、昨年とほとんど変わっていない とはいえ、かなり低く、ガイダンス等において学生の記憶に残るような提示の仕方を検討する必 要がある。

学科の専門科目の満足度、および教員の講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応についての満足度は学部平均より高かった。卒業にあたり大学卒業者として知識や学力を身につけたかの問いについては、本学科は「強くそう思う」と「そう思う」の合計が学部平均の45%程度であり、学生の知識・能力を向上させる教育についての検討が必要と考えられる。

履修した科目の成績評価への疑問もった学生の数は昨年より増加し、他学科に比べて多かったが、実際に問い合わせをした者はいなかった。疑問を持った場合には問い合わせが可能であることを周知する必要がある。

講義や演習に対する予習、復習にあてた時間については学部平均とほぼ同じ傾向であるが、1 日に予習、復習にあてた時間が30分以下の学生が4分の1程度おり、自主的な学修を促していく 必要がある。

講義室、実験・実習室、情報処理実習室の設備について本学科では満足度は高い。とくに研究室の設備については学部中最も高い満足度であった。

卒業研究の満足度については「強くそう思う」と「そう思う」が90%近くを占めた。ただし、「そう思わない」も数%あることから、その解消に向けて今後検討する必要がある。

卒業の進路先について、本学科では「専門関連の企業」に就職した学生の割合が地域工学科、 園芸農学科に次いで高いが、大学院進学者の割合は地域環境工学科についで少なく、大学院進学 により専門を活かした就職を目指す方向を アピールしていく必要がある。

総合的な満足度は、「そう思う」が80%と他学科と比べて高く、当学科の取り組みに対する評価は高いといえる。しかし、数%とはいえ、満足していないという学生もおり、さらに改善していく必要があろう。

# 園芸農学科

まず学部学生に対するアンケートについてみていきたい。園芸農学科の回収率をみると、平成24年度から25年度にかけて低下したが、昨年度は100%の回収率であり、5学科中最高の数値であった。これは依頼した教員と学生の協力の賜である。また、大学院学生に対するアンケートについて回収率をみると母数が7人と少ないが71%と研究科平均よりも低くなっている。

学部および学科の教育目標等に関する認識では、学部の教育理念等と学科のアドミッションポリシーについて知っている学生は学部平均と同じ水準であるが、学科の教育目標に関する認識では、地域環境工学科に次いで高い認識度となっている。また、学科の教育目標に 21 世紀教育および専門教育科目の学科カリキュラムが合致しているかどうかについては、そう思うと回答した学生が生物資源学科と同様に高くなっている。その理由としては、農業全般に関して幅広く学べるカリキュラムおよび科目と、科目名と内容が一致していることが多くあげられている。

年度初めのガイダンスが適切かどうかに関しては、学部平均よりも適切と回答した割合が低くなっている。また、シラバスが受講科目の選択や授業の全体的な構成の把握に役立っているに関しては、学部平均よりも低くなっている。以前のようなシラバスの記載漏れ等は生じていないため、内容の充実が必要である。

園芸農学科でうけた専門教育への満足度は、全学科中で最も高くなっている。その理由をみると、学科カリキュラムの構成や講義等における教員の工夫がプラスに大きく影響していることがわかる。また、園芸農学コースと食農経済コースの連携が適切に行われていることを評価する意見もみられた。

教員の指導についてみると、肯定的な評価が学部平均と同程度になっている。その理由では、 講義や卒業研究での丁寧な指導を指摘する意見が多く見られた。成績評価の結果に疑義や異議を 持った割合は4分の1であり、昨年度と同じ割合であった。また、疑問や異議があったときに学 部教務に問い合わせを行った割合は低く、学生にとって成績に関する問い合わせは行いにくいよ うである。

学生自身の主体的な学修に関しては1日平均の予習・復習時間で1時間未満が8割を占めているが、多くは感覚的な時間の把握であると考えられるため、厳密な把握方法の開発が求められているかもしれない。

学生からの相談・苦情を受け付ける窓口としては、指導教員との面談および学生総合相談室の割合が高く、学生生活に関する相談窓口では指導教員との面談の割合が他学科より際だって高くなっており、講義や卒業研究でも指摘された学科教員の丁寧な対応が学生生活等でも効果を上げているといえる。

(平成27年度学科長 泉谷眞実)

## 地域環境工学科

まず卒業生のアンケート回収率が従来と異なり90%を上回る大変良好な結果となった。各指導 教員が適切に指導した結果と思われる。 学部・学科の教育目標等の認識は、例年通り他学科よりも高い認識状況である。JABEE 認定を受けていることを踏まえ、入学直後から学びの手引きを用いたガイダンスを適切に行っている成果と判断できる。しかし、学科の教育目標とカリキュラムの合致については、例年と異なり肯定的な回答が70%と低くなった。学科ガイダンス内容についても肯定的な回答が60%近くに低下している。いずれについでも、肯定的な回答の低下を招かないよう、ガイダンス内容がすべての学生に伝わるよう再点検することが望まれる。シラバスについては肯定的な回答が80%を少し下回ったものの、授業における教員指導については学部内で唯一80%を上回っていて、卒業研究についても肯定的な回答は80%を上回り、学生に充実した教育を提供していることが分かる。成績評価に対する不満も学部で唯一20%を下回っているものの、成績に不満を持つ学生から「たらい回しにされた」という回答が存在することは、詳しい事情が不明であるとはいえ、問題である。

学生の主体的学習に関して、授業時間外の学習時間が1時間以上は過半数に達していないし、 主体的とは言えない回答が散見されるので、引続き主体的な学習意欲を持ち、予習・復習をしっ かり行うような指導と授業運営が望まれる。

学生の学習環境については、教員の相談体制については、学業の相談窓口で教員との面談が過半数を上回る回答率であるなど、学生指導がていねいに行われていることを示している。施設・設備的な面では、全体に否定的な回答は目立たず、秀でた環境とは言えないものの大きな問題点は有していないものと判断できる。

卒業後の進路との関係では、カリキュラムも進路支援への取組みも70%前後の肯定的な回答を得ている。また、大学卒業者として修得した知識・学力について60%が肯定的な回答である。そして70%近くが教育活動について特に問題はないと判断しており、総合的判断でも肯定的な回答が80%であり、本学科の教育活動について、学生から肯定的に評価されている。

修士課程の教育活動については、そもそも進学者が少数であることがまず問題である。アンケートについては、コースごとの回答結果が示されておらず、また当コースの回答者は1名のみであるので、アンケート結果に即した判断は困難であるが、在籍者に対しては、学部と同様に、しっかりとした教育活動を行っている。

教員対象のアンケートでは、まず回答率が 100%であり、当学科教員の教育への責任感を示している。

授業実施では、規定回数に達しない授業が皆無であり、休講時には必ず補講を実施している。 また、授業実施に際し、シラバス通りの授業を行っている回答が少なく、常に教育改善を意識していることがうかがえる。授業の工夫も視覚的な教材の活用をはじめ、多様な工夫が行われているし、試験・レポートを学生に返却し成績評価への疑義を解消する努力も行われている。

教員の教育評価でも、本学科教員が、学科の教育目標とカリキュラムとの関係を強く意識して授業運営していることがいずれの設問からもうかがえる。また、小試験や予習・復習を学生に課す比率が他学科に比べ著しく高い。ただし、FDへの参加頻度は特段多いわけではない。施設・設備については、一部否定的な回答も存在するが、概ね一定水準には達していると評価している。卒業研究の必要性は学部で最も強く意識しており、卒業生の質についても学部で唯一肯定的回答が80%を上回っている。修了生の質については、学部卒業生よりは肯定的な回答が下がり、学生の意欲と資質に疑問を有している教員が存在している。修士課程定員充足率が著しく低いことが誘因となっている可能性がある。

以上より、当学科では、総じて、教育実施に対して努力を継続し一定水準の成果を上げている ことが、例年通り今年度についても判断される結果であった。外部から認定を受けている教育プログラムを有し、その運営に努めている成果である。

(平成27年度学科長 藤崎浩幸)

# VI. 教育改善委員会(平成 26 年度教育改善にむけたアンケート調査についての意見) 学部卒業時・研究科修了時学生対象教育評価アンケートについて

(1) 学部・研究科の教育理念,教育目的,教育目標,学科の教育目標,アドミッションポリシーについて

学部の教育理念,教育目的,教育目標の認知度は,学科により40%強~70%強と大きな開きが生じているが,学部全体では50%強で昨年度と大きな変化はなかった。学科の教育目標の認知度は,学部全体では60%強と昨年度と比べて若干減少した。今年度は学科による差は大きくなった。アドミッションポリシーの認知度は,学部全体では40%弱で昨年度と変わりはなかったが,学科間で大きな差が見られた。学科の教育目標とカリキュラムは,学科によって55%~75%と昨年度に比べて小さかったが,学部全体では66%が合致していると回答している。認知度および評価の低かった学科においては,入学時教育やガイダンス時における教育理念,目的,目標,アドミッションポリシー等を十分に説明することが求められる。

研究科の集計はコース毎ではなく研究科全体として行われた。研究科の教育目的および目標の認知度は昨年度の76%から本年度は71%と5%低下した。アドミッションポリシーの概要について76%が「知っている」と回答し、昨年度より8%上昇した。学生の受入れ方針についての認知度は昨年度と同じように60%強であった。大学院説明会等での紹介の成果であると思われる。

## (2) ガイダンス、シラバス、専門教育に対する満足度について

ガイダンスの内容は、学部全体で昨年度と同様の60%程度であった。昨年度は学科によって50%弱~90%強と大きな差があったが、今年度は50~60%とあまり差はなかった。ガイダンスにおける説明にはまだ工夫が必要と考えられる。シラバスの有用性に関しては、昨年と同様学部全体のほぼ80%強で肯定的な回答が得られている。学科別に見ても肯定的な回答が低い学科でも70%を超えている。改善を徹底することによって内容が充実し、学生の科目選択に有効に機能するように努める必要があると考えられる。専門教育に対する満足度は、学科による開きは65%~81%であるが、学部全体で73%と昨年度とほぼ同じであった。学科の教育目標とアドミッションポリシーの整合性の向上が現れていると考えられる。

研究科におけるシラバス内容については、昨年度の76%から86%と10%上昇した。研究科においては、所属コースでの満足度が昨年度の60%とほぼ同じ61%で、改善の傾向が見られた。

#### (3) 教員の指導や対応について

教員の指導や対応に対する評価は肯定的な意見は昨年度とほぼ同じ63%であった。学科間の差も昨年度と同様,46%ら83%と大きな差が見られた。学生の意見には教員の対応を評価するものと批判するものが見られ、学科によっても大きく異なっていた。一方で、教員による対応の差や対応不足などを指摘する意見もあり、学部あるいは学科でのFD活動を通して継続的な検討が必要と思われる。

## (4) 成績評価について

成績評価に対し疑問や異議を持つ学生の割合は28%と昨年度に比べて4%低下した。成績評価に 疑問を持った学生の大半が問合せをしなかったり、問合せの方法を知らない学生も多くいた。一 方、学生が教員や教務へ問合せをしても、ほとんどの学生が満足していなかった。このことにつ いては、教員の説明不足によるかは不明であるが、十分に注意する必要がある。成績評価に対す る学生の疑議を解消ためには、対処の具体的な手続きを学生に十分に周知し、それに対する教員 側の対応が必要である。

#### (5) 講義への取組みについて

講義への取組みに関して、1日の学習時間(予習と復習)についての質問項目では、例年のように全体的に学習時間は非常に短い。授業科目の1単位についての規定を理解していれば、当然、1日の学習時間は最低でも3~4時間になる。予習・復習を含めた授業に対する学生の意識改革を促すとともに、学生の学習意欲の向上策を指導していくことが教員に求められる。

実験・実習に対して、全体的には学生が積極的に取組んでいることが分かる。また、一部批判的な意見もあった。学科を問わず云えることは、グループでの取組み、チームワーク、コミュニケーション等の重要性から、仲間との共同作業が上手く作用していると思われる。このような学習の仕組みは専門教育に対する学生の意識向上と主体的な学習意識の醸成に良い結果をもたらし、実験・実習と講義の連動性が学生の主体的な学習意欲の形成のきっかけとなることが予想される。

## (6) 施設等に関して

本学部図書室の所蔵図書に対して「不十分」との回答が約70%、「図書室を利用しない」は64%であった。図書よりはインターネット検索による調査が、自宅や下宿から容易に利用できることによると推察される。図書室は、図書の利用よりは概ね自習室としての利用が主であるように思われる。4年生や大学院生はインターネットで論文等のダウンロードしており、図書館・図書室の利用は極端に減少している。

学部として多少なりとも施設の改善に努力はしているが、例年同様、冷暖房に関する要望が多かあった。実験室や廊下の照明については労働安全・衛生に直結する問題であり、その内容を検討する必要はある。また、設備の新設や更新などすぐに対応が難しいハード面の対応は大学本部との交渉も必要であり、今後の検討課題である。

#### (7) 卒業論文研究・修士論文研究ついて

学生の卒業論文研究に対する満足度は84%,修士論文研究に対して76%であった。卒論や修論の研究課題について主体的に取組んだ貴重な体験が満足感に繋がったものと考えられる。しかし、一部の学生は否定的な評価をしている。その理由はカリキュラム上の「卒業論文研究」と「修士論文研究」に対するものではなく、個人的感情によるものが多く、指導教員の努力で解決するものと思われる。しかし、全体として、卒業論文研究及び修士論文研究に対して学生が高く評価しており、学部及び研究科での教育におけるこれらの研究科目は、講義による知識の修得だけではなく、課題に対して実験や演習を通して総合的な問題解決能力を育成する上で有効であるとの認識に至った。

## (8) 学部・研究科の教育のあり方について

卒業生,修了生としてふさわしい教養や専門知識を十分に身に付けていない学生も多くいたが,約40%以上の学生は身に付けたと認識している。学生に専門知識の重要性を認識させるためにも学習意欲の醸成に向けた対応が必要である。学部及び研究科において、教育・研究への取組みに対して70%以上の学生が満足している。しかし、指導方法や授業方法、教育研究設備、経済支援制度、成績評価の方法などについてはまだ改善を要するものもあり、今後、学部・研究科の教員が一体となって検討し、向上を図っていく必要がある。

# 教員対象授業アンケートについて

## (1)授業の実施方法について

学部の授業科目において、授業の実施回数は15回以上実施した教員は昨年よりも10%上昇した。 一方、休講した場合は何らかの方法で補講しているが、全くしなかった教員が昨年よりも増加した。大学院の授業では、学部にくらべて若干実施回数が減少している。教員は大学院生が学部学生よりも自主的な自己学習が重要と考えているようである。今後この点に関しても検討・改善する必要がある。

## (2) 授業内容とシラバスとの一致について

シラバスが学生の受講・教育に有効であることから、教員は授業内容の改善に努めているが、前年度と同様に、シラバス内容の大幅な変更はなかった。学部全体で40%の教員がシラバスの一部変更を行ったが、変更による教育効果の向上はあまりみられなかった。授業内容について、大半の教員は学生のレベルを考慮しながらも、専門性を重んじて講義し、教育改善に努めている。大学院での講義の場合は、ほとんどシラバスの内容に従って実施されている。

## 教員対象教育評価アンケートについて

(1) カリキュラムやシラバスが学科・専攻コースなどの教育目標に合致しているか

シラバスは教育目的・目標に従って作成されており、また、授業はそのシラバス内容と異なる ことを極力避けるとともに、ある程度の変更により良い授業にするように努力している。

大学院の場合、平成24年度に新研究科に改組され、今年度は丁度3年が経過し、ほとんどの教員が研究科の理念、教育目的・目標、アドミッションポリシーを認識している。

#### (2) 「学生による授業評価」の捉え方について

「学生による授業評価」についての捉え方は学科により大きく異なっているが、今年度は全体としては学生の評価を概ね妥当と捉えており、教員は学生の授業評価アンケートが教育改善には有効であると解釈している。しかし、学科また教員により捉え方に大きな差があるのも事実である。自己評価委員会/教育改善委員会が開催する「アンケート調査・報告会」への参加が教員の教育改善につながることから、FD活動への積極的な参加が必要である。

## (3) FDについて

今年度は、学部主催の報告・講演会などFD活動は5回実施され、1回以上FD活動に参加した 教員が91%であった。FD活動の参加は教育改善に効果があると認識に至ってはいるが、実施時 期・時間帯で都合が悪く出席できなかった教員もいた。大学全体のFD活動への参加は全体で20% で非常に少なく、昨年と同様、学部・学科のFDとの温度差はまだ見られた。

## (4) 学生の学習促進について

昨年度と同様,多くの教員は学生の授業時間以外学習の促進に向けた対応として,授業中に「ロ頭での予習・復習の呼びかけ」、「小試験」、「課題を課す」等を実施している。しかし,学生の「1日の学習時間」はアンケートからも分かるように,授業以外の学習時間はそれほど長くない。教員が学生への予習・復習を呼びかけても,学生のほとんどが何をして良いか理解できないでいるのかもしれない。より一層の学習意欲向上と自発的な学習が重要であることから、学生の学習促進策の検討が今後の課題でもある。

(平成27年度委員長 大町鉄雄)

# 弘前大学農学生命科学部・農学生命科学研究科 「平成 26 年度 教育改善に向けたアンケート調査報告書」編集担当者

平成 27 年度 農学生命科学部 自己評価委員

 生物学科
 石田 清(Ⅱ担当)

 分子生命科学科
 吉田 孝(Ⅱ担当)

生物資源学科 戸羽 隆宏 (I-11~19 担当,編集責任者)

 園芸農学科
 武田 共治 (Ⅳ担当)

 地域環境工学科
 檜垣 大助 (Ⅲ担当)

生物共生教育研究センター 房 家琛 (I-1~10担当)